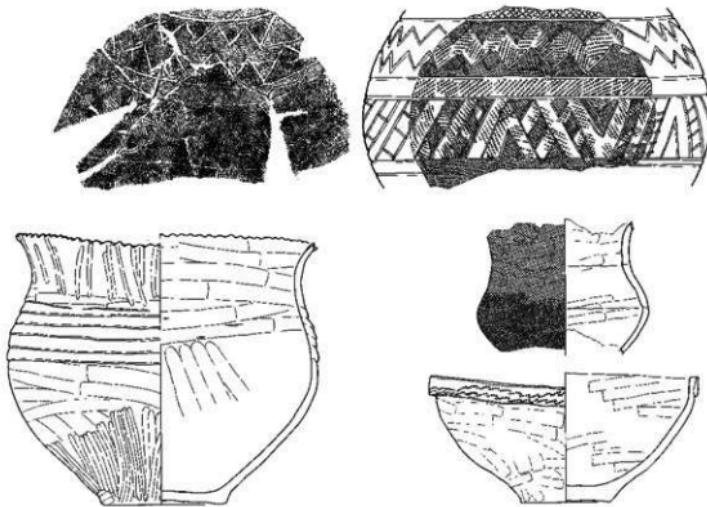


千葉県八千代市

## 平沢遺跡e地点

—福祉施設建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—



平成28年度

社会福祉法人鳳雄会  
八千代市教育委員会

## 例　言

1. 本書は、八千代市教育委員会が平成 27～28 年度民間開発等埋蔵文化財調査事業として実施した発掘調査の報告書である。この調査は福祉施設建設に伴うもので、事業者である社会福祉法人鳳凰会の委託を受けて実施した。

2. 調査を行なった遺跡は平沢遺跡 e 地点（遺跡 No. 217）で、所在地は八千代市上高野 151-4、152-1 である。

3. 調査及び整理は以下のとおり実施した。

確認調査 平成 27 年度市内遺跡調査事業として、国庫及び県費の補助を受けて実施した。

期間 平成 27 年 7 月 17 日～7 月 31 日 面積 472 m<sup>2</sup> / 4,860 m<sup>2</sup> (担当: 藤 直行)

本調査 期間 平成 28 年 1 月 6 日～6 月 15 日 面積 2,635 m<sup>2</sup> (担当: 藤)

本整理 期間 平成 28 年 7 月 4 日～平成 29 年 3 月 24 日 (担当: 藤)

4. 出上した遺物のほか、写真・図面等の調査資料は八千代市教育委員会が保管している。

5. 調査参加者は以下のとおりである。

本調査 池山史華、石井友菜、石田 香、板橋三郎、内田紀子、大倉志子、片山敬太、桂田 肇、桐原 誠、星坂雄志、小弓場直子、佐藤悠登、鈴木一代、鈴木宏和、作山裕香、高木秀夫、谷川春菜、高橋宏昂、鳥羽良子、豊田俊吉、長瀬吉太朗、長妻和佳、野本雄太、橋本喜正、長谷川恵理子、林 和也、濱田友美子、原田雪子、蛭間裕子、福田浩子、松村山美、松本康太郎、八幡奈緒子、山田藤子、山本みつ江 (あいうえお順)

本整理 石井友菜、小弓場直子、鈴木宏和、高橋宏昂、長谷川恵理子、濱田友美子、林 和也、松本康太郎、八幡奈緒子、山下千代子 (あいうえお順)

6. 本書の遺物実測図作成は石井・小弓場・鈴木・高橋・藤・長谷川・濱田・松本・八幡・山下、トレースは小弓場・藤・八幡・山下が行ない、図版作成は鈴木・藤・林、遺物観察表は石井・鈴木・高橋・藤・林・松本、遺物写真撮影は藤、編集・執筆は藤・林が行なった。

7. 発掘調査の遂行および報告書の作成にあたって植木雅博、尾崎沙羅、小林 崑、峰村 蘭の各氏にご教示を賜った。厚く御礼申し上げる。

## 凡　例

### 1. 本書における遺構実測図の用例

- (1) 図中における方位は世界測地系による公共座標に基づく。
- (2) 縮尺率は以下のとおりである。

　　豎穴建物跡 1/80, 炉跡 1/40, 溝跡 1/400, ピット 1/10, 遺物微細図 1/10

- (3) 豊穴建物跡の計測では豎穴壁の上端間の長軸長・短軸長・深さを測ることが一般的である。しかし、今回検出された弥生時代の豎穴建物跡には豎穴壁の外側に浅い掘り込みがなされたものが多く、上記の方法をそのまま適用することは難しい。そこで今回は浅い掘り込みを上部、豎穴壁を下部として分け、上部の数値については下部の数値の次に括弧内にて表記した。

　　例　規　　模：長軸 5.91m(7.00m), 短軸 4.62m(6.17m), 深さ 0.58m(0.77m)

- (4) 豊穴建物跡で検出された焼土範囲をセクション図で示しているが、この焼土範囲はおよその検出された層位を示したものであり、厳密なものではない。
- (5) スクリーントーンの用例  
　　豎穴建物跡の焼土範囲・炉跡の被熱面 ■■■
- (6) 遺構の切り合い関係については、4 P が 10 号豎穴建物跡に壊されていた場合、以下のように表記した。  
　　例　4 P < 10 号豎穴建物跡

### 2. 本書における遺物実測図の用例

- (1) 縮尺率は以下のとおりである。

　　旧石器時代：石器 1/1

　　縄文時代：土器拓影図 1/3

　　弥生時代：土器実測図 1/4, 十器拓影図・十製品・石製品 1/3

- (2) 実測した上器については遺存範囲を表現した。
- (3) 口径や底径といった寸法を復元した場合は遺物観察表の数値を括弧で括った。
- (4) スクリーントーンの用例  
　　土器の赤彩部分 ■■■

- (5) 胎土の観察にはデジタルマイクロスコープ（秀マイクロンプロ）を使用し、倍率 150 倍で観察を行なった。

## 本文目次

例　　言

凡　　例

本文目次

### 第1章 調査経過および平沢遺跡の概要

第1節 調査に至る経緯と調査の概要	1
第2節 平沢遺跡の概要	2

### 第2章 検出された遺構と遺物

第1節 旧石器時代	7
第2節 繩文時代	7
第3節 弥生時代	9
第4節 中世以降	69
第5節 繩文時代～中近世	71

報告書抄録

卷末

## 挿図目次

第1図 平沢遺跡と周辺の遺跡

第3図 調査区と検出された遺構

第5図 旧石器時代の遺物

第7図 1号堅穴建物跡（1）

第9図 2号堅穴建物跡（1）

第11図 3号堅穴建物跡（1）

第13図 4号堅穴建物跡（1）

第15図 5号堅穴建物跡（1）

第17図 6号堅穴建物跡（1）

第19図 7号堅穴建物跡（1）

第21図 8号堅穴建物跡（1）

第23図 8号堅穴建物跡（3）

第25図 9号堅穴建物跡（2）

第27図 10号堅穴建物跡（2）

第2図 平沢遺跡の各調査地点

第4図 基本層序

第6図 遺構外出土の調文土器

第8図 1号堅穴建物跡（2）

第10図 2号堅穴建物跡（2）

第12図 3号堅穴建物跡（2）

第14図 4号堅穴建物跡（2）

第16図 5号堅穴建物跡（2）

第18図 6号堅穴建物跡（2）

第20図 7号堅穴建物跡（2）

第22図 8号堅穴建物跡（2）

第24図 9号堅穴建物跡（1）

第26図 10号堅穴建物跡（1）

第28図 11号堅穴建物跡（1）

第 29 図	11号堅穴建物跡 (2)	第 30 図	12号堅穴建物跡 (1)
第 31 図	12号堅穴建物跡 (2)	第 32 図	12号堅穴建物跡 (3)
第 33 図	13号堅穴建物跡	第 34 図	14号堅穴建物跡
第 35 図	15号堅穴建物跡 (1)	第 36 図	15号堅穴建物跡 (2)
第 37 図	16号堅穴建物跡 (1)	第 38 図	16号堅穴建物跡 (2)
第 39 図	17号堅穴建物跡	第 40 図	18号堅穴建物跡 (1)
第 41 図	18号堅穴建物跡 (2)	第 42 図	18号堅穴建物跡 (3)
第 43 図	19号堅穴建物跡	第 44 図	20号堅穴建物跡 (1)
第 45 図	20号堅穴建物跡 (2)	第 46 図	遺構外出土の赤生土器
第 47 図	1号溝跡・2号溝跡 (1)	第 48 図	1号溝跡・2号溝跡 (2)
第 49 図	2P・3P・5P・6P	第 50 図	8P・9P・10P
第 51 図	11P・13P	第 52 図	14P・16P・17P
第 53 図	19P・20P・22P	第 54 図	23P・25P
第 55 図	26P・27P	第 56 図	28P・29P・30P
第 57 図	31P・32P	第 58 図	ピット出土遺物

## 表 目 次

第 1 表	平沢遺跡と周辺の遺跡	第 2 表	平沢遺跡における過去の調査概要
第 3 表	旧石器時代遺物観察表	第 4 表	遺構外出土縄文土器観察表
第 5 表	1号堅穴建物跡出土遺物観察表 (1)	第 6 表	1号堅穴建物跡出土遺物観察表 (2)
第 7 表	2号堅穴建物跡出土遺物観察表 (1)	第 8 表	2号堅穴建物跡出土遺物観察表 (2)
第 9 表	3号堅穴建物跡出土遺物観察表 (1)	第 10 表	3号堅穴建物跡出土遺物観察表 (2)
第 11 表	4号堅穴建物跡出土遺物観察表 (1)	第 12 表	4号堅穴建物跡出土遺物観察表 (2)
第 13 表	5号堅穴建物跡出土遺物観察表 (1)	第 14 表	5号堅穴建物跡出土遺物観察表 (2)
第 15 表	6号堅穴建物跡出土遺物観察表	第 16 表	7号堅穴建物跡山上遺物観察表 (1)
第 17 表	7号堅穴建物跡出土遺物観察表 (2)	第 18 表	8号堅穴建物跡出土遺物観察表 (1)
第 19 表	8号堅穴建物跡出土遺物観察表 (2)	第 20 表	8号堅穴建物跡出土遺物観察表 (3)
第 21 表	9号堅穴建物跡出土遺物観察表	第 22 表	10号堅穴建物跡山上遺物観察表
第 23 表	11号堅穴建物跡出土遺物観察表 (1)	第 24 表	11号堅穴建物跡出土遺物観察表 (2)
第 25 表	12号堅穴建物跡出土遺物観察表 (1)	第 26 表	12号堅穴建物跡出土遺物観察表 (2)
第 27 表	13号堅穴建物跡出土遺物観察表	第 28 表	14号堅穴建物跡出土遺物観察表
第 29 表	15号堅穴建物跡出土遺物観察表	第 30 表	16号堅穴建物跡出土遺物観察表 (1)
第 31 表	16号堅穴建物跡出土遺物観察表 (2)	第 32 表	16号堅穴建物跡出土遺物観察表 (3)
第 33 表	17号堅穴建物跡出土遺物観察表	第 34 表	18号堅穴建物跡出土遺物観察表 (1)
第 35 表	18号堅穴建物跡出土遺物観察表 (2)	第 36 表	19号堅穴建物跡出土遺物観察表

第37表 20号竪穴建物跡出土遺物観察表(1)

第39表 造構外出土赤生土器観察表

第41表 2号溝跡出土遺物観察表

第43表 ピット出土遺物観察表

第38表 20号竪穴建物跡出土遺物観察表(2)

第40表 1号溝跡出土遺物観察表

第42表 ピット・窓表

## 写真図版

写真図版 1

写真図版 3

写真図版 5

写真図版 7

写真図版 9

写真図版 11

写真図版 13

写真図版 15

写真図版 17

写真図版 19

写真図版 21

写真図版 2

写真図版 4

写真図版 6

写真図版 8

写真図版 10

写真図版 12

写真図版 14

写真図版 16

写真図版 18

写真図版 20

写真図版 22

## 第1章 調査経過および平沢遺跡の概要

### 第1節 調査に至る経緯と調査の概要

**確認調査までの経緯** 平成27年4月14日付で社会福祉法人鳳雄会理事長黒田明美氏(以下「事業者」という。)から、平沢遺跡(遺跡No.217)の包蔵地内にあたる八千代市上高野151-4, 152-1を対象とする文化財保護法第93条第1項の規定による土木工事の発掘届が八千代市教育委員会(以下「市教委」という。)に提出された。これに対して市教委は取扱いの協議によって確認調査を行なうこととし、準備が整った平成27年7月17日に確認調査を開始した。

**確認調査** 確認調査は、平成27年度市内遺跡調査事業として国庫及び県費の補助を受けて実施し、対象面積4,860m<sup>2</sup>のうち472m<sup>2</sup>を調査した。その結果、遺構としては弥生時代の堅穴建物跡6軒、弥生時代の可能性がある溝跡2条・土坑3基が確認された。

**保存協議** 確認調査の結果をもとに協議範囲を2,635m<sup>2</sup>として市教委と事業者間で検討した結果、協議範囲全域に対して記録保存の措置をとることとなった。市教委は事業者に対して平成27年11月5日付で調査にかかる費用の見積もりを提示し、事業者は同年12月1日付で調査依頼書を提出し、同年12月4日付で市教委はこれを受託した。そして、同年12月10日付で市・市教委・事業者の三者間で保存措置に関する協定を締結し、同日に市と事業者間で本調査の委託契約を締結した。市教委は準備が整った平成28年1月6日に本調査を開始した。

**本調査の方法** 市教委は測量会社に委託して世界測地系の座標を調査区内とその周辺に取り付けた。そして、この座標を基準に光波測量機を使用して調査に用わる測量を行なった。掘削作業については表土の剥削を重機で行なった。

廃土山の関係から本調査ではスイッチバック方式を採用した。平成27年度は調査区の2/3で、平成28年度に残りの1/3で調査を行なった。確認調査の結果から基本層序3層で弥生時代後期の堅穴建物跡などを検出できることが想定された。しかし、遺構確認面を3層および4層(ソフトローム層)の2面に分けて調査を行なう期間的・予算的余裕はなかった。そのため、本調査では基本層序3層の面で検出された遺構の範囲とその周辺のみ基本層序3層を残し、遺構が確認されなかつところについては基本層序4層まで下げて遺構確認を行なうこととした。遺物の点上げは光波測量機を使用し、選定した遺物のみに限定した。

**本調査の経過** 平成27年度調査区では平成28年1月6日から機材搬入を行ない、1月12日～2月4日にかけて重機による表土剥ぎを行ない、堅穴建物跡や土坑、溝跡が検出された。なお、表土剥ぎと併行して検出された遺構の調査にも取りかかった。埋め戻しおよび平成28年度調査区の表土剥ぎを2月24日から開始し、3月31日に終了した。平成28年度調査区での調査は4月1日から開始し、堅穴建物跡や土坑、平成27年度調査区で確認された溝跡の続きを検出された。埋め戻しは6月10日から開始し、同月15日に終了し、調査の全工程を終了した。



第1図 平沢遺跡と周辺の遺跡

## 第2節 平沢遺跡の概要

**平沢遺跡と周辺の遺跡** ここでは平沢遺跡の主たる時代である弥生時代を中心に周辺の遺跡について述べていきたい。平沢遺跡の北西側には谷を挟んで阿蘇中学校東側遺跡があり、平沢遺跡と同様に弥生時代後期の堅穴建物跡が数軒確認されている。さらに北に進むと弥生時代中期末の宮ノ台式期に属する堅穴建物跡群と方形周溝墓群、そして弥生時代後期に属する90軒を超す堅穴建物跡群が確認された栗谷遺跡がある。また栗谷遺跡に隣接した上谷遺跡は奈良・平安時代の大規模集落で200棟を超す掘立柱建物跡群、1,000点を超す墨書・刻書土器が確認され、弥生時代後期の堅穴建物跡群も調査された。同じく隣接する雷遺跡でも弥生時代後期の堅穴建物跡が複数確認されている。平沢遺跡から見て東側には上高野白幡遺跡があり、弥生時代中期末（宮ノ台式期）の集落が確認されている。平沢遺跡から見て北西部にある米本田地の近隣には逆水遺跡があり、この遺跡からは弥生時代中期末（宮ノ台式期）に属する方形周溝墓群に加え、弥生時代後期に属する堅穴建物跡群も確認されている。

**平沢遺跡の立地** 平沢遺跡は標高約 22 ~ 26 m、現水田面との比高差が約 20 m（新川側）で細い谷辺に面した台地、いわゆる付上台上に立地している。

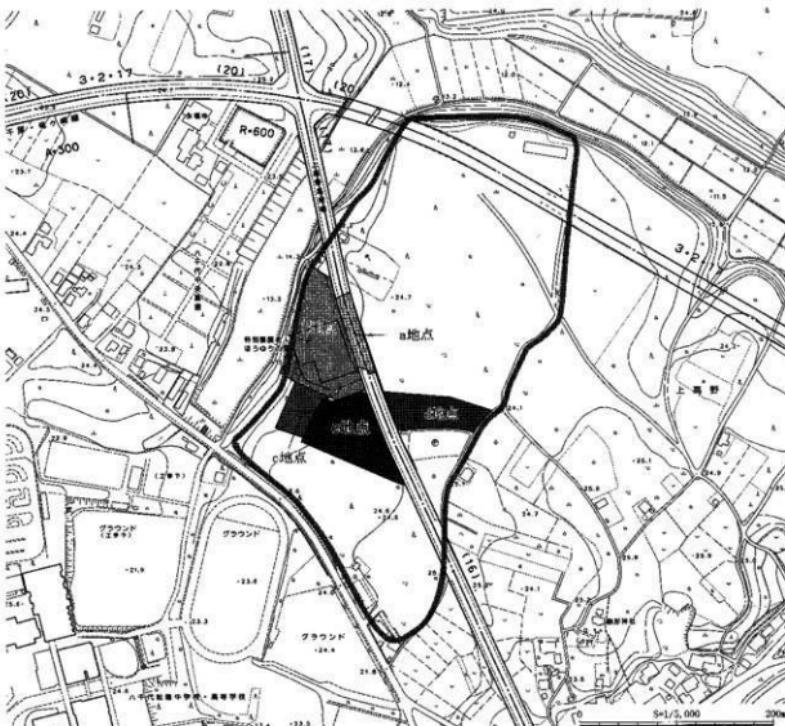
**これまでの調査** 平沢跡では過去に4度の調査が行なわれ、それらの結果を第1表に載せた。b地点で検出された溝跡2条については出土遺物もないことから奈良・平安時代に属すか?

第1表 平沢遺跡と周辺の遺跡

遺跡名	遺跡名	水系	種別	時代	遺跡名	水系	種別	時代
74 神野村集落	印旛沼	保		中近世	117 米本城跡	新川	城跡	弥生、古代、中近世
75 黒谷遺跡	印旛沼	集落跡	調査、弥生、古墳、古代	118 上宿遺跡	新川	包羅地		古代
77 上谷遺跡	印旛沼	集落跡	調査、弥生、古墳、古代	119 阿蘇中学校東側遺跡	高野川	包羅地、衆落跡	旧石器、縄文、弥生	
79 郡塚跡	印旛沼	包羅地	調査、古代	120 亦作塚跡	高野川	包羅地	縄文、古代	
81 保品廃城	印旛沼	包羅地	調査、古代	122 米本塚	新川	塚		中近世
82 間谷廃跡群	印旛沼	保		123 立野台遺跡	新川	包羅地	調文	
86 おおびた遺跡	印旛沼	包羅地、集落跡	旧石器、縄文、弥生、古墳、古代	126 宝喜作台遺跡	新川	包羅地		古代
88 山の越遺跡	高野川	包羅地	調文、古代	127 村上奈良遺跡	新川	包羅地	調文、古代	
89 天神遺跡	高野川	包羅地	調文、古代	128 村上新山西道跡	新川	包羅地		古代
90 作畠廃跡群	高野川	保		129 七百余所神社古墳	新川	古墳		古墳
91 作畠遺跡	高野川	集落跡	調文、古代	131 村上宮内遺跡	新川	包羅地、集落跡	調文、古墳、古代	
92 下高野山新山遺跡	高野川	集落跡	調文、古墳、古代	133 村上新山遺跡	高野川	集落跡	調文、古代	
94 大久保三山塚	高野川	保	中近世	134 村上新山塚群	高野川	塚		中近世
95 丸山遺跡	高野川	包羅地	縄文、古代	136 西山遺跡	新川	集落跡	古墳、古代	
97 役山遺跡	新川	包羅地	調文、弥生、古代	138 上高野稻野平中塚	新川	保		中近世
98 向坂遺跡	新川	集落跡	調文、弥生、古代	217 幸沙遺跡	高野川	包羅地、集落跡	旧石器、縄文、弥生、中近世	
100 逆水遺跡	新川	集落跡	調文、弥生、古墳、古代、中近世	218 殿台遺跡	高野川	包羅地	旧石器、縄文、古代、中近世	
101 逆水塚群	新川	塚	中近世	219 金の土塚跡	高野川	包羅地	縄文、古代	
103 人山遺跡	新川	包羅地	旧石器、縄文、弥生	222 上高野白縄遺跡	高野川	包羅地、衆落跡	縄文、弥生	
105 役山東遺跡	新川	包羅地	調文、弥生、古代	223 世堤込遺跡	高野川	包羅地		古代
106 雪遺跡	新川	集落跡	調文、弥生、古墳、古代	224 里沙遺跡	高野川	包羅地		古代
108 卜宿東遺跡	新川	包羅地	古代	225 上高野大山遺跡	高野川	包羅地		古代
109 上割遺跡	新川	包羅地	古代	260 下高野庚申塚	高野川	塚		中近世
110 上宿西遺跡	新川	包羅地	調文、古代	270 南谷遺跡	印旛沼	集落跡	古墳	
111 青柳台遺跡	新川	包羅地	調文、古代	273 下高野新山古墳	高野川	古墳		古墳
112 鮎池台遺跡	新川	包羅地	調文、古墳、古代	274 宝喜作台入定塚	新川	古墳、塚	古墳、近世	
113 米本駅田台遺跡	新川	包羅地	調文、古代	275 七百余所神社塚	新川	塚		中近世
115 上宿西遺跡	新川	包羅地	古代	279 おおびた古墳群	印旛沼	古墳		古墳
116 天神輪遺跡	新川	包羅地	調文、古代	280 南谷古墳	印旛沼	古墳		古墳

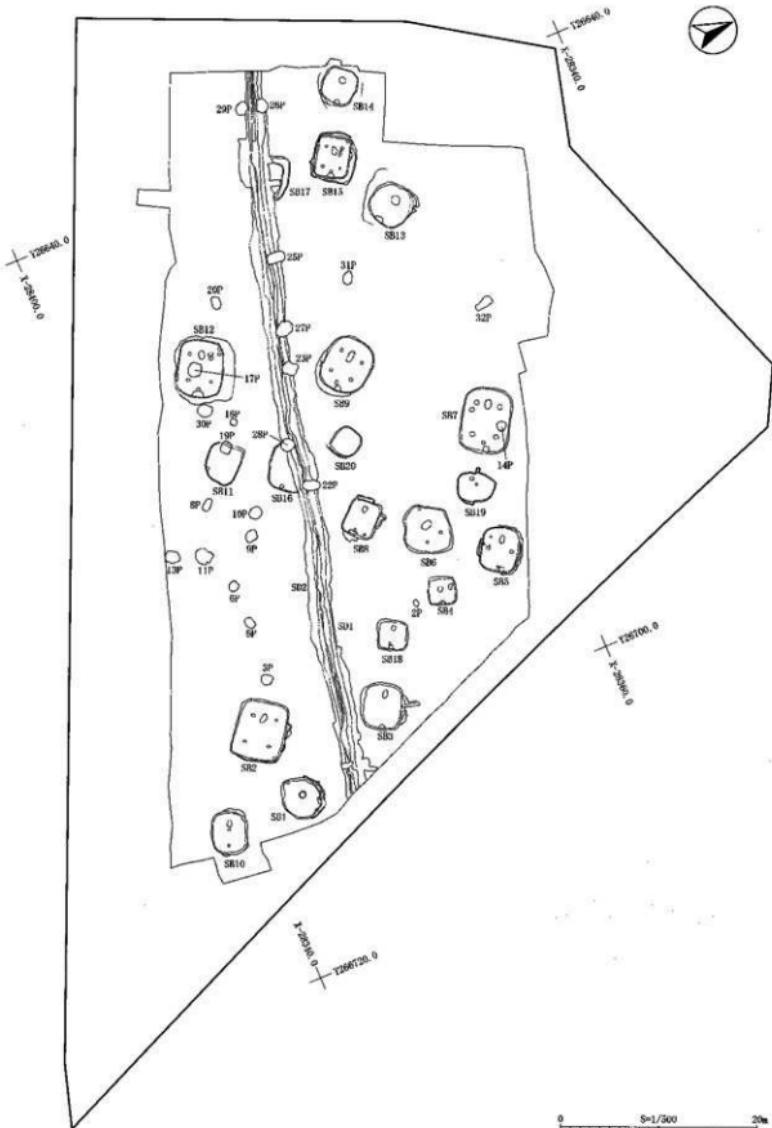
第2表 平沢遺跡における過去の調査概要

地点名	調査形態	調査期間	検出遺跡	出土遺物	文献
a地点	本調査	H27.4.10～6.30	弥生時代（後期）穴建物跡 10軒・土坑（墓）、井戸跡不明 (構造工事、4層以上)	縄文土器（田芦下層式、金糞文式、黑底式・阿立式）、加賀利E 式・名古屋式、埋立小口式、後期時代石器（石器）、弥生土器（後 期）、漆器（漆器）、骨牛頭（漆器）	八千代市教育委員会公図 2013年7 月版八千代市 平沢遺跡a地 点、施設跡a地点
b地点	本調査	H22.1.28～4.21	縄文時代（中期）穴建物跡 4軒・ 中期（後期）穴建物跡 4軒・ ビット（墓）、奈良・平安時 代（構造2軒）	縄文中期下層式（後久那山式）、縄文上層式（下層式、 大・名古屋式、埋立小口式）、街路式、五輪式、五輪式、阿 立式、加賀利E式、名古屋式、埋立式（後期利式）、弥生 式（後期）、弥生時代土器品、弥生時代石器（石器）	八千代市教育委員会公図 2011年7 月版八千代市 平沢遺跡b地 点
c地点	確認調査	H23.7.6～20	縄文時代（土坑）墓、弥生 時代（後期）穴建物跡 2軒）	弥生土器（後期土器）	八千代市教育委員会公図 2013年7 月版八千代市 市内埋蔵文化財 調査報告書 平成24年度
d地点	確認調査	H23.7.16～7.23	なし	縄文上層（加賀利E式）、縄文時代上土器品（土製円盤）、吉崎跡 代後期～奈良・平安時代土器品	八千代市教育委員会公図 2013年7 月版八千代市 市内埋蔵文化財 調査報告書 平成26年度



第2図 平沢遺跡の各調査地点

どうか判断するのは難しいが、各調査地点ではおおむね旧石器時代・縄文時代・弥生時代に  
関わる遺構・遺物が確認されている。その中でも弥生時代後期と考えられる堅穴建物跡が多く  
確認されており、その数は各調査地点のものを合わせて16軒である。



第3図 調査区と検出された遺構

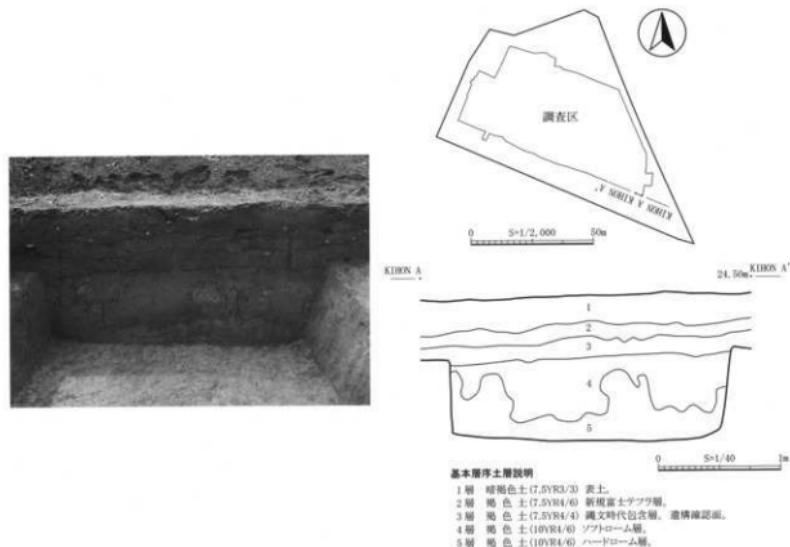
## 第2章 検出された遺構と遺物

今回の調査では弥生時代後期の堅穴建物跡が20軒、中近世に属する可能性がある溝跡2条、縄文時代～中近世のいずれかに属すると考えられる土坑25基が検出された。また、遺構には伴わないが、縄文前期～後期に属す縄文土器も出土した。

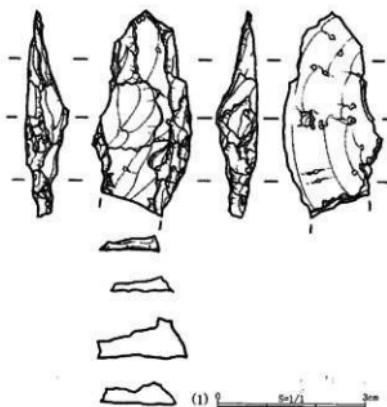
今回の調査で出土した遺物は旧石器時代のナイフ形石器が1点で重量は5.3g、縄文土器・弥生土器は3,857点で重量が54,415g、弥生時代石器が10点で重量は111g、弥生時代土製品が9点で重量は205g、中近世の砥石が2点で重量は140gであった。

基本層序については、地点によって色調に若干の違いがありつつも、今回の調査で2層とした層が平沢遺跡c地点で確認されたII b層（暗褐色土、褐色土を斑状に含む、新規富士テフラ層）に対応すると考えられる。3層は縄文時代前期～後期にかけての土器が出土したことから縄文時代の包含層と考えられる。

遺構確認面については、確認調査の結果から基本層序3層で弥生時代後期の堅穴建物跡や土坑、溝跡を検出できることが想定された。しかし、遺構確認面を3層および4層の2面に分けて調査を行なう期間的・予算的余裕はなかった。そのため、本調査では基本層序3層の面で検出された遺構の範囲とその周辺のみ基本層序3層を残し、遺構が確認されなかつたところについては4層まで掘り下げて遺構確認を行なった。



第4図 基本層序



第5図 旧石器時代の遺物

第3表 旧石器時代遺物観察表

遺物名	型式・難易度等	石材	寸法	観察所見		出土層位	備考
				石器	鉄鋸削片		
1	ナイフ形石器	黒曜石	最大長：42.5mm 最大幅：20.0mm 最大厚：8.6mm	鐵鋸削片を素材としている。両側面に多様な刃縁が施され、表面の中央に素材面が残存しており、その面に上刃部が削成されている。下部は折損しているため、背面の鋸削調整の有無は不明。ただし、両側縁の加工により、基部が付いていた。この黒曜石はごくついて黄色が付いている。小さな珠粒が多量に含まれることと色調から、浜州産よりも可能性高い。	基本層序 4層		

## 第1節 旧石器時代

遺構検出作業に伴うジョレンがけの際に黒曜石製ナイフ形石器がソフトローム屑から1点出土した。

## 第2節 繩文時代

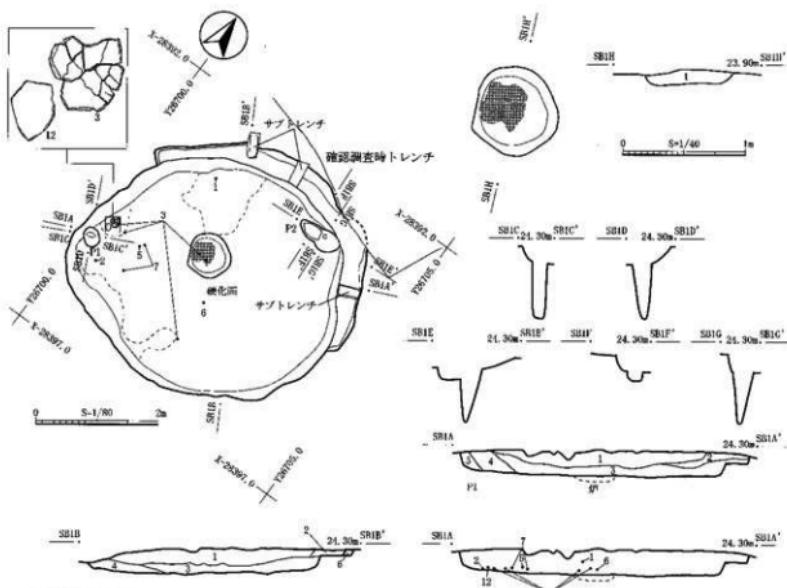
今回の調査では繩文時代に位置づけられる遺構は検出されなかつたが、包含層から繩文時代前期～後期の土器が出土し、表土出土および表面採集でも何点かの繩文土器が確認された。なお、土器型式が同定できないものは遺物観察表において大別による表記とした。1は繩文時代前中期末の可能性がある深鉢である。2は雲母を含んでいることから阿玉台式土器の可能性もあるが、胎土だけで判断することは難しいことから繩文時代中期の深鉢とした。3は繩文時代中期後半～後期初頭と考えられる深鉢、5・6は堀之内1式土器、7・8は加曾利E式土器である。9も2と同様の理由により繩文時代中期とした。10・11は堀之内1式土器である。



第6図 遺構外出土縄文土器

第4表 遺構外出土縄文土器観察表

遺物番号	型式・施加等	直徑(次元)	土色			文様・成形・施加等	断面	火炎・コケ	出土層位	備考
			外面	内面	側面					
1	縄文前期末？ 深鉢 破片	-	外面：にぶ・黒褐色(7.SV8B/4) 内面：深褐色(5.SV8C/6)	外面：ナデ	LR	石英、黄石、 角閃石、 黑褐色	石英、黄石、 角閃石、 黑褐色	なし	基本層序 3層	
2	縄文中期 深鉢 破片	-	外面：にぶ・黄褐色(10.V97/4) 内面：黒褐色(10.V97/1)	外面：ナデ 内面：ミガキ		石英、黄石、 角閃石、 黑褐色	石英、黄石、 角閃石、 黑褐色	なし	基本層序 3層	
3	縄文中期中段 深鉢 破片	-	外面：にぶ・黒褐色(7.SV17/7) 内面：にぶ・黒褐色(7.SV17/6)	外面：ナデ		石英、黄石、 角閃石、 黑褐色	石英、黄石、 角閃石、 黑褐色	なし	基本層序 3層	
4	縄文後期深鉢 破片	-	外面：明赤褐色(7.SV14/6) 内面：黒褐色(7.SV14/1)	外面：ナデ、沈継 内面：ナデ		石英、黄石、 角閃石、 黑褐色	石英、黄石、 角閃石、 黑褐色	なし	基本層序 3層	
5	縄文末期深鉢 破片	-	外面：にぶ・黒褐色(7.SV8/3) 内面：にぶ・黒褐色(7.SV8/2)	外面：無施上 内面：ミガキ		石英、黄石、 角閃石、 黑褐色	石英、黄石、 角閃石、 黑褐色	なし	基本層序 3層	
6	縄文末期深鉢 破片	-	外面：にぶ・黄褐色(5.V9/6) 内面：黒褐色(5.V9/1)	外面：ナデ 内面：ミガキ		石英、黄石、 角閃石、 黑褐色	石英、黄石、 角閃石、 黑褐色	なし	基本層序 3層	
7	加賀利口式 深鉢 破片	-	外面：浅黄褐色(7.SV8/6) 内面：褐褐色(7.SV8/1)	外面：RL 内面：ナデ		石英、黄石、 角閃石、 黑褐色	石英、黄石、 角閃石、 黑褐色	なし	包含層	
8	加賀利口式 深鉢 破片	-	外面：褐色(3.V9/6)、黒褐色(3.V9/1)	外面：LR 内面：ナデ		石英、黄石、 角閃石、 黑褐色	石英、黄石、 角閃石、 黑褐色	なし	包含層	
9	縄文中期 深鉢 破片	-	外面：にぶ・黄褐色(10.V9/4) 内面：黒褐色(7.SV8/3)	外面：ナデ 内面：ミガキ		石英、黄石、 角閃石、 黑褐色	石英、黄石、 角閃石、 黑褐色	なし	表上	
10	窓/内口式 深鉢 破片	-	外面：窓有褐色(10.V9/4) 内面：にぶ・黒褐色(10.V9/3) 黒褐色(7.SV8/2)	外面：沈継 内面：ミガキ		石英、黄石、 角閃石、 黑褐色	石英、黄石、 角閃石、 黑褐色	なし	表上	
11	窓/内口式 深鉢 破片	-	外面：にぶ・黒褐色(5.V9/5) 内面：黒褐色(5.V9/1)	外面：ナデ、沈継 内面：ミガキ		石英、黄石、 角閃石、 黑褐色	石英、黄石、 角閃石、 黑褐色	なし	表上	



#### 1号竖穴建物跡土層説明

- 1層 黒色 7.0m(2/1) しまりやや弱い、粘性やや弱い。コームブロック・粒子微量含む。
- 2層 黒褐色上(7.SVRA/2) しまり強い、粘性やや弱い。ローム粒子微量含む。
- 3層 硬塑性下(7.SVRA/4) しまり弱い、粘性やや弱い。ロームブロック・粒子少量含む。
- 4層 軟塑性上(7.SVRA/4) しまりやや弱い、粘性やや弱い。ロームブロック・粒子中量含む。
- 5層 硬塑性下(7.SVRA/8) しまりやや弱い、粘性やや弱い。ロームブロック中量。ローム粒子微量含む。
- 6層 黑褐色土(7.SVRA/4) 基本層序3層。削り洗い。

#### 1号竖穴建物跡土層説明

- 1層 剥離褐色上(SVRA/6) しまり弱い、粘性やや弱い。ロームブロック少量。ローム粒子微量含む。底付土層基部付。

第7図 1号竖穴建物跡 (1)

### 第3節 弥生時代

#### 1号竖穴建物跡

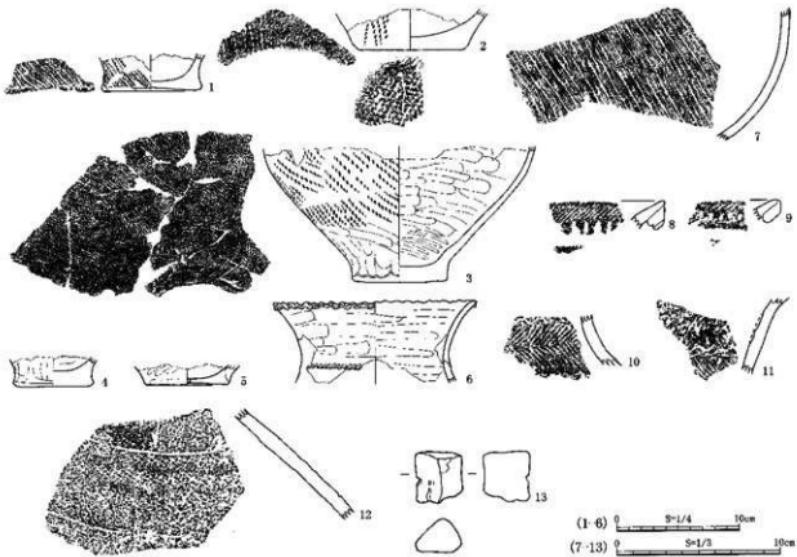
時期：弥生時代後期 検出面：基本層序3層 平面形態：不整円形

規模：長軸長 4.53m(4.92m), 短軸長 3.91m(4.13m), 深さ 0.36m(0.41m)

構造：炉が1基、柱穴と考えられるピットが2基検出された。床は一部がやや弱いながらも大部分が硬化していた。炉には被熱面があったが、焼土の検出はまばらであった。本遺構の北西側から東側にかけて竪穴壁上端部から外方に向かって浅い掘り込みが確認され、その底面は平坦であった。埋土2層がこの浅い掘り込みから竪穴壁内面に向かって入り込んでいることから、この浅い掘り込みは本遺構に関わりがあると考えられる。

埋土堆積状況：いわゆるレンズ状堆積で、2層は浅い掘り込み部から竪穴壁内側に向かって流れ込んでいた。

出土遺物点数：弥生土器 160点、弥生時代石器 2点



第8図 1号竪穴建物跡(2)

第5表 1号竪穴建物跡出土遺物観察表(1)

分類	形・質	直徑	寸法	色	文様・斑点・特殊部			断土	スコ	出土位置	備考
					外表面	内表面	裏面				
1 共生後期 窓	底部 窓	底径: 6.0cm 窓高: 3.0cm	外表面: にふい褐色 (SYR6/4) 内表面: にふい褐色 (SYR4/1)	白灰、青色 白灰、青色	ナダ、L. ナダ	ナダ、無	小美、青色 白灰、青色	外表面: なし 内表面: ニク	上層		
2 共生後期 窓	窓部 窓	底径: 6.0cm 窓高: 3.0cm	外表面: 西青色 (2.SV7/4) 内表面: 西青色 (2.SV7/4)	白灰、青色 白灰、青色	ナダ、無	ナダ、無	白灰、青色 白灰、青色	外表面: なし 内表面: ニク	上層		
3 共生後期 窓	脚~底部 窓存 30%	底径: (7.6)cm 窓高: 11.0cm	外表面: 無色 (GYR3/0), 灰褐色 (7.SV6/2) 内表面: 無色 (GYR5/0), 灰褐色 (GYR5/0)	白灰、青色 白灰、青色	ナダ、BL. ナダ	ナダ、ガキ	白灰、青色 白灰、青色	外表面: スコ 内表面: ニク	下層	床面直上	
4 共生後期 窓	底部 窓存 45%	底径: 6.0cm 窓高: 2.4cm	外表面: にふい褐色 (7.SV6/1) 内表面: にふい褐色 (7.SV6/1)	白灰、青色 白灰、青色	ナダ	ナダ	白灰、青色 白灰、青色	外表面: なし 内表面: ニク	上層		
5 共生後期 窓	底部 窓存 30%	底径: 6.0cm 窓高: 1.6cm	外表面: 西青色 (2.SV7/2) 内表面: 西青色 (2.SV7/2)	白灰、青色 白灰、青色	ナダ	ナダ	白灰、青色 白灰、青色	外表面: なし 内表面: ニク	下層		
6 共生後期 窓	口縁~側面 窓存 20%	口径: (16.6)cm 窓高: 6.7cm	外表面: 無色 (GYR3/0), 灰褐色 (7.SV6/1) 内表面: 無色 (GYR6/6), 灰褐色 (7.SV6/1), 黑色	白灰、青色 白灰、青色 白灰、青色	ナダ、 ナダ	ナダ、 ナダ	白灰、青色 白灰、青色 白灰、青色	外表面: スコ 内表面: なし	上層 下層		
7 共生後期 窓	脚部 破片	-	外表面: にふい褐色 (10.VR6/6), 灰褐色 (7.SV6/2) 内表面: 番谷 (5.VR6/6), 灰褐色 (7.SV6/1), 黑色	白灰、青色 白灰、青色 白灰、青色	ナダ ナダ	ナダ	白灰、青色 白灰、青色 白灰、青色	外表面: なし 内表面: なし	下層		
8 共生後期 窓	口縁部 破片	-	外表面: 番谷 (5.VR6/6) 内表面: にふい褐色 (10.VR6/6)	白灰、青色 白灰、青色	ナダ ナダ	LR 織文 ナダ	白灰、青色 白灰、青色	外表面: なし 内表面: なし	下層		
9 共生後期 窓	口縁部 破片	-	外表面: 番谷 (5.VR6/6) 内表面: 番谷 (5.VR6/6)	白灰、青色 白灰、青色	ナダ ナダ	ナダ ナダ	白灰、青色 白灰、青色	外表面: シャモット、石 内表面: シャモット、石	中層		
10 共生後期 窓	頂部 破片	-	外表面: 灰色 (7.SV7/6) 内表面: にふい褐色 (7.SV7/4), 灰褐色 (7.SV6/1), 黑色	白灰、青色 白灰、青色 白灰、青色	ナダ ナダ	BL, S ナダ	白灰、青色 白灰、青色	外表面: シャモット、石 内表面: シャモット、石	中層		
11 共生後期 窓	頂部 破片	-	外表面: 灰褐色 (10.VR6/6) 内表面: 灰褐色 (10.VR6/2), 赤彩	白灰、青色 白灰、青色 白灰、青色	ナダ ナダ	ナダ ナダ	白灰、青色 白灰、青色	外表面: なし 内表面: なし	下層		
12 共生後期 窓	頂部 破片	-	外表面: にふい褐色 (SYR6/4) 内表面: にふい褐色 (SYR6/4)	白灰、青色 白灰、青色	ナダ ナダ	ナダ ナダ	白灰、青色 白灰、青色	外表面: シャモット、石 内表面: シャモット、石	床面直上	器の消耗を示す, 焼入焼元あり	

第6表 1号竪穴建物跡出土遺物観察表（2）

遺物名	型式・特徴等	石材	寸法	石製品		出土層位	備考
				種類	所見		
13 弥生後期 輕石	輕石		高さ: 20mm 最大幅: 20mm 最大厚: 21mm	白色の輕石。3面を磨面として使用したと考えられる。		下層	

出土遺物重量：弥生土器 1,629g, 石器 51g

遺物出土状況：遺物は1～2層を上層、3層以下を下層として取り上げ、遺物は上層から床面直上にかけて出土した。3の一部は床面直上から出土し、土器内面を上に向かって置かれ、その後土圧によって潰れたものと考えられる。

遺物：いずれも弥生時代後期に位置づけられる。9・10・12の壺にはシャモットが含まれており、他の土器とは胎土の上で一線を画している。13の輕石は3面を磨面として使用したと考えられる。

## 2号竪穴建物跡

時期：弥生時代後期 検出面：基本層序3層 平面形態：胴張隅丸長方形

規模：長軸長 6.22m(6.26m), 短軸長 5.21m(5.66m), 深さ 0.54m(0.78m)

構造：炉が1基、柱穴と考えられるP1～P4、性格不明のP5が検出された。床面は一部を除いて大部分が強く硬化していた。炉には被熟面が見られ、炉の2層では焼土ブロックが多く検出された。北東側から南東側にかけて竪穴壁上端部から外側に向かって浅い掘り込みが確認され、その底面は緩やかに傾斜していた。また、南東側にも浅い掘り込みの痕跡が残っており、竪穴壁上端部から外に向かって若干傾斜していた。

埋土堆積状況：いわゆるレンズ状堆積で、4層は浅い掘り込みから竪穴壁内側に向かって入り込んでいた。

出土遺物点数：弥生土器 112点、弥生時代土製品 1点

出土遺物重量：弥生土器 1,874g、弥生時代土製品 50g

遺物出土状況：遺物は1～3層を上層、4層を下層として取り上げた。上層では遺物の出土が少なく、遺物の多くは下層から床面直上にかけて出土した。3は床面直上から出土し、内面を上に向かって状態から土圧によって潰れたものと考えられる。紡錘車は完形の状態で下層から出土した。

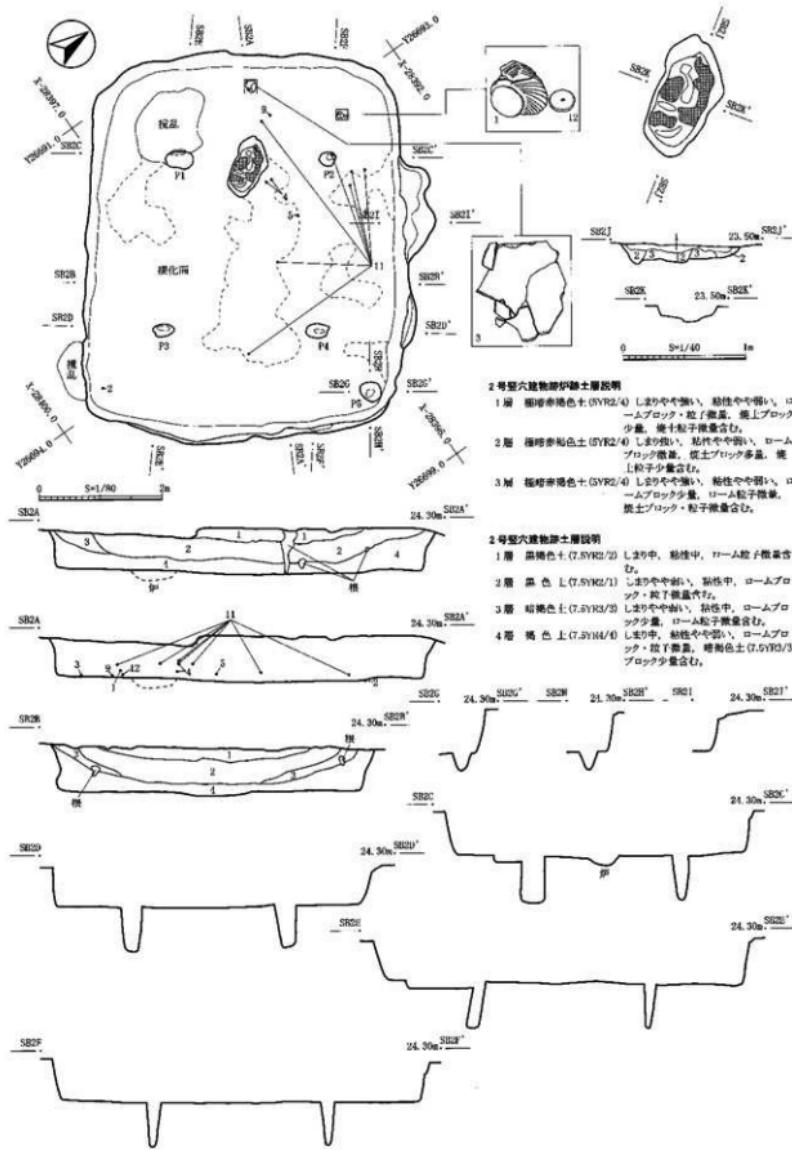
遺物：2・3・8・11の胎土にはシャモットが含まれている。3は区画文に附加条3種ないしは網目状撚糸文と考えられる原体が使用されている。11は大型壺で外面は摩耗しており、内面も剥落が著しい。12の紡錘車には紐を十字に括りつけた痕が見られる。

## 3号竪穴建物跡

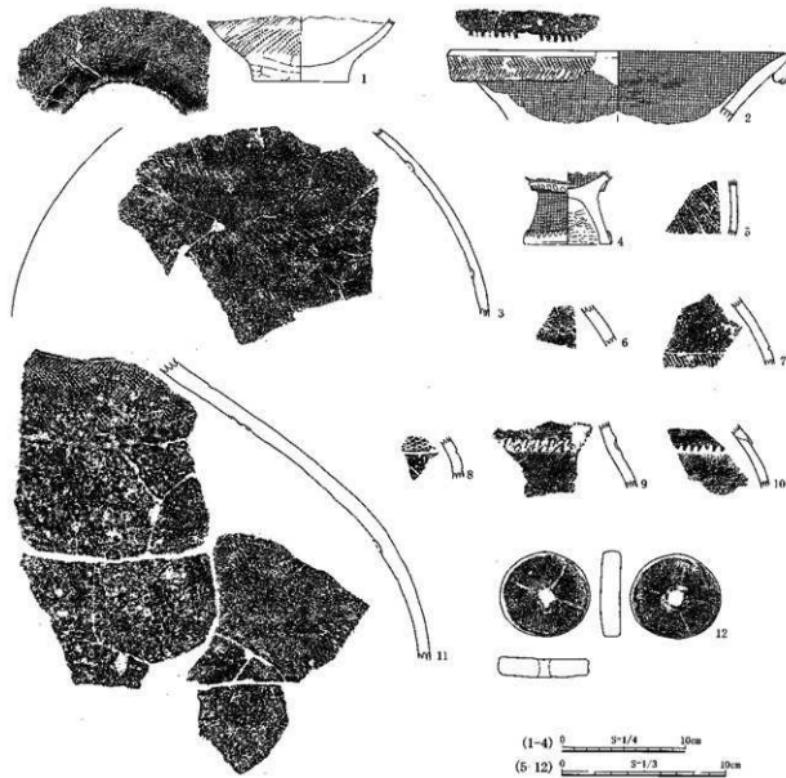
時期：弥生時代後期 検出面：基本層序3層 平面形態：胴張隅丸長方形

規模：長軸長 4.85m, 短軸長 4.56m(4.81m), 深さ 0.85m(0.95m)

構造：炉が1基、そして位置的に貯蔵穴と考えられるP1が検出された。一方で、本遺構は



第9図 2号竖穴建物跡 (1)



第10図 2号竖穴建物跡（2）

第7表 2号竖穴建物跡遺物観察表（1）

土器・土製品		保存状態	寸法	色調	文様・形態・特徴等	断面	スヌ・コダ	出土層位	備考
種類	寸法								
1 猪生後縫 甕	縦～底部 遺存70% 底面高：5.3cm	底、径：7.7cm 底面高：	外面：褐色(7.5YR7/6) 内面：褐色(7.5YR6/6)	外面：ナグ、LR+H+N 内面：ナグ	石英、白色粘 土。黑色粒	石英、白色 粘土。黑色粒	スヌ	下層	
2 猪生後縫 甕	口縁～底部 底面高：15.8cm	径：27.4cm 底面高：5.8cm	外面：褐色(7.5YR7/6)、赤褐色 内面：褐色(7.5YR7/6)、赤褐色	外面：複合口縁、ナグ、 LR、RL 内面：ミガキ	シケモット、イ ヌ、白粘土	シケモット、イ ヌ、白粘土	なし	床面直上	
3 猪生後縫 甕	胴部 遺存15%	底面高：15.5cm	外面：浅黄色(7.5YR8/6) 内面：浅黄色(7.5YR8/6)	外面：LR、LC、圓文、附 条3種ないしは網目状模 様、角開け、 内面：ミガキ 内面：ナグ	ミガキ、石 英、角開け、 黑色粒	ミガキ、石 英、角開け、 黑色粒	なし	床面直上、内面剥落著しい	
4 猪生後縫 甕外	坪～脚部 遺存60%	底、径：17.0cm 底面高：6.0cm	外面：灰黃褐色(10YR5/2) 内面：灰黃褐色(10YR5/2) 底面	外面：複合縁、複合縁、 ナグ、ミガキ 内面：ミガキ	石英、角開 石、黑色粒	石英、角開 石、黑色粒	なし	下層	
5 猪生後縫 甕	脚部 鏡片	-	外面：灰褐色(5YR6/2) 内面：褐黃褐色(10YR6/6) 褐色(10YR4/1)	外面：圓文外 内面：ナグ	石英、角開 石、白色粘 土	石英、角開 石、白色粘 土	スヌ	下層	

第8表 2号竪穴建物跡出土遺物観察表(2)

遺物番号	式年・墓碑等	遺存状態	寸法	色調	文様・成形・装飾等	地土	スス・コケ	出土層位	備考
6	弥生後期 塗	肩部 破片	-	外面：褐灰色(5YR4/1) 内面：灰黃褐色(10YR5/2)	手延：S字状結節文、 ミガキ 内面：ナゲ	白色粒	なし	下層	
7	弥生後期 塗	肩部 破片	-	外面：灰褐色(7.5YR5/2) 内面：棕色(7.5YR6/8)	手延：ミガキ、LR、沈線 内面：ナゲ	石英、角閃 石、白色粒	なし	上層	
8	弥生後期 塗	肩部 破片	-	外面：棕色(7.5YR5/6) 内面：棕色(7.5YR5/6)	手延：附加高さ3mm(無筋) 例延、沈線 内面：ナゲ	シャモット、石 英、白色粒	なし	床面直上	
9	弥生後期 塗	肩部 破片	-	外面：棕色(2.5YR6/6) 内面：棕色(2.5YR6/6)	手延：ナゲ、キザミ 内面：ナゲ	石英、白色 粒	なし	床面直上	
10	弥生後期 塗	肩部 破片	-	外面：棕色(2.5YR6/6) 内面：灰褐色(7.5YR5/3)	手延：ナゲ、キザミ 内面：ナゲ	石英、石英、 白色粒	なし	床面直上	
11	弥生後期 塗	肩部 破片	-	外面：棕色(7.5YR2/6) 内面：灰褐色(10YR6/6)	手延：ミガキ、LR、 沈線 内面：ナゲ	シャモット、石 英、角閃石	なし	下層 外面：麻斑模様い 内面：剥落苦しい	
12	弥生後期 粘土草	遺存100%	底 径：2.5cm 高さ：1.2cm	外面：褐灰色(7.5YR4/1), にぶ、褐色(7.5YR5/3) 内面：褐灰色(7.5YR4/1), にぶ、褐色(7.5YR5/3)	ナゲ	石英、角閃 石、白色粒	なし	下層 縁を彫りつけた痕あ り	

深さ1m近くの竪穴建物跡であるにもかかわらず、柱穴と考えられるピットは検出されなかつた。南西側の壁に沿って未硬化面が広がつていたが、それ以外の床面は強く硬化していた。炉には被熟面が見られ、炉跡の2層からは焼土ブロックが多量に確認された。本遺構の東側には浅い掘り込みが認められ、その面は緩やかに傾斜していた。

**埋土堆積状況：**いわゆるレンズ状堆積を呈しており、A-A'セクションの東側では6層（基本層序3層）を浅く掘り込んだと考えられる立ち上がりが確認された。その立ち上がりから竪穴壁の内側に向かって2層が流れ込んでいた。一方、1層は基本層序2層である新規富士テフラ層の可能性がある。もしそうであるならば、本遺構は新規富士テフラ層が堆積する以前に構築され、本遺構がほぼ埋まりきった時期に新規富士テフラ層が堆積したと考えられる。

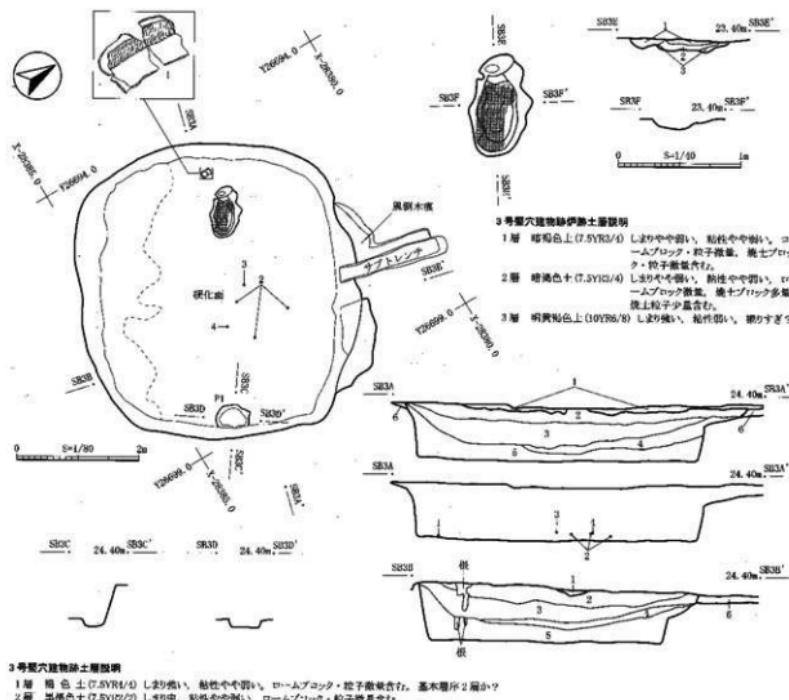
**出土遺物点数：**弥生土器147点

**出土遺物重量：**弥生土器1,403g

**遺物出土状況：**1～4層を上層とし、5層を下層として遺物を取り上げた。遺物は上層から床面直上にかけて出土したが、上層では遺物量が少なく、下層から床面直上にかけてやや多い状況だった。1は床面直上から出土し、横向きの状態で床面に置かれ、その後に上圧によって潰れたものと考えられる。

**遺物：**1は小形甕で外面に赤彩が施されている。また、直前段半撻の縄文も施されており、上端のS字状結節文に似た文様は直前段半撻の原体の上端を結んで施文したことによって生じた可能性がある。

**備考：**遺構検出段階では本遺構の埋土2層にあたると考えられる黒褐色土が竪穴壁上端部よりも外方で広く確認されていた。そのため、壁上端部外方に浅い掘り込みが広く存在した可能性があった。しかし、本遺構の調査時には上端部外側に浅い掘り込みがあることを認識しておらず、本遺構のプランをより明確にするためにジョレンによる面下げを行なって



第11図 3号堅穴建物跡（1）

しまった。その結果、本遺構の東側の一部を残して浅い掘り込みの大部分を削り取ってしまったと考えられる。また、北東側の堅穴壁沿いにサブトレーナーを入れたのは壁と思われる位置のロームが脆く、そこが壁か否かという点とロームが脆い理由を確定させるためであった。その結果、本遺構に風倒木痕が絡んでいたことが明らかとなった。

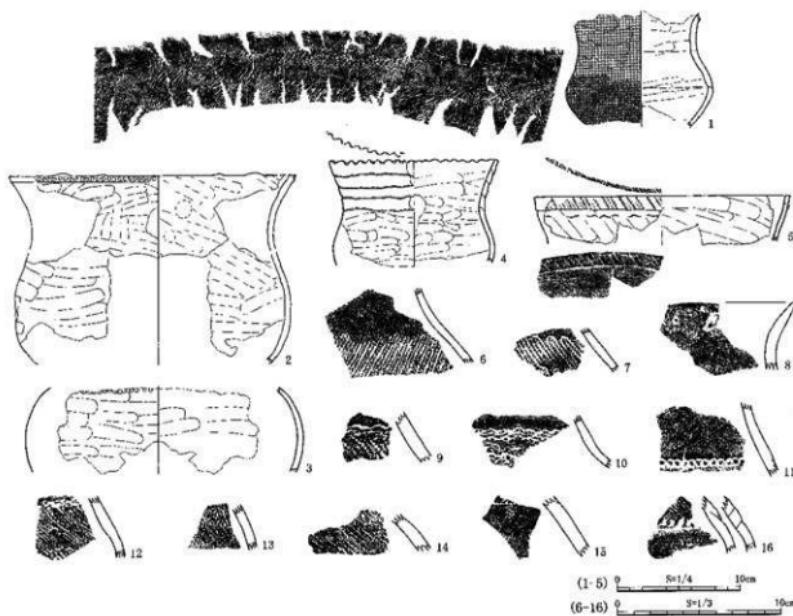
#### 4号堅穴建物跡

時期：弥生時代後期 検出面：基本層序3層 平面形態：隅丸方形

規模：長軸長2.93m、短軸長2.88m、深さ0.32m

構造：炉が1基、そして位置的に貯蔵穴と考えられるP1、性格不明のP2が検出された。

床面は一部が硬化していた。炉の埋土3層からは焼土ブロック・粒子が少量検出されたが、被熱面は確認されなかった。



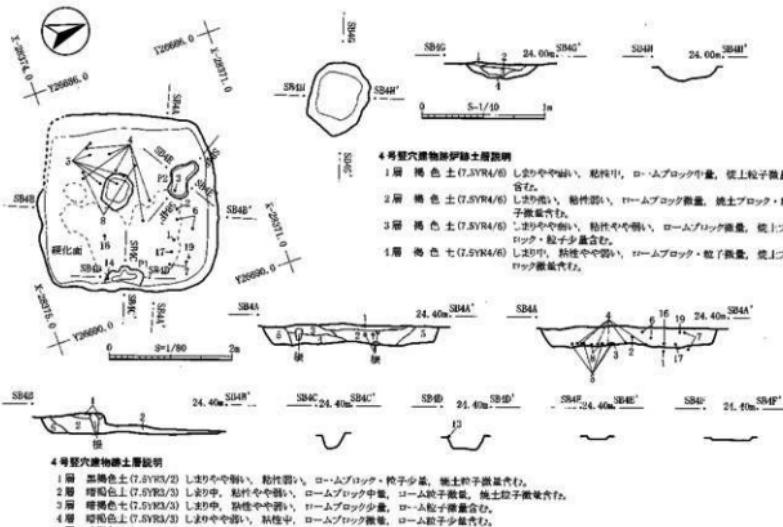
第12図 3号竪穴建物跡（2）

第9表 3号竪穴建物跡出土遺物観察表（1）

目次	分類	種類	色調	文様・模様・施物等		形状	大きさ・コマ	出土層位	備考
				外面	内面				
1 弥生後期 甕	陶～胴部 遺存95%	胴部最大径：12.0cm 遺存高：9.5cm	外面：薄茶色（7.5YR5/6）、 淡青紫色（7.5YR6/6）、赤褐色 （7.5YR8/6）、黑色 （7.5YR8/5） 内面：淡青紫色（7.5YR 8/6）、黑色	外面：ナダ、直前底下部 （L）、セラフの上端をその ままでついている？ 内面：ナダ	石英、角閃 石、長石、 黑角砾	外面：ヌメ 内面：ニク	床面以上		
2 弥生後期 甕	口縁～胴部 遺存15%	口 縁：23.0cm 胴部最大径：22.0cm 遺存高：15.4cm	外面：褐色（7.5YR7/6）、橙色 （7.5YR8/6）、褐色 内面：褐色（7.5YR7/6）、褐色 （7.5YR6/5）	外面：ナダ、洞に上心キザ 内面：ナダ	角閃石、白 色粒	外面：ヌメ 内面：なし	下層		
3 弥生後期 甕	胴部 遺存15%	胴部最大径：(21.0cm) 遺存高：7.6cm	外面：薄茶色（7.5YR8/4）、 淡青紫色（7.5YR8/3）、 白色 内面：白色（7.5YR7/6）	外面：ナダ、キザ1 内面：ナダ	石英、白色 粘土、黑色粒	外面：ヌメ 内面：なし	下層		
4 弥生後期 甕	口縁～胴部 遺存20%	口 縁：13.0cm 胴部最大径：(13.2cm) 遺存高：8.5cm	外面：褐色（7.5YR7/1）、 淡青紫色（7.5YR6/6）、 白色 内面：白色（7.5YR5/6）	外面：ナダ、口縫端部交叉 内面：ナダ	石英、角閃 石、黑色粒	外面：ヌメ 内面：なし	下層		
5 弥生後期 灰鉢	口縁～胴部 遺存15%	口 縁：20.0cm 遺存高：3.7 cm	外面：白色（7.5YR7/5）、 明黄色（7.5YR8/6）、 白色 内面：白色（7.5YR6/5）、 明黄色（7.5YR8/6）	外面：ナダ、薄口1輪、ナダ、 R + L + L、S字状施物 内面：ナダ	角閃石、白 色粒	外	床面以上 灰		
6 弥生後期 甕	胴部 破片	-	外面：灰褐色（7.5YR4/3） 内面：白色（7.5YR6/6）	外面：ナダ、LR + R + R 内面：ナダ	石英、角閃 石、白色粒、 黑色粒	外面：ヌメ 内面：なし	上層		
7 弥生後期 甕	胴部 破片	-	外面：明黄色（7.5YR6/6） 内面：明黄色（7.5YR5/6）	外面：ナダ、R、S字 内面：ナダ	石英、角閃 石	外	灰		
8 弥生後期 甕	口縁～胴部 破片	-	外面：明黄色（7.5YR6/6） 内面：白色（7.5YR6/4）	外面：ナダ、R 内面：ナダ	石英、角閃 石	外	下層		
9 弥生後期 甕	胴部 破片	-	外面：褐色（7.5YR6/6） 内面：白色（7.5YR6/6）	外面：ナダ、S字状施物文 化 内面：ナダ	石英、角閃 石	外 内	下層		
10 弥生後期 甕	胴部 破片	-	外面：淡青色（7.5YR 5/3）	外 内	白色粘土、黑 色粒	外 内	下層		

第10表 3号竪穴建物跡出土遺物観察表(2)

出土場所・式・目次	種類状態	寸法	色調	文様・成形・装飾等	胎土	入ス・ヨゲ	出土層位	備考
11 弥生後期 灰陶	瓶底 破片	-	外面：にごり青褐色(10YR 6/4) 内面：にごり青褐色(10YR 6/4)、反対側白色(10YR 1/2)	外面：ナグ、凹凸状工具に よる突起 内面：ナグ	石灰、白色 素色鉄	外面：ヌス 内面：なし	下層	
12 弥生後期 灰陶	瓶底 破片	-	外面：墨褐色(10YR 3/2) 内面：明黄色(10YR 2/6)、にごり青褐色(10YR 2/6)	外面：S字状筋節入、撻拂 内面：ナグ	石灰、角閃 石	外面：ヌス 内面：なし	下層	
13 弥生後期 灰陶	瓶底 破片	-	外面：にごり青褐色(10YR 6/4) 内面：ナグ	外面：IL+1.+L 内面：ナグ	石灰、角閃 石	外面：ヌス 内面：なし	下層	
14 弥生後期 灰陶	瓶底 破片	-	外面：灰褐色(7.5YR 2/2) 内面：褐色(5YR 6/6)	外面：IL+L+1. 内面：ナグ	石灰、角閃 石、白色鉄	なし	下層	
15 弥生後期 灰陶	瓶底 破片	-	外面：褐色(5YR 6/6)、にごり 褐色(5YR 4/4) 内面：褐色(5YR 6/6)	外面：ナグ、LH、武鉢 内面：ナグ	石灰、角閃 石	なし	下層	
16 弥生後期 灰陶	口縁一部 破片	-	外面：にごり青褐色(10YR 6/3) 内面：にごり青褐色(10YR 5/3)	外面：混合口縁、ナグ、 LH、RL、縁によるキズ 内面：ナグ	石灰、白色鉄 素色鉄	なし	下層	



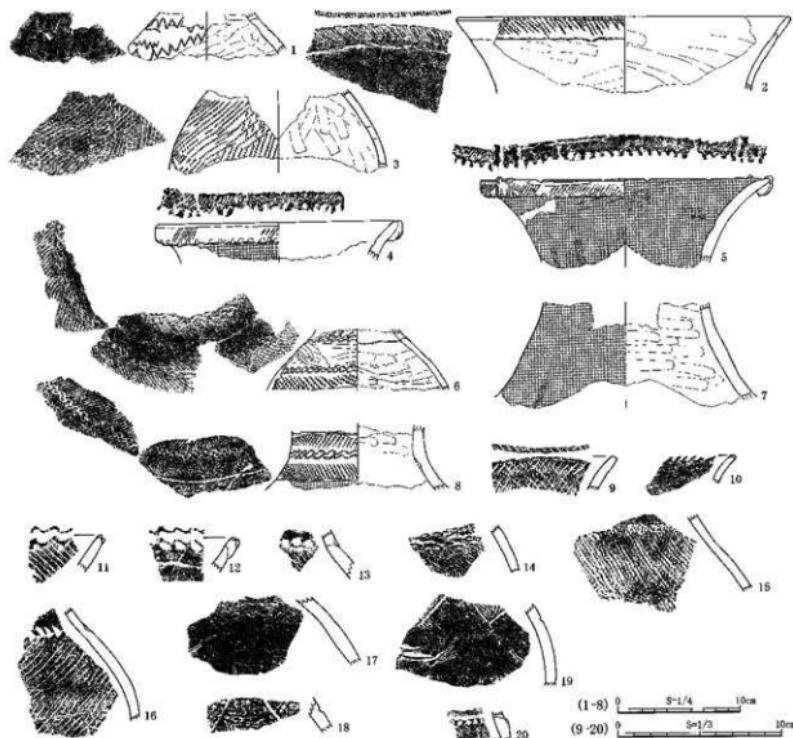
第13図 4号竪穴建物跡(1)

**埋土堆積状況：**本遺構の埋土では2層でロームブロックが中量検出され、3層でもロームブロックが少量検出された。さらに、埋土はいわゆるレンズ状堆積ではなく、いびつであることも踏まえると、本遺構は人為的に埋め戻されたものと考えられる。

**出土遺物点数：**弥生土器 215点

**出土遺物重量：**弥生土器 1,957g

**遺物出土状況：**1層を上層とし、2～5層を下層として遺物を取り上げた。遺物は上層から床面直上にかけて出土した。埋土の特徴から本遺構は人為的に埋め戻された可能性があ



第14図 4号竖穴建物跡 (2)

第11表 4号竖穴建物跡出土遺物観察表 (1)

遺物名	材質・表面状態	寸法	色調	文様・成形・装飾等	土層		スス・コマ 出土部位	備考
					土質	土色		
1 水牛後脚 蓋	角部 遺存 20%	縦: 9cm 遺存高: 3.9cm	外面: 棕色 (7.3VRE/6), 黒斑 内面: 棕色 (7.3VRE/6), 黒斑	内面: ナグ, ヘラ模様文 内面: ナグ, ユビオサエ 黒斑	石英, 角閃 灰岩, 黑石, 黒斑	なし	下層	
2 水牛後脚 塊	II様～III様 遺存 15%	口 縦: (26.0)cm 遺存高: 6.2cm	外面: 黒褐色 (7.3VKC/1) 内面: にごり褐色 (7.3VRE/3), 灰褐色 (7.3VRE/2)	内面: ナグ, LR-L-1, 地模をなして5字模様 文様になっている 内面: ナグ	石英, 角閃 灰岩, 白色粒, 黑色粒	外面: スヌ 内面: なし	下層	一部にS字状鉛錠 文あり、内面剥落 あり
3 水牛後脚 蓋	脚部 遺存 20%	遺存高: 6.5cm	外面: 棕色 (7.3VRE/6), 棕色 (7.3VRE/6) 内面: 黒褐色 (7.3VRE/1)	内面: ナグ, LR-R+R 内面: ハクナゲ	石英, 黄閃 灰岩, 黑石, 黑色粒	外面: スヌ 内面: なし	床面直上	
4 水牛後脚 蓋	II様～III様 遺存 20%	口 縦: (19.0)cm 遺存高: 3.2cm	外面: 棕色 (7.3VRE/6), 小影 内面: 棕色 (7.3VRE/6)	内面: 不明(新蔵により判 別できず)	石英, 角閃 灰岩, 黑石, 黑色粒	なし	下層 床面直上	器面の剥落美しい
5 水牛後脚 蓋	口縫～脚部 遺存 30%	口 縦: (23.0)cm 遺存高: 6.8cm	外面: 黒褐色 (7.3VRE/6), 黑 褐色 (7.3VRE/2), 小影, 黒斑	内面: ナグ, L, LR 内面: ハクナゲ	シモセツ, 小 石英, 角閃石, 灰岩, 黑石, 黑色粒	外面: スヌ 内面: なし	下層 床面直上	
6 水牛後脚 蓋	肩部 遺存 50%	遺存高: 5.0cm	外面: 棕色 (7.3VRE/6), 黑斑 内面: 棕色 (7.3VRE/6), 黑斑	5字模様文 内面: ナグ	石英, 角閃 灰岩, 黑石, 黑色粒	なし	上層 下層	

第12表 4号竪穴建物跡出土遺物観察表(2)

遺物名・目次	出土地点	寸法	色調	文様・成形・施用等	胎土	スコット	出土層位	備考
7 弥生後期 壺	脚部～背筋 堆存20%	底存高：8.0cm	外面：褐色(7.SYR7/6), 茶赤 内面：にじみ青褐色(10YR 7/4)	外縁：ミガキ 内面：ナゲ	シャモット, 石 英, 角閃石, 白色粒, 基 盤色	なし	上層 床面直上	外周斜面擦痕
8 弥生後期 壺	脚部～背筋 堆存20%	底存高：5.4cm	外面：茶赤褐色(5YR5/8), 黒斑 内面：茶褐色(7.SYR4/1) 外縁：茶褐色(10YR7/1) 内面：灰褐色(10YR4/2), 内縁：灰褐色(7.SYR4/1)	S字状弦文, 沈線 内縁：ナゲ	シャモット, 石 英, 角閃石, 白色粒, 基 盤色	なし	下層	外周斜面擦痕
9 弥生後期 壺	口縫部 破片	-	外面：茶褐色(7.SYR4/1) 内面：灰褐色(7.SYR4/1)	外縁：LR, RL 内縁：ナゲ	石英, 角閃 石, 白色粒, 内縁：ナゲ	外縁：スヌ 内面：なし	下層	
10 弥生後期 壺	口縫部 破片	-	外面：茶褐色(7.SYR4/1) 内面：灰褐色(7.SYR4/1)	外縁：ナゲ, 頭によじき手形 内縁：ナゲ	石英, 角閃 石, 白色粒, 内縁：ナゲ	なし	下層	
11 弥生後期 壺	口縫部 破片	-	外面：にじみ褐色(7.SYR6/5) 内面：にじみ褐色(7.SYR6/5)	外縁：ナゲ, RL + L + L 内縁：ナゲ	石英, 角閃 石, 白色粒, 内縁：ナゲ	なし	下層	大粒の石英多量含む
12 弥生後期 壺	口縫部 破片	-	外面：褐色(7.SYR6/6) 内面：褐色(7.SYR6/6)	外縁：ナゲ, 頭によじき手形 内縁：ナゲ	石英, 角閃 石, 白色粒, 内縁：ナゲ	なし	F層	
13 弥生後期 壺	脚部 破片	-	外面：褐色(7.SYR6/6), 黒斑 内面：褐色(7.SYR6/6)	外縁：ナゲ, 頭によじき手形 内縁：ナゲ	石英, 角閃 石, 白色粒, 内縁：ナゲ	なし	F層	
14 弥生後期 壺	脚部 破片	-	外面：茶褐色(7.SYR2/2) 内面：茶褐色(7.SYR2/2)	外縁：RL, S字状弦文 内縁：ナゲ	石英, 白色 内縁：ナゲ	なし	下層	
15 弥生後期 壺	脚部 破片	-	外面：茶褐色(7.SYR2/2) 内面：にじみ褐色(7.SYR6/2)	外縁：ナゲ, LR + L 内縁：ナゲ	石英, 角閃 石, 白色粒, 内縁：ナゲ	外縁：スヌ 内縁：なし	下層	
16 弥生後期 壺	脚部 破片	-	外面：茶褐色(10YR6/2) 内面：にじみ茶褐色(10YR 5/2)	外縁：ナゲ, 頭によじき手形 内縁：ナゲ	石英, 角閃 石, 白色粒, 内縁：ナゲ	外縁：スヌ 内縁：なし	下層	
17 弥生後期 壺	脚部 破片	-	外面：褐色(7.SYR4/2), 黒斑 内面：褐色(7.SYR6/6)	外縁：ナゲ, M字 内縁：ヘラギ	石英, 角閃 石, 白色粒, 内縁：ヘラギ	なし	下層	
18 弥生後期 壺	脚部 破片	-	外面：褐色(7.SYR6/6) 内面：にじみ茶褐色(10YR 7/4)	外縁：ナゲ, LR, 沈線 内縁：脚底で剥離不可	シャモット, 石 英, 角閃石, 白色粒, 基 盤色	なし	下層	
19 弥生後期 壺	脚部 破片	-	外面：茶赤褐色(5YR5/6), 黒斑 内面：にじみ青褐色(10YR 7/4)	外縁：ミガキ, LR, 沈線 内縁：ナゲ	海綿骨針, 石英, 角閃 石, 白色粒, 内縁：ナゲ	なし	上層	
20 弥生後期 壺	脚部 破片	-	外面：茶褐色(10YR6/4), 茶赤 内面：茶赤	外縁：複合形, ナゲ, ミガキ, 附加土3種 内縁：ナゲ	小突, 角閃 石, 内縁 内縁：ナゲ	なし	F層	

り、埋め戻しに伴いながら遺物は廃棄されたものと考えられる。4と5は下層から床面直上にかけて本遺構に散らばった状態で出土した。

遺物：2の外面には端末を縛ってS字状結節文状になった縄文が施されている。5・7・8・

18の胎土にはシャモットが含まれている。11の胎土には大粒の石英が多量に含まれている。19の胎土には海綿骨針が含まれている。

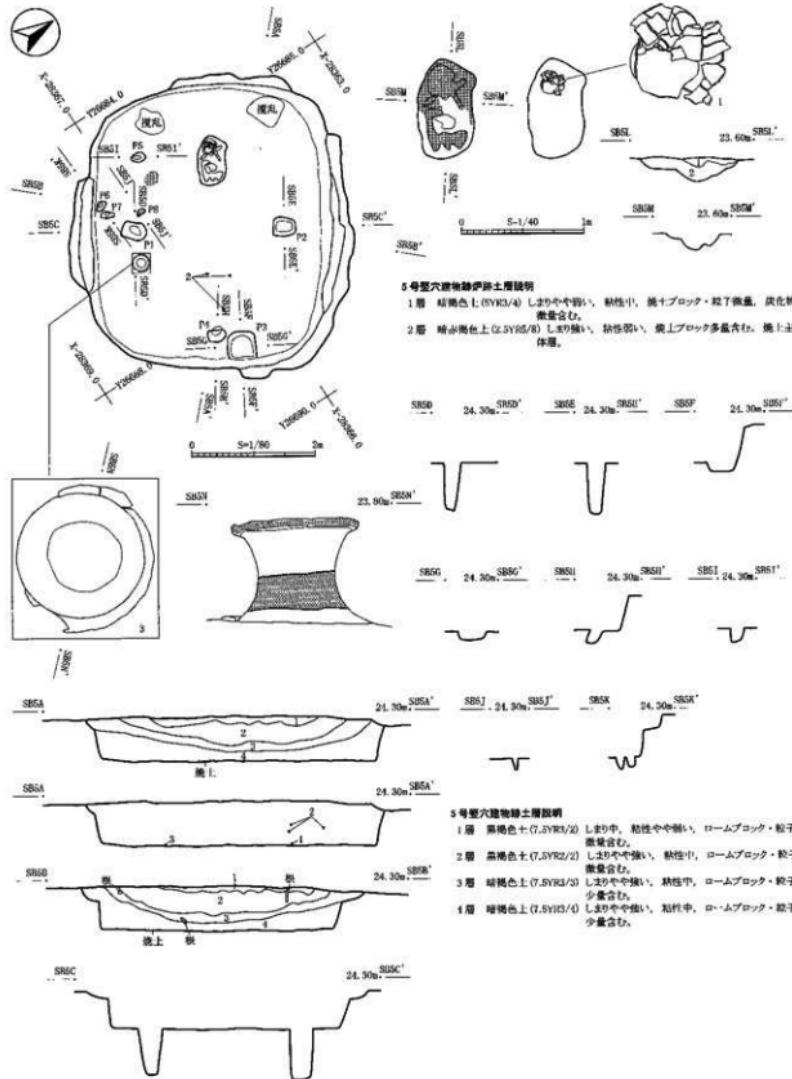
## 5号竪穴建物跡

時期：弥生時代後期 検出面：基本層序3層 平面形態：胴張隅丸長方形

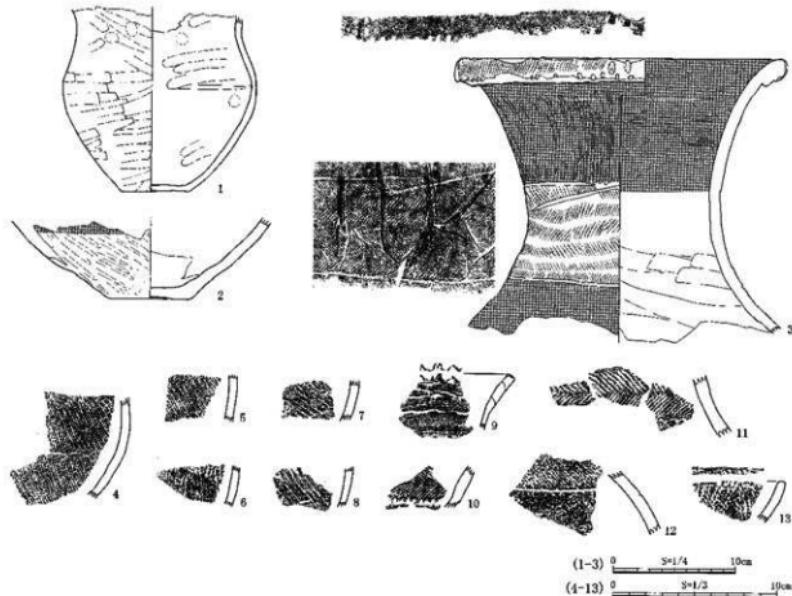
規模：長軸長4.67m(4.84m), 短軸長4.31m(4.62m), 深さ0.55m(0.74m)

構造：本遺構の床面は全体が強く硬化していた。炉は1基検出され、P1およびP2は柱穴と考えられる。炉では被熱面が認められ、炉の2層からは焼土ブロックが多量に確認された。竪穴壁沿いで検出されたP3は貯蔵穴と考えられ、P4は壁から炉に向かって斜め方向に掘りこまれていることから入口施設に関わるピットと考えられる。P5～P8は性格不明のピットで、本遺構に伴うピットかどうかも含めて判断することは難しい。北東側から南東側、南西側、そして北西側において竪穴壁上端部から外側に向かって掘り込みが確認された。その断面の形状としては緩やかに傾斜するものと半U字状を呈したもののが認められた。

埋土堆積状況：いわゆるレンズ状堆積で、本遺構の北東から東側、南西側、北西側で確認さ



第15図 5号堅穴建物跡（1）



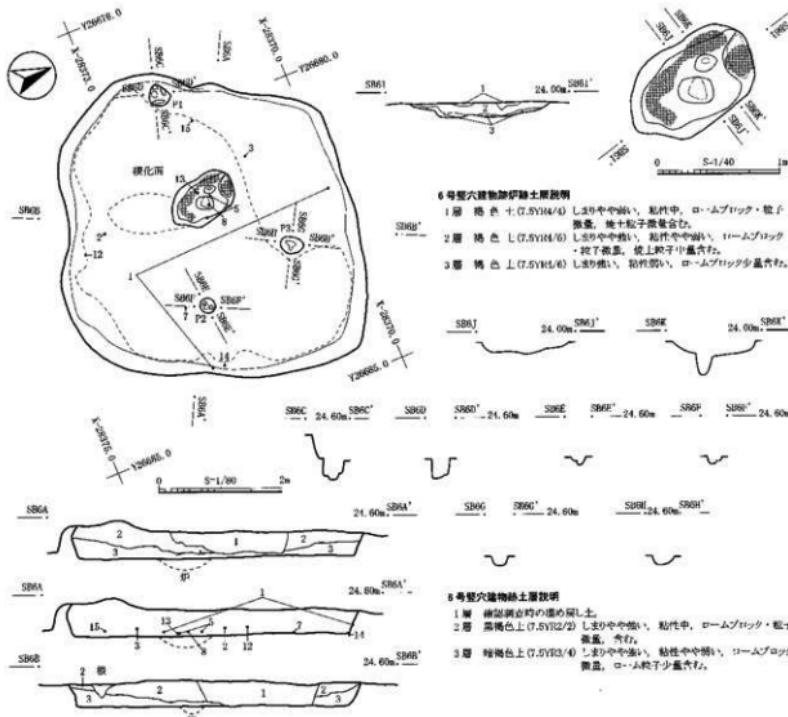
第16図 5号竖穴建物跡（2）

第13表 5号竖穴建物跡出土物観察表（1）

番号	材質・器種	遺存状況	寸法	色調	文様・風格・施装等		地土	スズ・コブ	出土層位	備考
					外面	内面				
1	陶土後期 甕	頭部～底部 遺存 95%	底 径：5.3cm 側底最大径：18.8cm 遺存高：14.4cm	外側：青褐色 (SYR6/6) 内側：明褐色 (SYR6/6)	表面：下貝ナデ、鉢脚、底玉長、角閃石、長石、透明 内面：一岐形ナゲ	内面：コガナ 内面：透明に 透明	土質	スズ	炉壁土 上層	
2	陶生後期 甕	頭部～底部 遺存 40%	底 径：6.5cm 遺存高：6.8cm	外側：青褐色 (SYR6/6), に白ナ 赤褐色 (SYR5/4) 内側：白色 (SYR6/6), に白ナ 内面：青褐色 (SYR5/4)	表面：ミガナ 内面：ナデ	内面：ナデ	シカモリ、石 英、黑色粒	なし	上層 下層	内面の剥落度高い
3	陶小後期 蓋	口縁～器部 遺存 100%	口 縫：26.4cm 遺存高：22.5cm	外側：複数褐色 (SYR7/1), 赤茶、黒茶 内側：複数褐色 (SYR7/1), 小窓	表面：複数ヒビ、ミガナ、 沈殿、RI、LR 内面：ナデ、ミガナ	内面：ナデ	シヤモリ、石 英、角閃石、 黑色粒	なし	床面直上	大粒の黒色粒多く 含む。軽用器何か
4	陶生後期 甕	頭部 破片	-	外側：褐色 (7.SYR6/6) 内側：褐色 (7.SYR6/6)	表面：RL + L + L 内面：ナデ	内面：ナデ	角閃石、白 色粒	スズ	下層	内面や底部より
5	陶午後期 甕	頭部 破片	-	外側：に白ナ 内側：に白ナ 褐色 (SYR5/1)	表面：RL + L + L 内面：ナデ	内面：ナデ	石英、角閃 石、白色粒	なし	上層	
6	陶生後期 甕	頭部 破片	-	外側：に白ナ 内側：に白ナ 褐色 (SYR4/2)	表面：RL + L ? 内面：ナデ	内面：ナデ	石英、白色 粒、黑色粒	なし	下層	
7	陶生後期 甕	頭部 破片	-	外側：褐色 (7.SYR7/6), 水滴 色 (7.SYR5/2) 内側：褐色 (7.SYR7/6)	表面：RL + L + L 内面：ナデ	内面：ナデ	石英、白色 粒、黑色粒	なし	下層	
8	陶生後期 甕	頭部 破片	-	外側：に白ナ 内側：に白ナ 褐色 (7.SYR5/4)	表面：RL + L + L 内面：ナデ	内面：ナデ	石英、白色 粒、黑色粒	なし	下層	
9	陶生後期 甕	口縁部 破片	-	外側：青褐色 (SYR7/4), 透明 (SYR6/6) 内側：褐色 (SYR6/6), に茶内面：ナデ 内面：褐色 (7.SYR6/6), に白ナ 内面：褐色 (7.SYR5/3)	表面：ナデ、交差押捺 内面：ナデ	内面：ナデ	石英、角閃 石、白色粒	なし	床面直上	
10	陶生後期後半 甕	口縁部 破片	-	外側：褐色 (7.SYR7/6) 内側：褐色 (7.SYR7/6), 小窓内面：ミガナ	表面：RL, RL 内面：RL	内面：ミガナ	石英、白色 粒、黑色粒	なし	下層	

第14表 5号竪穴建物跡出土遺物観察表(2)

遺物番号	形式・別種類	表面性状	寸法	色調	文様・成形・隕等	胎土	スコット	出土層位	備考
11	炉付灰陶 壺	褐色 破片	-	外面: 棕色 (7.5YR6/0) 内面: にがい褐色 (7.5YR5/3)	外側: ロム, HL 内面: ナデ	土質、白色 軟、黒色粒	なし	上層 内面や剝落あり	
12	炉付灰陶 壺	褐色 破片	-	外面: 灰褐色 (7.5YR4/2) 内面: 棕色 (7.5YR6/6)	外側: ニガキ, HL 内面: ニガキ	シャモット、石 白色粒	なし	上層 内面や剝落あり	
13	朱牛象形 洗耳	II級部 破片	-	外面: にがい褐色 (7.5YR6/2) 内面: にがい褐色 (7.5YR5/3)	外側: ニガキ, HL + Lシラ (擦れ凹溝などで判別難)	白色粒、黒 色粒	なし	下層 内面や剝落あり	



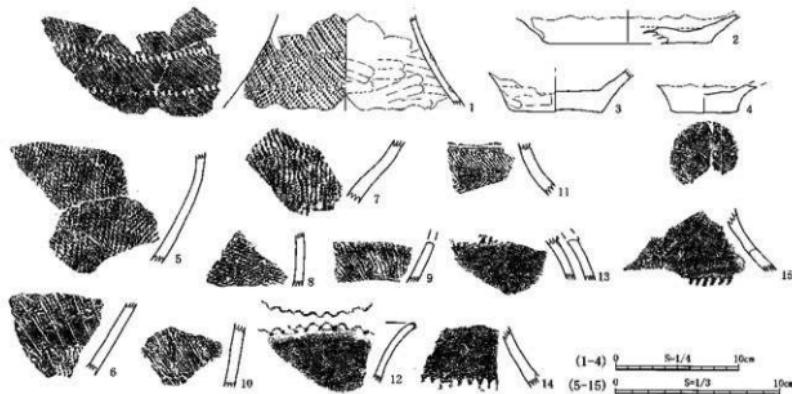
第17図 6号竪穴建物跡(1)

れた浅い掘り込みから竪穴壁の内側に向かって3層・4層が入り込んでいた。

出土遺物点数：弥生土器 78 点

出土遺物重量：弥生土器 3,395g

遺物出土状況：1～2層を上層、3～4層を下層として遺物を取り上げた。上層出土の遺物はやや少なく、遺物の多くは下層から床面直上にかけて出土した。3は若干傾きながらも口縁部を上にした状態で床面直上から出土した。一方、1は炉の埋土1層上端から出土し

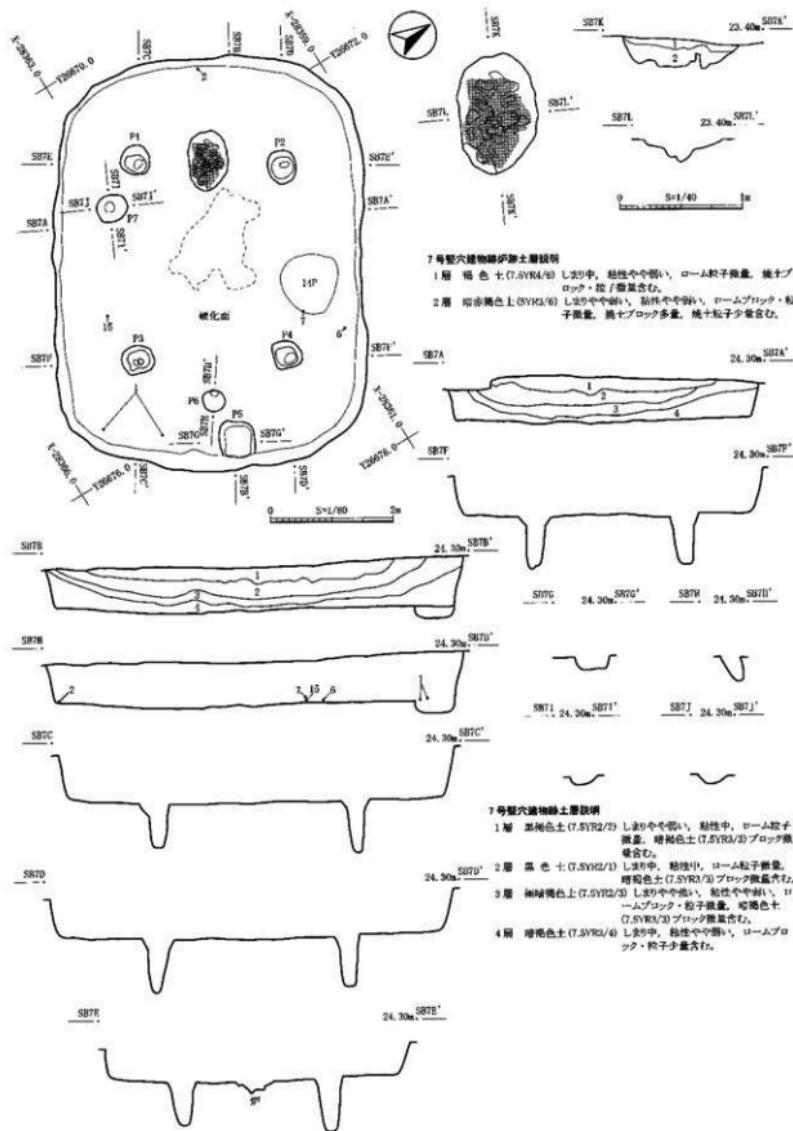


第18図 6号竪穴建物跡(2)

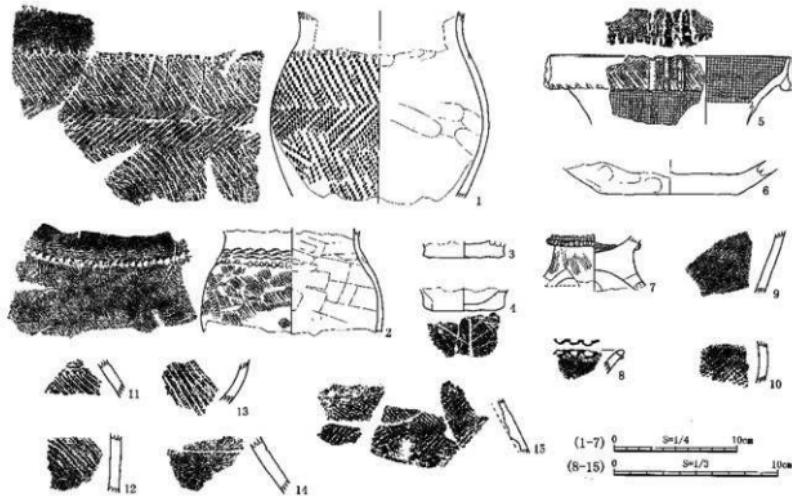
第15表 6号竪穴建物跡出土遺物観察表

遺物名・形式・特徴	寸法	色	大きさ・形状・断面等		断土	スコット出土層位	備考
			外面	内面			
1 打小鉤頭 頭	頭～背部 直徑2.0cm	外面：褐色 (7.SVRS/6) 内面：褐色 (7.SVRS/6)	外縁：RL + L.L. キサギ (Y.古木、角閃 石、白色粒、なし)	内縁：ナダ	下層 表面斜上心	大粒の石灰多量含	
2 張生後削 頭	頭部 直徑2.0cm	外面：褐色 (7.SVRS/6) 内面：褐色 (7.SVRS/6)	外縁：ナダ	内縁：ナダ	下層	内面剥離跡	
3 張生後削 頭	頭部 直徑2.0cm	外面：褐色 (7.SVRS/6) 内面：褐色 (7.SVRS/6)	外縁：ナダ	内縁：ナダ	下層	内面剥離跡	
4 張生後削 頭	頭部 直徑2.0cm	外面：褐色 (7.SVRS/6) 内面：褐色 (7.SVRS/6)	外縁：ナダ	内縁：ナダ	下層	内面剥離跡	
5 張生後削 頭	頭部 直徑2.0cm	外面：褐色 (7.SVRS/6) 内面：褐色 (7.SVRS/6)	外縁：ナダ	内縁：ナダ	下層	内面剥離跡	
6 張生後削 頭	頭部 破片	-	外縁：褐色 (7.SVRS/6) 内面：褐色 (7.SVRS/6)	五角、黒色 内縁：ナダ	下層	下層	
6 張生後削 頭	頭部 破片	-	外縁：褐色 (7.SVRS/2) 内面：褐色 (7.SVRS/2)	外縁：RL + L. 内縁：ナダ	下層	6.6と同一個体の 可能性あり	
7 張生後削 頭	頭部 破片	-	外縁：褐色 (7.SVRS/6) 内面：褐色 (7.SVRS/6)	外縁：RL 内縁：ナダ	下層 表面斜上	外縁：灰 色、白色 内縁：ナダ	
8 張生後削 頭	頭部 破片	-	外縁：褐色 (7.SVRS/6) 内面：褐色 (7.SVRS/6)	外縁：ナダ 内縁：ナダ	下層	外縁：灰 色、白色 内縁：ナダ	
9 張生後削 頭	頭部 破片	-	外縁：褐色 (7.SVRS/6) 内面：褐色 (7.SVRS/6)	外縁：RL + L. 内縁：ナダ	下層	外縁：スズ 内縁：ナダ	
10 張生後削 頭	頭部 破片	-	外縁：褐色 (7.SVRS/6) 内面：褐色 (7.SVRS/6)	外縁：ナダ 内縁：ナダ	下層	外縁：灰 色、白色 内縁：ナダ	
11 張生後削 頭	頭部 破片	-	外縁：褐色 (7.SVRS/6) 内面：褐色 (7.SVRS/6)	外縁：RL + L. 内縁：ナダ	下層	外縁：白 色、白色 内縁：ナダ	
12 張生後削 頭	口縁一部 破片	-	外縁：褐色 (7.SVRS/1) 内面：褐色 (SYR/2)	外縁：ナダ 内面：ナダ	下層	外縁：青 色、角閃 石、白色粒、 内面：スズ	
13 張生後削 頭	頭部 破片	-	外縁：褐色 (7.SVRS/6) 内面：褐色 (7.SVRS/6)	外縁：ナダ 内面：ナダ	下層	外縁：白 色、白色 内面：ナダ	
14 張生後削 頭	頭部 破片	-	外縁：褐色 (7.SVRS/1) 内面：褐色 (7.SVRS/1)	外縁：ナダ 内面：ナダ	下層	外縁：スズ 内面：ナダ	
15 張生後削 頭	頭部 破片	-	外縁：褐色 (7.SVRS/6) 内面：褐色 (7.SVRS/6)	外縁：ナダ 内面：ナダ	下層	外縁：青 色、角閃 石、白色粒、 内面：ナダ	

た。1は底面が斜め上方向を向き、さらには肩部あたりがちょうど炉の埋土1層上端に接するように出土したことから、底面を斜め上方向に向かつて横にした状態で置かれ、その後土圧によって潰れたものと考えられる。



第19図 7号竖穴建物跡 (1)



第20図 7号竖穴建物跡 (2)

第16表 7号竖穴建物跡出土遺物観察表 (1)

遺物名	形式・断面等	遺物状態	立溝		土基	文様・成形・開閉部	出土	スコア(出土個数)	備考
			外面	内面					
1 余生後期 壁	断面一部 調査最大径:(17.0cm 進存高:16.3cm	表面:褐色(SYR9/6), にぶい褐色(SYR5/4) 内面:褐色(SYR9/6)	外面:ナガ, キズ, リン, L 内面:ナグ	石, 白色粒 黑色粒	外面:ヌメ 内面:なし	上層 下層 床面直上	大粒の石英多量化	1	
2 余生後期 焼	断面一部 調査最大径:(15.0cm 進存高:25.5cm	表面:黄色(SYR9/7/8), 風化:褐色(SYR7/8)	外面:ナガ, 織文によるキ チズ, 直前段3全白, 内面:ヘナナギ	織文青苔, 有光, 有閃 無光, 黄白色 黑色粒, 黑 色粒	外面:なし	床面直上	内面剥落あり	2	
3 余生後期 壁	底部 底: 6.0cm 進存高: 13.3cm	表面:褐色(SYR9/6) 内面:明る褐色(SYR9/6)	外面:ナグ	石, 白色粒 黑色粒	外面:なし	上層 下層 床面直上		3	
4 余生後期 壁	底部 底: 6.0cm 進存高: 1.8cm	表面:にぶい赤褐色(SYR9/6) 内面:コツ付着により不明	外面:ナグ 内面:ナグ	石, 有光 白色粒	外面:なし 内面:コグ	上層 下層	赤褐色質化	4	
5 余生後期 板	口縁部 進存高: 3.7cm	表面:褐色(SYR9/6), 由 織文: LR+RL 内面:淡褐色(SYR9/6), 水滴 痕跡:ミカキ	表面:ナガ, L方軸, 織 文: LR+RL, 有 光, 黄白色 内面:ナグ	織文青苔, 石 英, 黄石, 黑 色粒	外面:なし	床面直上		5	
6 余生後期 壁	底部 底: 0.12cm 進存高: 2.8cm	表面:褐色(SYR9/7/8) 内面:灰褐色(SYR9/6)	外面:ナグ 内面:剥離により不明	シヤセッタ, 石 英, 有閃石, なし ナグ	外面:なし	上層	内面剥離跡	6	
7 余生後期 窓枠	既破壊面～ 調査上部 進存高: 10.0cm	表面:灰褐色(SYR9/2) 内面:ナグ	外面:ナグ, ミカキ, 陰面 内面:ミカキ, ナグ	石英, 有閃 石, 長石, 黑色粒	外面:なし	下層		7	
8 余生後期 焼	口縁部 破片	-	表面:黒褐色(SYR9/1) 内面:灰褐色(SYR9/3/4)	外面:ナグ, 神経 内面:ナグ	石英, 有閃 石, 黄石, 黑色粒	床面直上		8	
9 余生後期 壁?	調査 破片	-	表面:褐色(SYR9/7/6), にぶ い褐色(SYR9/3) 内面:褐色(SYR9/5), にぶ い褐色(SYR9/3/4)	外面:ナグ, LR+R, S字状 内面:ナグ	有閃石, 白 色粒, 黑色 粒	外面:なし	上層	9	
10 余生後期 壁	調査 破片	-	表面:灰褐色(SYR9/6) 内面:灰褐色(SYR9/2)	外面:ナグ 内面:ナグ	石英, 有閃 石, 白色粒	外面:なし	上層	10	
11 余生後期 壁	調査 破片	-	表面:灰褐色(SYR9/1) 内面:灰褐色(SYR1/2)	外面:LR+L, L+I, S字状 内面:ナグ	石英, 白色 粒, 黑色粒	外面:なし	下層	11	
12 余生後期 壁	調査 破片	-	表面:褐色(SYR9/6) 内面:褐色(SYR9/6)	外面:ナグ, LR+I, +L 内面:ナグ	石英, 有閃 石, 白色粒, 黑色粒	外面:ヌメ 内面:なし	上層	12	

第17表 7号竪穴建物跡出土遺物観察表(2)

遺物No.	形式・器種	遺在状態	寸法	色調	文様・成形・施釉等	胎土	スス・コゲ	出土層位	備考
13	弥生後期 壺	脚部 破片	-	外面：黒褐色(7.5YR3/1) 内面：黒褐色(7.5YR3/1)	外面：Rd.+1.-L. 内面：ヘラナデ	石英、角閃 石、赤い、 黒い。	なし	下層	
14	弥生後期 壺	脚部 破片	-	外面：褐色(5YR6/6) 内面：褐色(5YR6/6)、褐灰 色(10YR4/1)	外面：ナデ、Lk. 比較 的	石英、角 閃石、白 色。	なし	床面直上	
15	弥生後期 壺	脚部 破片	-	外面：にぶい黄褐色(10YR 6/4)、黒灰 色(10YR6/4)	外面：Rk.、Rd. 5半胱 酸	シモギ、石 英、角閃石、 長石、黑色 鉄。	なし	床面直上 内面側底面等に 調整不明	

遺物：2・3・12の壺にはシャモットが含まれている。3は転用器台の可能性があるが、転用器台にしばしば見られる断面の研磨痕は見られない。1の内面底部にはコゲが見られ、炊飯に使われた可能性がある。

## 6号竪穴建物跡

時期：弥生時代後期 検出面：基本層序3層 平面形態：不整胴張隅丸方形

規模：長軸長4.75m 短軸長4.7m 深さ0.63m

構造：炉が1基、そして掘り込みはやや浅いが、柱穴と考えられるP1が検出された。P2とP3は掘り込みがかなり浅く、本遺構に伴うものかどうかも含めてその性格は不明である。炉には被熱面が見られたが、炉の埋土からは焼土ブロックは検出されず、2層から焼土粒子が中量検出された。床面は一部を除いて硬化していた。

埋土堆積状況：いわゆるレンズ状堆積を呈していた。1層は確認調査時に掘削したトレンチの埋め戻し土である。

出土遺物点数：弥生土器45点

出土遺物重量：弥生土器834g

遺物出土状況：2層を上層とし、3層を下層として遺物を取り上げた。上層から出土した遺物は少なく、遺物の多くは下層から床面直上にかけて出土した。総じて遺物の出土量は少なかった。

遺物：1の土器の胎土には大粒の石英が多量に含まれており、他の土器とは胎土期の特徴上一線を画す。6・9は同一個体の可能性がある。11の胎土にはシャモットが含まれている。

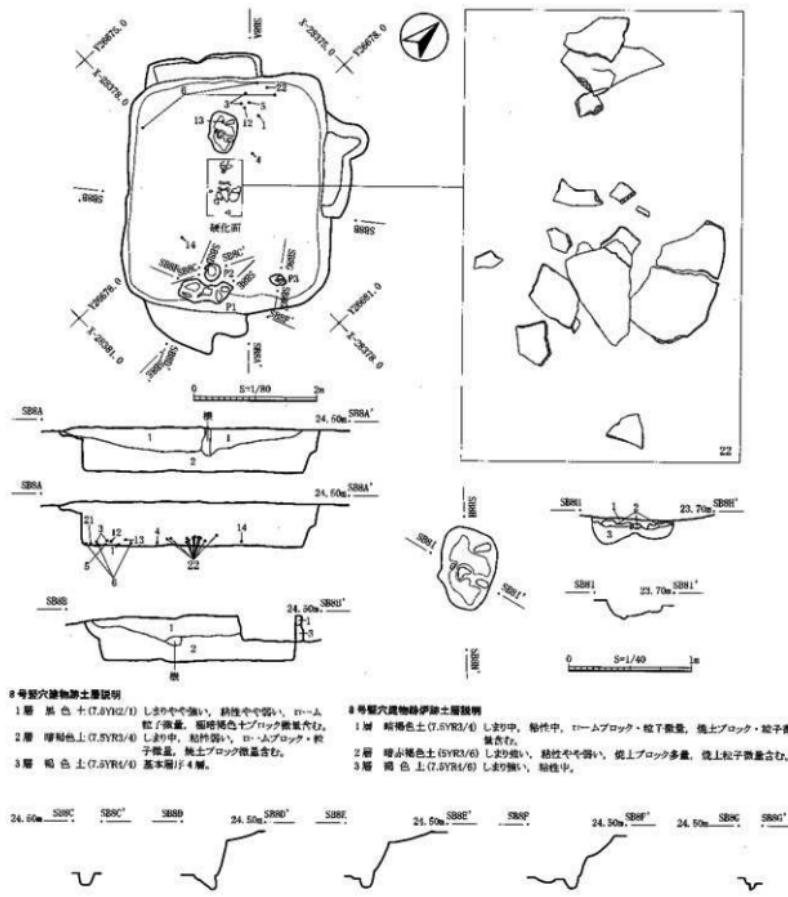
## 7号竪穴建物跡

時期：弥生時代後期 検出面：基本層序3層 平面形態：胴張隅丸長方形

新旧関係：7号竪穴建物跡<14P

規模：長軸長6.77m 短軸長5.02m 深さ0.80m

構造：炉が1基、そして柱穴と考えられるP1～P4が検出された。P5はその位置から貯蔵穴と考えられる。P6は壁から炉に向かって斜め方向に掘りこまれていることから人口施設に関わるピットと考えられる。P7は掘り込みが浅く、その性格は不明である。本遺構の中央の一部を除き、床面は強く硬化していた。炉には被熱面が見られ、炉の2層から



第21図 8号竖穴建物跡 (1)

は焼土ブロックが多量に検出された。

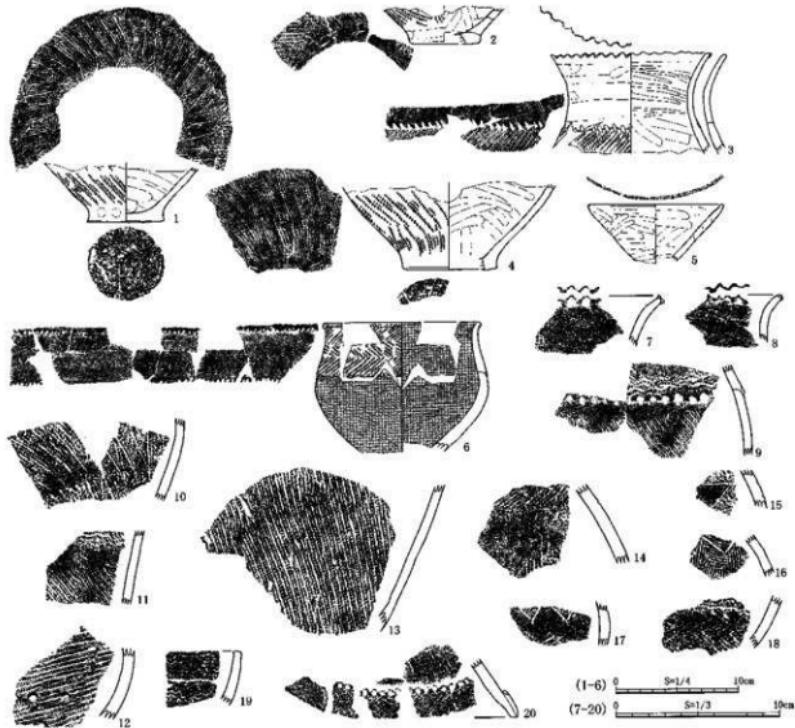
**埋土堆積状況 :** いわゆるレンズ状堆積を呈していた。

**出土遺物点数 :** 弥生土器 60 点

**出土遺物重量 :** 弥生土器 1,251g

**遺物出土状況 :** 1～2層を上層、3～4層を下層として遺物を取り上げた。遺物は上層から床面直上にかけて出土した。

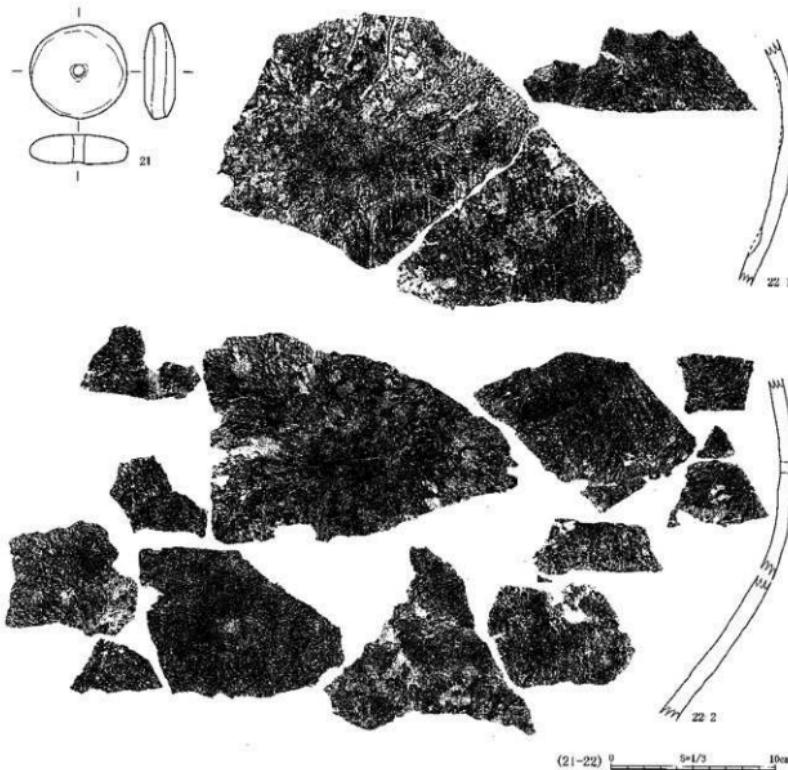
**遺物 :** 1の胎土には大粒の石英が多量に含まれている。2の胎土には海绵骨針が含まれてい



第22図 8号竪穴建物跡（2）

第18表 8号竪穴建物跡出土遺物観察表（1）

遺物名	形式・堆積形	遺物状況	寸法	色調	文様・成形・開閉部	出土	土器・土製品		備考
							スス・コグ	出土位置	
1 弁生後期 壺	壺～底削 底付100%	底付：8.3cm 底高：4.7cm	外面：灰青褐色(7.0YR7/6), 褐色(7.5YR8/6), 黑褐 内面：黑色(7.5YR8/6), 黑褐	外面：R+, L 内面：ナダ	石英, 角閃 石, 灰岩, 黑岩 泥岩	石英, 角閃 石, 灰岩, 黑岩 泥岩	スス コグ	床面直上 底部木棧板あり	
2 弁生後期 壺	底付 底付20%	径：5.3cm 底付高：3.1cm	外面：灰青褐色(7.0YR6/6) 内面：灰青褐色(7.0YR6/6)	外面：ナダ, R+, L+L, 内面：ナダ	石英, 花崗 石, 灰岩, 黑岩 泥岩	石英, 角閃 石, 灰岩, 黑岩 泥岩	スス コグ	床面直上 下層	
3 弁生後期 壺	口縁～側面 底付40%	径：(3.2)cm 底付高：3.2cm	外面：灰青褐色(7.5YR7/4) 内面：灰青褐色(7.5YR7/4)	外面：ナダ, 圖文による牛 頭, LR+R+R 内面：ヘラナジ, ミガキ	石英, 角閃 石, 灰岩, 黑岩 泥岩	石英, 角閃 石, 灰岩, 黑岩 泥岩	スス コグ	床面直上 下層	
4 弁生後期 壺	胸～近底 底付20%	径：(7.7)cm 底付高：6.7cm	外面：褐色(7.5YR 6/4), 黑褐色(7.5YR 6/4), 黑褐 内面：褐色(7.5YR 6/4), 黑褐	外面：RL+L, 内面：ナダ	石英, 角閃 石, 灰岩, 黑岩 泥岩	石英, 角閃 石, 灰岩, 黑岩 泥岩	なし	床面直上 下層	
5 弁生後期 壺	口縫～側面 底付20%	径：(10.0)cm 底付高：4.6cm	外面：褐色(7.5YR7/6), 棕色 (7.5YR6/6) 内面：褐色(7.5YR6/6), 黑褐	外面：ヘラナジ, RL 内面：ナダ	石英, 角閃 石, 灰岩, 黑岩 泥岩	石英, 角閃 石, 灰岩, 黑岩 泥岩	なし	床面直上 下層	
6 弁生後期 広口壺	口縫～側面 底付30%	径：(12.0)cm 底最大径：(11.2)cm 底付高：10.6cm	外面：褐色(7.5YR6/2), 棕色 (7.5YR6/6) 内面：褐色(7.5YR6/6), 黑褐 底付：黑色	外面：ナダ, ミガキ, LR+R, L 内面：ミガキ	石英, 角閃 石, 灰岩, 黑岩 泥岩	石英, 角閃 石, 灰岩, 黑岩 泥岩	なし	下層 床面直上	
7 弁生後期 壺	口縫部 破片	-	外面：灰青褐色(7.0YR5/4) 内面：褐色(7.5YR6/6), 黑褐	外面：ナダ, 交互押捺 内面：ヘラナジ	石英, 灰岩, 黑岩 泥岩	石英, 灰岩, 黑岩 泥岩	スス コグ	床面直上 下層	



第23図 8号竖穴建物跡（2）

第19表 8号竖穴建物跡出土遺物観察表（2）

遺物名	形状・特徴	直徑	色調	文様・成形・開口部	胎土	スス・コゲ	出土層目	備考
8 陶片 破片	口縁部 破片	-	外面：茶褐色 (10YR 6/4) 内面：灰褐色 (10YR 5/4) に少しうれ色 (10YR 3/3)	外面：ナガ、交差押出 内面：ナガ	赤灰、角閃石、長石、 黑色鉄	なし	下層	
9 陶片 破片	胸部 破片	-	外面：褐色 (7.5YR 7/8) 内面：褐色 (7.5YR 7/6)、に少 し褐色 (7.5YR 7/4)	外面：微細織み、S字状 筋物文、RL + L + L 内面：ヘタリナ	石英、長石、 黑色鉄	なし	中土	
10 陶片 破片	胸部 破片	-	外面：褐黃褐色 (10YR 6/6) 内面：褐黃褐色 (10YR 6/6)	外面：RL + L 内面：ナガ	石英、角閃 石、長石、 黑色鉄	外面：スス 内面：コゲ	上層	
11 陶片 破片	胸部 破片	-	外面：褐色 (7.5YR 6/8) 内面：褐色 (7.5YR 6/6)	外面：ナガ、RL + L + L 内面：ナガ	石英、角閃 石、長石、 黑色鉄	なし	下層	
12 陶片 破片	胸部 破片	-	外面：褐色 (7.5YR 7/6) 内面：に少し黄褐色 (10Y 6/4)、褐褐色 (10YR 3/1)	外面：RL + L + L 内面：ナガ	石英、角閃 石、長石、 黑色鉄	なし	下層	外面上に附で押さえ 痕あり
13 陶片 破片	胸部 破片	-	外面：に少し黄褐色 (10Y 6/4) 内面：褐色 (7.5YR 7/6)	外面：RL - L + L 内面：剥落ひどく不明	石英、角閃 石、長石、 黑色鉄	外面：スス 内面：なし	下層	内面剥落ひどく調 理不明 人絞の岩炎多発合 計

第20表 8号堅穴建物跡出土遺物観察表(3)

遺物名	形式・性質等	遺物状態	寸法	色調	文様・痕跡・異常等	胎土	スス・コケ	出土層位	備考
14 弥生後期 壺	肩部 破片	-		外面：褐色(7.5YR5/6)、墨黒 内面：褐色(7.5YR5/6)	外底：LIL, IL, 沈痕 内面：ヘラナダ	シャモット、石 英石、長石、 雲母、無色 色鉄	なし	下層	外面磨耗著者で陶 器不明
15 弥生後期 壺	肩部 破片	-		外面：褐色(7.5YR7/6)、赤褐色 内面：褐色(7.5YR7/6)	外底：S字状筋跡文、沈痕 内面：ナダ	シャモット、石 英石、長石、 雲母、無色 色鉄	なし	下層	
16 弥生後期 壺	肩部 破片	-		外面：褐色(7.5YR7/6)、赤褐色 内面：褐色(7.5YR7/6)	外底：LR, RL、沈痕 内面：ヘラナダ	シャモット、石 英石、長石、 雲母、無色 色鉄	なし	下層	外面磨耗不明 内面少々剥落
17 弥生後期 壺	肩部 破片	-		外面：褐褐色(7.5YR5/6)、 赤褐色 内面：褐褐色(7.5YR5/6)	外底：ナダ、LR、沈痕 内面：ナダ	シャモット、石 英石、長石、 雲母、無色 色鉄	なし	上層	
18 弥生後期 壺	肩部 破片	-		外面：褐色(5YR5/6) 内面：褐色(5YR5/6)	外底：附加条3種(LIL+0 段の系)、S字状筋跡文 内面：ナダ	シャモット、石 英石、長石、 雲母、無色 色鉄	なし	埋土	
19 弥生後期 壺	口縁部 破片	-		外面：褐色(5YR7/6)、に凹 脊有り 内面：褐褐色(5YR4/2)、に凹 い脊有り(5YR5/4)	外底：S字状筋跡文 内面：ミガキ	石英、角閃 石、長石、 雲母、無色 色鉄	なし	上層	
20 弥生後期 壺	脚部 破片	-		外面：褐褐色(10YR5/6), に凹い脊有り(10YR5/4), 赤褐色、墨黒 内面：に凹い脊有り(10YR 5/4)、に凹い脊有り(10YR 5/3)、墨黒	外底：ナダ、ナザン、複合 脚、附加条3種(縮不明 +1) 内面：ナダ	シャモット、 石英、長石、 雲母、無色 色鉄	なし	下層	
21 弥生後期 幼形壺	通存100%	厚 さ: 5.9cm 幅 さ: 1.8cm		明示褐色(5YR6/6)、灰褐色 (7.5YR5/2)	内面：ヘラナダ	石英、長石、 雲母、無色 色鉄	なし	床面直上	
22 弥生後期 壺	肩部 破片	-		外面：褐色(7.5YR7/6) 内面：に凹い脊有り(10YR 7/4)	内面：ミガキ 内面：ヘラナダ	石英、角閃 石、長石、 雲母、無色 色鉄	なし	下層	外表面粗、表面劣 化し、内面剥落著 者

る。6・14・15の胎土にはシャモットが含まれている。15は壺の肩部で外面が摩耗しており、内面も剥落が著しい。

## 8号堅穴建物跡

時期：弥生時代後期 検出面：基本層序3層 平面形態：隅丸長方形

規模：長軸長3.87m(4.90m)、短軸長3.20m(3.91m)、深さ0.54m(0.74m)

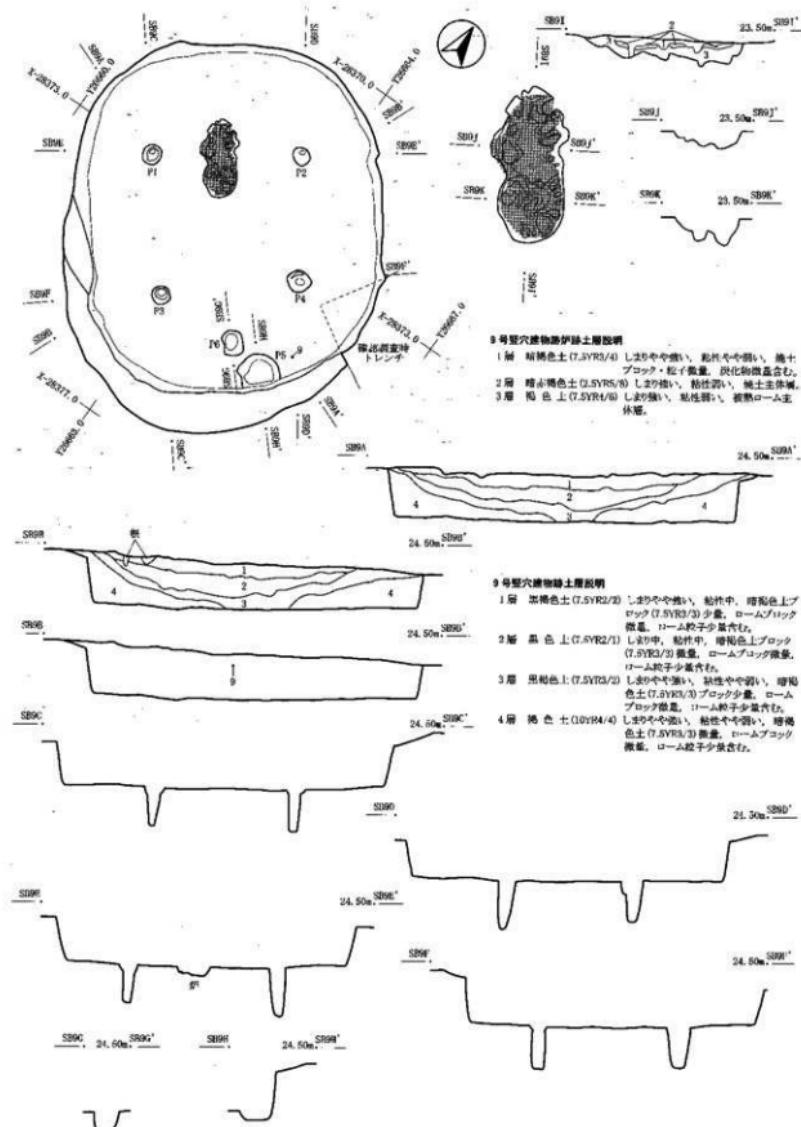
構造：床面は全面が強く硬化していた。炉は1基検出された。炉の埋土では焼土ブロックが多量に確認されたが、被熱面は検出されなかった。ピットは3基検出され、P1は位置や深さから貯蔵穴と考えられる。また、P2はその位置から入口施設に関わるピットと考えられる。一方、P3は本遺構に伴うものかどうか確証はなく、直径は狭く、掘り込みも浅い。なお、柱穴と考えられるピットは検出されなかった。本遺構の北東側、南東側、そして北西側からは堅穴壁上端部の外側に浅い掘り込みが確認され、その断面の特徴としては緩やかに傾斜するものと半U字状を呈したもののが認められた。

埋土堆積状況：いわゆるレンズ状堆積で、本遺構の北東側、南東側、そして北西側で確認された浅い掘り込みから堅穴壁の内側に向かって1層が入り込んでいた状況が見られた。

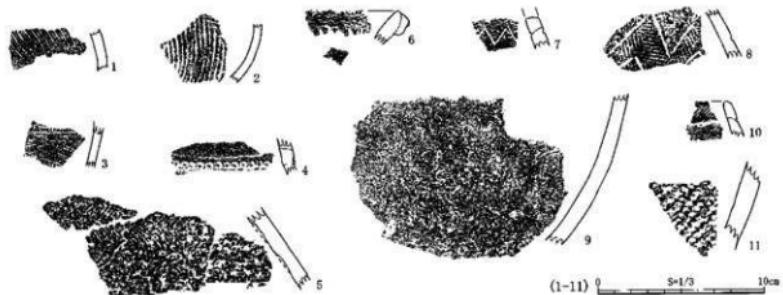
出土遺物点数：弥生土器31点

出土遺物重量：弥生土器3,780g、弥生時代土製品44g

遺物出土状況：1層を上層、2層を下層として遺物を取り上げた。上層出土の遺物は少なく、下層から床面直上にかけて多くの遺物が出土した。壺の胴部片である22は各破片が散らばるように下層から出土し、さらにはそれらの破片の多くが接合しなかった。このことから、本来は大形壺だった22の胴部片の一部がバラバラな状態で本遺構に投げ捨てられた



第24図 9号竪穴建物跡(1)



第25図 9号竪穴建物跡(2)

第21表 9号竪穴建物跡出土遺物観察表

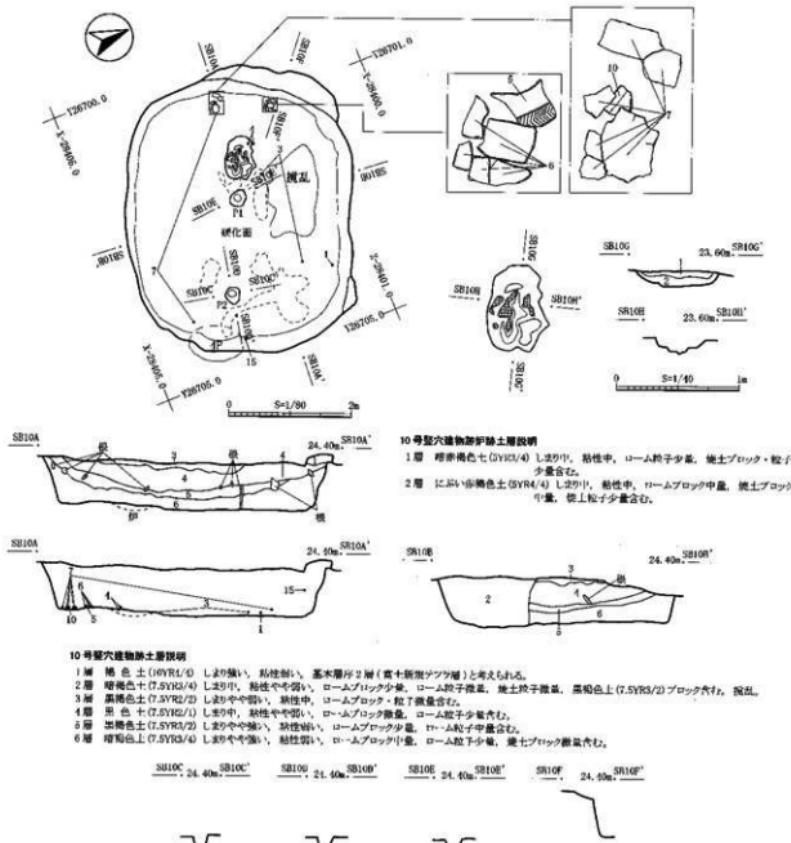
試験番号	E・N・S・W・H	遺物位置	寸法	色調	文様・成形・装飾等	胎土	スス・コゲ		備考
							外面	内面	
1 弥生後期 壺	胴部 破片	-	外面：黒褐色(7.5YR3/1) 内面：灰・黄褐色(10YR 6/4)	外面：Rd.+I.-L. 内面：ナゲ	石英、角閃 石、灰岩、 黑色粘土	外面：コス 内面：コゲ			胎土一括
2 弥生後期 壺	胴部 破片	-	外面：黒褐色(7.5YR3/1) 内面：灰・黄褐色(10YR 6/4)、墨灰	外面：Rd.+I.-L 内面：ナゲ	石英、角閃 石、灰岩、 黑色粘土		なし		上層
3 弥生後期 壺	胴部 破片	-	外面：墨色(7.5YR7/6)、黒褐 内面：墨色(7.5YR7/6)	外面：Rd.、-L. 内面：ナゲ	石英、角閃 石、灰岩、 黑色粘土		なし		下層
4 弥生後期 壺	胴部 破片	-	外面：墨褐色(7.5YR3/1) 内面：墨褐色(7.5YR3/1)	外面：ナゲ、病弱 内面：ナゲ	石英、角閃 石、灰岩、 黑色粘土		なし		下層
5 弥生後期 壺	胴部 破片	-	外面：墨褐色(7.5YR3/1) 内面：灰・黄褐色(10YR 6/4)、灰・黄褐色(10YR 7/4)	外面：LR、Rd.、S字状 内面：ナゲ	シヤモット、石 英、角閃石、 灰色粘土		なし		下層 外面の磨耗、内面 の剥落著しい
6 弥生後期 壺	口縁部 破片	-	外面：墨色(7.5YR6/6)、墨褐 内面：墨色	外面：複合口縁、ナゲ、S 字状装饰文 内面：ナゲ	石英、角閃 石、灰岩、 黑色粘土		なし		上層
7 弥生後期 壺	胴部 破片	-	外面：灰褐色(7.5YR6/2) 内面：灰褐色(7.5YR6/2)	外面：S字状装饰文、沈器 内面：ナゲ	石英、角閃 石、灰岩、 黑色粘土		なし		下層 内面や口縁 剥落著しい
8 弥生後期 壺	胴部 破片	-	外面：墨色(7.5YR7/6) 内面：灰・墨褐色(7.5YR7/4)	外面：ナゲ、LR、沈器 内面：ナゲ	シヤモット、石 英、角閃石、 灰色粘土		なし		胎土一括 外一面削制底、内 面剥落著しい
9 弥生後期 壺	胴部 破片	-	外面：墨褐色(10YR7/6) 内面：墨褐色(10YR7/6)	外面：磨耗により不明 内面：ナゲ	石英、角閃 石、灰岩、 黑色粘土		なし		上層 外面の磨耗著しい
10 弥生後期 洗浄なし無 底壺	口縁部 破片	-	外面：墨色(7.5YR7/6) 内面：灰・墨褐色(7.5YR7/4)	外面：ナゲ、LR 内面：ナゲ	石英、墨石、 黑色粘土		なし		上層
11 弥生中期 壺	胴部 破片	-	外面：墨色(7.5YR7/6)、墨褐 内面：墨褐色(7.5YR4/2)	外面：Rd. 内面：ナゲ	石英、灰岩		なし		下層

ものと考えられる。1・5・21は床面直上から出土し、6は下層から床面直上にかけて出土した。

遺物：13は大粒の石英を多量が胎土に含まれており、器種は壺と思われる。16・17・18は胎土にシャモットが含まれた壺、20は胎土にシャモットが含まれた高壺である。22は大形壺で外面は摩耗と剥落、内面は剥落が著しい。

### 9号竪穴建物

時期：弥生時代後期 検出面：基本層序3層 平面形態：胴張隅丸長方形

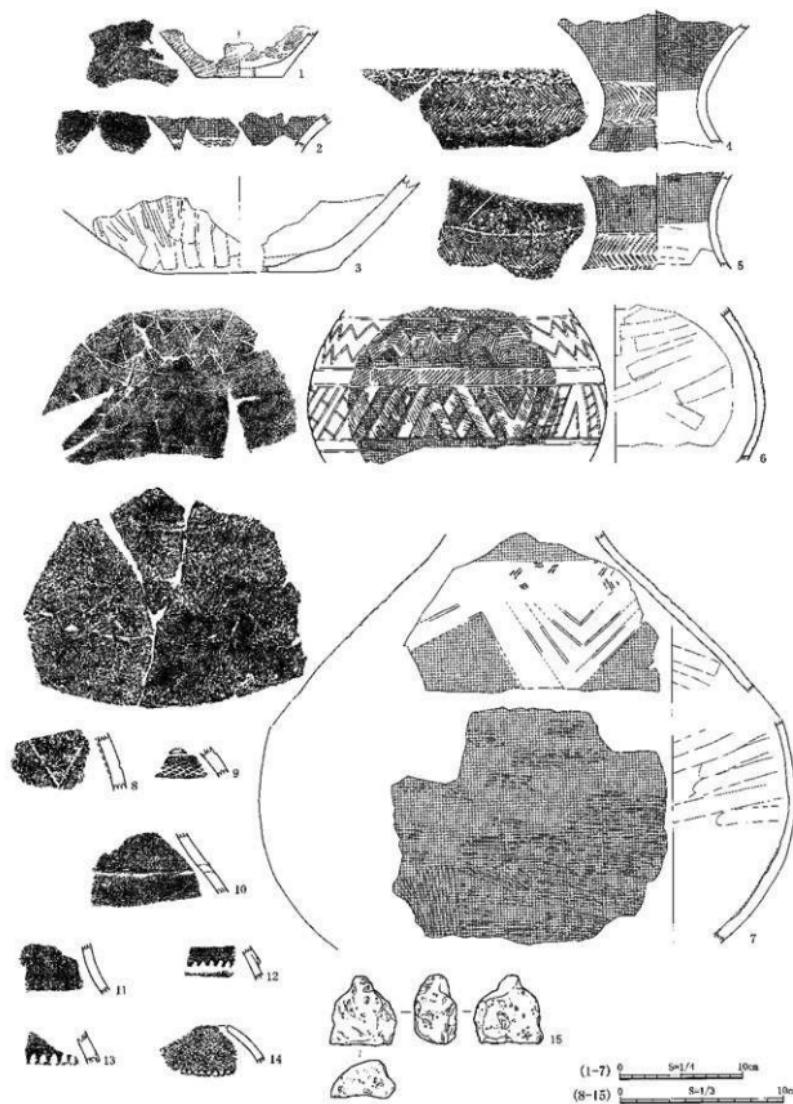


第26図 10号竖穴建物跡 (1)

規模：長軸長 5.69m(6.34m) 短軸長 4.92m(5.20m) 深さ 0.83m(0.97m)

構造：炉は1基、ピットは6基検出された。P 1～P 4は柱穴、P 5はその位置と深さから貯蔵穴、P 6はその位置から出入口の施設に関わるピットと考えられる。炉の底面には被熱面が見られ、炉の2層は焼土主体層だった。本遺構の南東側から南西側にかけて竖穴壁上端部から外方に向かって浅い掘り込みが確認され、その底面は緩やかに傾斜していた。床面は全面が強く硬化していた。

埋土堆積状況：いわゆるレンズ状堆積を呈していた。4層は竖穴壁外側の浅い掘り込みから竖穴壁内側に向かって入り込んでいた。



第27図 10号竪穴建物跡（2）

第22表 10号竪穴建物跡出土遺物観察表

遺物名	型式・基盤等	遺存状態	寸法	色調	文様・成形・調節等	胎土	スス・コケ		出土層位	備考
							外面	内面		
1 弥生後期 甕	底部 遺存 55%	底径 : 0.70cm 遺存高 : 3.3cm	外面 : 黒褐色 (10YR2/2) 内面 : 黑褐色 (10YR4/3)	外面 : ミガキ、RL、S字状 内面 : ミガキ	石光、角閃 石、黄石、 赤色斑、黒 色斑	スス 内面 : コケ	なし	下層		
2 弥生後期 甕	細部 遺存 20%	遺存高 : 3.2cm	外面 : 暗褐色 (7.5YR6/6) 内面 : 暗褐色 (7.5YR6/6)、赤	外面 : ミガキ、RL、S字状 内面 : ミガキ	石光、角閃 石、黄石、 赤色斑、黒 色斑	スス 内面 : コケ	なし	下層		
3 弥生後期 甕	底部 遺存 10%	底径 : 0.69cm 遺存高 : 7.8cm	外面 : 暗褐色 (7.5YR7/6) 内面 : 淡黄色 (7.5YR8/4)	外面 : ハラヅ、ミガキ 内面 : 小崩	シャモット、石 光、角閃石、 黄石、黑色	スス 内面 : コケ	なし	下層 床面直上	内面剥落無	
4 弥生後期 甕	頸部 遺存 50%	遺存高 : 11.6cm	外底 : 黃褐色 (10YR5/6), 小部分 内面 : 黄褐色 (10YR7/6), 小部分	外面 : ミガキ、LR、RL、S 字状粘結文 内面 : ナダ、ミガキ	シャモット、石 光、角閃石、 黄石、黑色	スス 内面 : コケ	なし	床面直上		
5 弥生後期 甕	頸部 遺存 50%	遺存高 : 7.7cm	外面 : 暗褐色 (7.5YR6/6), 赤褐色 内面 : 赤褐色 (7.5YR6/6), 小部分	外面 : ミガキ、LR、RL、S 字状粘結文 内面 : ナダ、ミガキ	シャモット、石 光、角閃石、 黄石、黑色	スス 内面 : コケ	なし	床面直上	内外面剥落無 外底は内外面に断 片的に残る	
6 弥生後期 甕	頸部 遺存 20%	頸底最大径 : (24.3)cm 遺存高 : 12.8cm	外面 : 暗褐色 (7.5YR7/6), 赤褐色 内面 : 明赤褐色 (2.5YR25/6)	外面 : ミガキ、LR、RL、S 字状粘結文 内面 : ナダ、ミガキ	シャモット、石 光、角閃石、 黄石、黑色	スス 内面 : コケ	なし	床面直上		
7 弥生後期 甕	遺存 15%	頸底最大径 : (43.6)cm 遺存高 : 13.7cm	外面 : 暗褐色 (7.5YR10/6), 赤褐色 (2.5YR6/6), 赤褐色 内面 : 淡黃褐色 (10YR 6/6)	外面 : ミガキ、LR、RL、S 字状粘結文、沈錆 内面 : ナダ、ヘラヅ	シャモット、石 光、角閃石、 黄石、黑色	スス 内面 : コケ	なし	下層	内外面剥落無 外底は外外面に断 片的に残る	
8 弥生後期 甕	頸部 破片	-	外面 : 黄褐色 (7.5YR7/6) 内面 : 淡黃褐色 (10YR8/4)	外面 : LR、沈錆 内面 : ナダ	石光、角閃 石、黄石、 黑色	スス 内面 : コケ	なし	上層		
9 弥生後期 甕	肩部 破片	-	外面 : 淡褐色 (7.5YR6/4) 内面 : にじみ・黄褐色 (10YR 6/3)	外面 : 附加条3種、沈錆 内面 : ナダ	シャモット、石 光、角閃石、 黄石、黑色	スス 内面 : コケ	なし	下層		
10 弥生後期 甕	脚部 破片	-	外面 : 淡褐色 (7.5YR6/6) 内面 : 淡褐色 (7.5YR6/6)	外面 : ナダ 内面 : ナダ	石光、角閃 石、黄石、 黑色	スス 内面 : コケ	なし	床面直上		
11 弥生後期 甕	脚部 破片	-	外面 : 淡褐色 (7.5YR5/2) 内面 : 明赤褐色 (10YR6/6)	外面 : ナダ 内面 : ナダ	石光、角閃 石、黄石、 黑色	スス 内面 : コケ	なし	上層		
12 弥生後期 段跡か 無底甕	頸部 破片	-	外面 : にじみ・暗褐色 (7.5YR6/4) 内面 : にじみ・暗褐色 (7.5YR 6/4)	外面 : ナダ、沈錆による サビ 内面 : ナダ	石光、角閃 石、黄石、 黑色	スス 内面 : コケ	なし	下層		
13 弥生後期 甕	脚部 破片	-	外面 : にじみ・暗褐色 (7.5YR6/4) 内面 : にじみ・暗褐色 (7.5YR 6/4)	外面 : ナダ、沈錆による サビ 内面 : ナダ	石光、角閃 石、黄石、 黑色	スス 内面 : コケ	なし	下層		
14 弥生後期 段跡か 無底甕	口縁部 破片	-	外面 : 黄褐色 (7.5YR7/6), 墨跡? 内面 : 黄褐色 (7.5YR7/6), 墨跡	外面 : キザミ、附加条3種 (LR + L + T) 内面 : ナダ	シャモット、石 光、角閃石、 黄石、黑色	スス 内面 : コケ	なし	下層		

石製品										
遺物名	型式・基盤等	石材	寸法	観察所見				出土層位	備考	
15 磨石	磨石	石材	最大長 : 42mm 最大幅 : 39mm 最大厚 : 23mm	くすんだ白色の軽石。明確な加工、使用痕は認められない。				下層		

出土遺物点数：弥生土器 44 点

出土遺物重量：弥生土器 671g

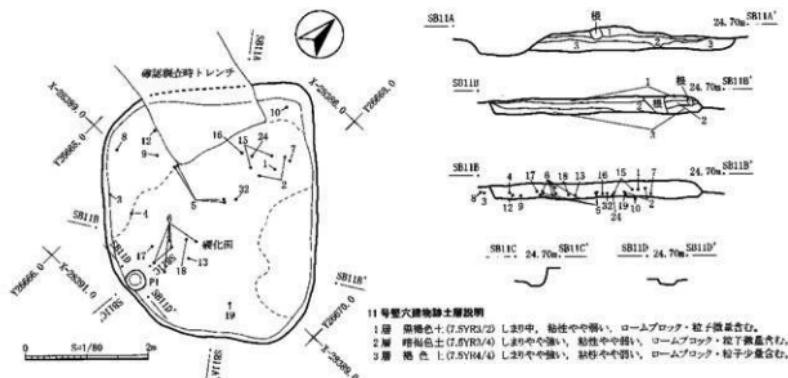
遺物出土状況：1～3層を上層、4層を下層として遺物を取り上げた。

遺物：5・8・9の胎土にはシャモットが含まれ、4・6には海綿骨針が含まれている。5  
は壺で外面は摩耗しており、内面も剥落が著しい。

## 10号竪穴建物跡

時期：弥生時代後期 検出面：基本層序3層 平面形態：胴張隅丸長方形

新旧関係：4P &lt; 10号竪穴建物跡



第28図 11号竪穴建物跡（1）

規模：長軸長 4.47m(4.69m), 短軸長 3.50m(3.68m), 深さ 0.80m

構造：本遺構からは炉が1基とP1, P2が検出された。炉には被熱面が確認され、炉の埋土中の焼土ブロック・粒子は1層において少量、2層において中量検出された。P1とP2は掘り込みが浅いが、他に柱穴と考えられるピットもないことから、いずれかもしくは両方が柱穴だった可能性がある。北西側の竪穴壁上端部の外側では浅い掘り込みが認められ、その断面は緩やかな傾斜を呈していた。床面は大部分が硬化していた。

埋土堆積状況：いわゆるレンズ状堆積を呈していた。1層は基本層序2層（富士新規テフラ層）と考えられることから、本遺構は新規富士テフラ層が堆積する前にはぼ塙まっていたと考えられる。

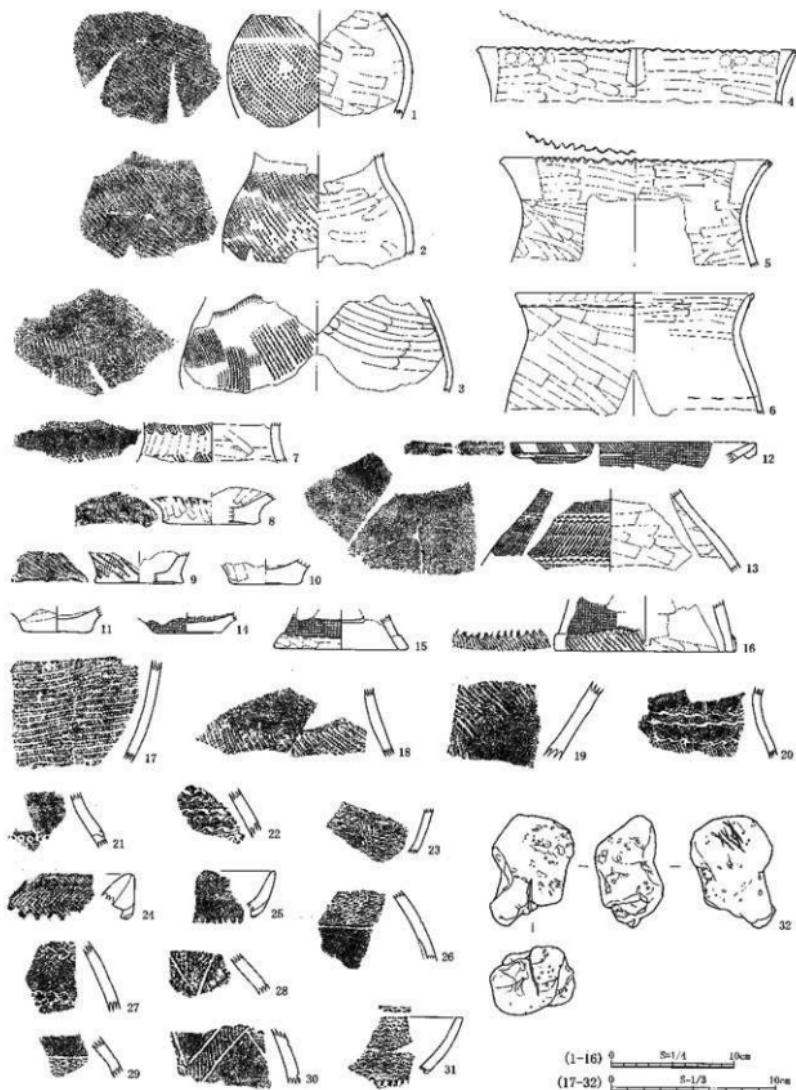
出土遺物点数：弥生土器 104点、弥生時代石器 1点

出土遺物重量：弥生土器 2,910g、弥生時代石器 8g

遺物出土状況：1～5層を上層、6層を下層として遺物を取り上げた。上層出土の遺物は少なく、多くが下層から床面直上にかけて出土した。4・5は床面直上から出土し、6は床面直上から土圧で潰れた状態で出土した。また、7は床面から若干浮き、土圧で潰れた状態で出土した。

遺物：2～7・9・14の胎土にはシャモットが含まれている。東京湾岸系統の壺が目立ち、とくに6はいわゆる幾何学文装飾壺で八千代市での出土はきわめて珍しい。6の最上部には附加条3種が施され、それ以外にはLRによる施文が施されている。7は大形壺で外面の摩耗が著しく判別は難しいが、おそらく胸部上半に2つの山形文が施文されていると考えられる。15は軽石で明瞭な加工、使用痕は認められない。

備考：本遺構と切り合っていた4Pは断片的に残っていたにすぎず、その特徴については不明である。



第29図 11号竪穴建物跡（2）

第23表 11号竪穴建物跡出土遺物観察表(1)

遺物番	型式・器種等	遺存状態	寸法	色調	文様・成形・調整等	胎土	スヌ・コード	出土層位	備考		
									土器	外面	
1	弥生後期 縦	網部 遺存15%	網部最大径:(18.4cm) 遺存高: 8.6cm	外面: 12.2cm 黄褐色(10YR 7/4), 緑褐色(5YR 6/0) 内面: 明黄色(5YR 6/0)	外面: RL + L, L 内面: ハナダ, ナダ	灰土, 角閃 石, 長石, 黑色鉄 石	スヌ: スヌ 外面: なし	中層 下層			
2	弥生後期 縦	網部 遺存30%	網部最大径:(18.7cm) 遺存高: 9.8cm	外面: 12.5cm 黄褐色(10YR 4/0), 内面: 棕色(7.5YR 6/0)	外面: RL, RL + L 内面: ナダ	白鐵, 角閃 石, 長石, 黑色鉄 石	スヌ 外面: なし	中層 下層 北面土上			
3	弥生後期 縦	網部 遺存20%	網部最大径:(22.3cm) 遺存高: 7.9cm	外面: 12.5cm 黄褐色(10YR 4/0), 内面: 棕色(7.5YR 6/0)	外面: ナダ, LR 内面: ナダ	白鐵, 角閃 石, 長石, 黑色鉄 石	スヌ 外面: なし	下層			
4	弥生後期 縦	口部25 遺存15%	口 径:(23.0cm) 遺存高: 4.5cm	外面: 黄褐色(7.5YR 7/0) 内面: にじみ 黄褐色(7.5YR 6/4)	外面: ナダ, 交互押捺 内面: ナダ	白鐵, 角閃 石, 長石, 黑色鉄 石	スヌ 外面: なし	上層 中層 下層			
5	弥生後期 縦	口部+網部 遺存30%	口 径:(21.0cm) 遺存高: 8.8cm	外面: 12.5cm 棕色(7.5YR 7/4), 黄褐色(7.5YR 6/0) 内面: にじみ 棕色(7.5YR 7/4), 黄褐色	外面: ハナダ, 文互押捺 内面: ハナダ	白鐵, 角閃 石, 長石, 黑色鉄 石	スヌ 外面: なし	下層 床面直上			
6	弥生後期 広口壺	口縁+網部 遺存30%	口径:(19.3cm) 遺存高: 10.0cm	外面: にじみ 棕色(7.5YR 6/0), 黄褐色(7.5YR 6/4) 内面: にじみ 黄褐色(7.5YR 6/0)	外面: ナダ, RL 内面: ハナダ, ミガタ	五石, 角閃 石, 長石, 黑色鉄 石	スヌ 外面: ログ 内面: なし	丁層 中層 下層 床面直上	断続的には広口壺 などが、周辺は赤陶 器用と考えられる		
7	弥生後期 縦	網部 遺存25%	口径: 3.2cm	外面: にじみ 棕色(7.5YR 6/0) 内面: 棕色(7.5YR 6/0)	外面: ハナダ, RL, L 内面: なし	白鐵, 角閃 石, 長石, 黑色鉄 石	スヌ 外面: なし	下層 中層 下層			
8	弥生後期 縦	底部 遺存25%	底径: 7.5cm 遺存高: 3.8cm	外面: 棕色(7.5YR 6/0), 黄褐色(10YR 4/2) 内面: 棕色(7.5YR 6/0)	外面: ナダ, RL + L, L 内面: ナダ	白鐵, 長石, 黑色鉄 石	なし	上層	近世木堂塗あり		
9	弥生後期 縦	底部 遺存25%	底径: 7.2cm 遺存高: 2.8cm	外面: 棕色(7.5YR 7/0) 内面: 棕色(7.5YR 7/0)	外面: RL - L, L 内面: ナダ	白鐵, 角閃 石, 長石, 黑色鉄 石	なし	下層			
10	弥生後期 縦	底部 遺存60%	底径: 5.5cm 遺存高: 12.1cm	外面: にじみ 棕色(7.5YR 6/4) 内面: にじみ 棕色(7.5YR 7/4), 黄褐色	外面: ハナダ 内面: ナダ	白鐵, 長石, 黑色鉄 石	なし	下層			
11	弥生後期 縦	底部 遺存50%	底径: 6.2cm 遺存高: 4.1cm	外面: 棕色(7.5YR 7/6), 黑褐色 内面: 棕色(7.5YR 7/6), 黑褐色	外面: ナダ 内面: ナダ	白鐵, 長石, 黑色鉄 石, 黑色 鉄石	なし	上層 下層			
12	弥生後期 縦	口縁 遺存15%	口径: 9.8cm 遺存高: 2.2cm	外面: 明黄色(10YR 7/0), 黄褐色(10YR 6/0), 黄褐色 内面: 明黄色(10YR 7/0), 黄褐色	外面: 複合1段, ナダ, 内面: ナダ, ログ	白鐵, 角閃 石, 黑色 鉄石	なし	上層			
13	弥生後期 縦	網部 遺存20%	口径: 6.8cm	外面: 棕色(7.5YR 6/0), 黄褐色(10YR 6/0), 黄褐色 内面: にじみ 黄褐色(10YR 6/5), 附加部分(1L + 附加部分 等不規)	外面: RL, S字状模様, 内面: ナダ, ハナダ 内面: コナダ, ハナダ	複合1段, シ ハナダ, 角閃 石, 黑色鉄 石	なし	丁層 下層 床面直上	15号竪穴建物跡 11と同 併存か?		
14	弥生後期 縦	底部 遺存60%	底径: 5.6cm 遺存高: 1.7cm	外面: 棕色(7.5YR 6/0), 黄褐色 内面: 棕色(7.5YR 6/0), 黄褐色	外面: ナダ 内面: ナダ	シモヒツ, 白 鐵, 角閃石, 黑色鉄 石	なし	下層			
15	弥生後期 縦	網部 遺存50%	口径: 11.0cm 遺存高: 2.9cm	外面: 明黄色(10YR 7/6), 黄褐色 内面: 明黄色(10YR 7/6), 黑褐色	外面: カギ, 輪積構みに上 る 内面: ナダ	白鐵, 角閃 石, 黑色 鉄石	なし	上層 中層 下層	小石(無い枝子の 枝)多量含む		
16	弥生後期 縦	網部 遺存15%	底径: 14.6cm 遺存高: 4.6cm	外面: 棕色(7.5YR 6/0), 黄褐色 内面: 棕色(7.5YR 7/6), 黑褐色	外面: カギ, 滾面構 造, 文様にちがい 有 内面: ナダ	シモヒツ, 石 英, 角閃石, 黑色鉄 石	なし	上層 下層	内部斜面頭 輪, 壱子の石英多 量含む		
17	弥生後期 縦	網部 破片	-	外面: 棕色(7.5YR 7/6), 黑褐色 内面: 棕色(7.5YR 7/6)	外面: RL + L, L 内面: ナダ	白鐵, 角閃 石, 黑色 鉄石	なし	中層 下層			
18	弥生後期 縦	網部 破片	-	外面: 棕色(7.5YR 6/0) 内面: 棕色(7.5YR 6/0)	外面: ナダ, RL + L, L 内面: ナダ	白鐵, 長石, 黑色鉄 石	なし	上層 下層	無い枝子の石英多 量含む		
19	弥生後期 縦	網部 破片	-	外面: 暗褐色(7.5YR 4/2) 内面: にじみ 棕色(7.5YR 6/3)	外面: ナダ, RL + L, L 内面: ナダ	シモヒツ, 石 英, 角閃石, 黑色鉄 石	なし	中層 下層			
20	弥生後期 縦	網部 破片	-	外面: 黄褐色(10YR 2/2) 内面: 棕色(7.5YR 6/0), にじみ 棕色(7.5YR 6/0)	外面: 文字模様(10YR 2/2) 内面: ナダ	白鐵, 角閃 石, 黑色 鉄石	スヌ 内面: なし	上層			
21	弥生後期 縦	網部 破片	-	外面: 棕色(7.5YR 6/0) 内面: 棕色(7.5YR 6/0)	外面: ナダ, 文互押捺工 内面: ナダ	白鐵, 角閃 石, 黑色 鉄石	なし	上層			
22	弥生後期 縦	網部 破片	-	外面: にじみ 棕色(7.5YR 6/4) 内面: にじみ 棕色(7.5YR 6/4)	外面: ハラ袖模様文 内面: ナダ	シモヒツ, 石 英, 角閃石, 黑色鉄 石	なし	下層			
23	弥生後期 縦	網部 破片	-	外面: にじみ 黄褐色(10YR 6/4), 黄褐色(7.5YR 6/0) 内面: 黄褐色(7.5YR 6/0), 黑褐色(7.5YR 6/0)	外面: RL(始末をついて 心司門代なり) 内面: ハナダ	白鐵, 角閃 石, 黑色 鉄石	スヌ 内面: なし	下層			
24	弥生後期 縦	口部 破片	-	外面: 棕色(7.5YR 7/6) 内面: 棕色(7.5YR 7/6)	外面: 複合1段, RL, RL 内面: にじみ 棕色(7.5YR 7/6)	白鐵, 角閃 石, 黑色 鉄石	スヌ 内面: なし	床面直上	表面磨耗著しい 焼瓦質小筒, 瓦質も片瓦的		
25	弥生後期 縦	口縁 破片	-	外面: 棕色(5YR 7/6) 内面: 棕色(5YR 7/6)	外面: キガ, RL, RL 内面: 不明	シモヒツ, 石 英, 角閃石, 黑色鉄 石	スヌ 内面: なし	F層			

第24表 11号竪穴建物跡出土遺物観察表(2)

遺物名	形式・断面図	遺存状況	寸法	色調	文様・模様・装飾等	形状	スス・ヨダ	出土層位	備考
26 弥生後期 壺	胴部 破片	-		外面：明黄褐色(10YR7/6)、 赤彩、黒斑 内面：紫色(7.5YR7/6)、黒斑	外周：S字状結節文、 内面：ナデ	筒形 外周：ヘラナデ	なし	上層	
27 弥生後期 壺	胴部 破片	-		外面：明黄褐色(10YR7/6)、 赤彩、黒斑 内面：明黄褐色(10YR7/6)、 黒斑	外周：S字状結節文、附加 条3種G5+10 内面：ナデ	筒形 外周：ヘラナデ	なし	下層	
28 弥生後期 壺	胴部 破片	-		外面：にぶい赤褐色(5YR5/4) 内面：紫色(5YR6/6)	外周：附加条3種、比縫 内面：ナデ	筒形 外周：ヘラナデ	なし	上層	
29 弥生後期 壺	胴部 破片	-		外面：にぶい赤褐色(10YR 7/6)、赤彩 内面：褐色(7.5YR7/6)	外周：S字状結節文、 比縫 内面：ナデ	筒形 外周：ヘラナデ	なし	上層	
30 弥生後期 壺	胴部 破片	-		外面：にぶい赤褐色(10YR 7/6)、黒斑 内面：褐色(7.5YR7/6)	外周：S字状結節文、 比縫 内面：ナデ	筒形 外周：ヘラナデ	なし	下層	
31 弥生後期 壺	口縁部 破片	-		外面：にぶい赤褐色(10YR 6/4)、黒斑 内面：赤彩	外周：キズ。S字状結節 文 内面：ナキ	筒形 外周：ヘラナデ	なし	上層	
石製品									
遺物名	形式・断面図	石種	寸法	色調	装飾等	形状	スス・ヨダ	出土層位	備考
32 軽石	軽石	最大長：69mm 最大幅：51mm 最大厚：43mm		表面には磨耗といったものは見られないが、鋭利な利器によってつけられた深いキズが 複数の浅いキズが見られる。 もしかしたら鉄器によってつけられたキズかもしれない。		石英、角閃石、 長石、黑色 内面：ナキ	なし	下層	

## 11号竪穴建物跡

時期：弥生時代後期 検出面：基本層序3層 平面形態：不整方形

規模：長軸長 4.27m, 短軸長 3.50m, 深さ 0.39m

構造：ピットは1基、炉は検出されなかった。P 1は掘り込みが浅く、柱穴として機能したと考えることは難しい。床面は一部を除いて硬化していた。本遺構の掘り込みは浅く、床面は基本層序4層（ソフトローム層）まで到達していなかった。

埋土堆積状況：いわゆるレンズ状堆積と考えられる。

出土遺物点数：弥生土器719点、弥生時代石器4点

出土遺物重量：弥生土器6,110g、弥生時代石器39g

遺物出土状況：1層を上層、2層を中層、3層を下層として遺物を取り上げた。遺物は上層から床面直上にかけて特定の層位に偏ることなく多量に出土した。

遺物：3・5・7・12・13・15・26には海綿骨針が含まれている。また、13・14・16・19・22・25・28～30にはシャモットが含まれている。13には、実測図で表現できなかったが、附加条の原体がきわめて細く、軸繩の節が明瞭な附加条3種が施されている。さらに、13は文様と赤彩の状態、胎土の類似性から15号竪穴建物跡出土No. 11と同一個体の可能性がある。32は軽石で鋭利な利器によると考えられる深いキズと浅い複数のキズがついている。

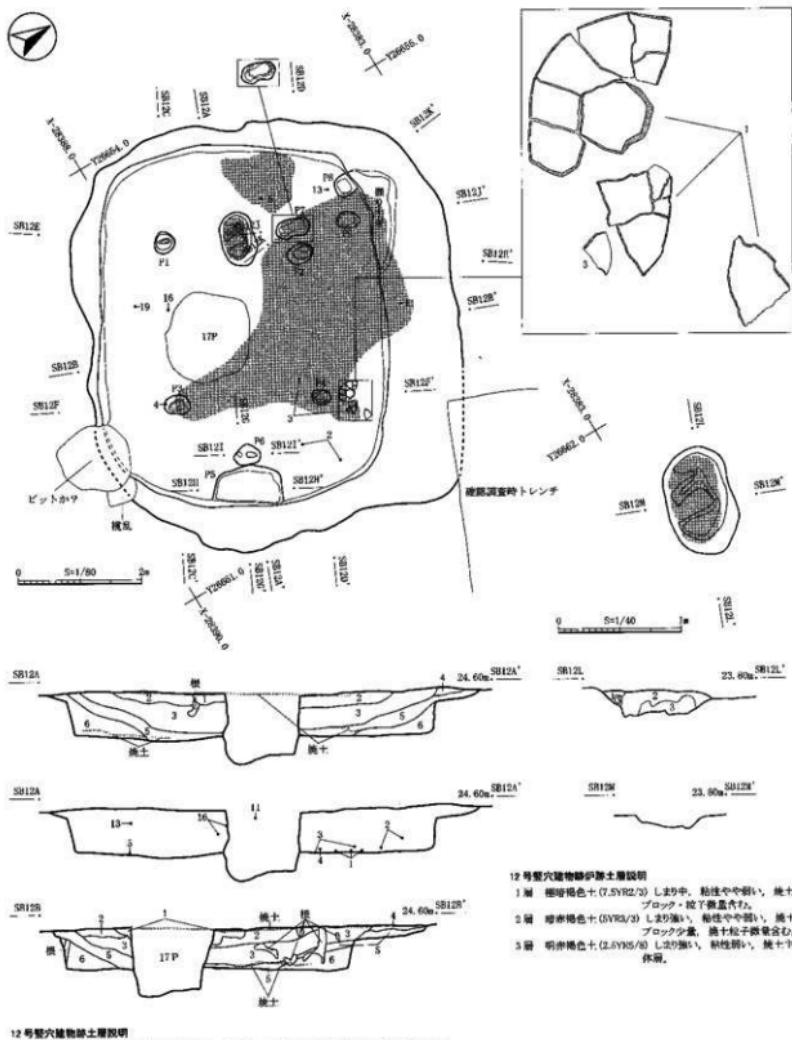
## 12号竪穴建物跡

時期：弥生時代後期 検出面：基本層序3層 平面形態：胴張隅丸長方形

新旧関係：12号竪穴建物跡&lt;17P

規模：長軸長 5.95m(7.05m), 短軸長 4.71m(6.17m), 深さ 0.66m(0.87m)

構造：本遺構からは炉が1基検出され、被熱面も確認された。炉の3層は焼土主体層であつ



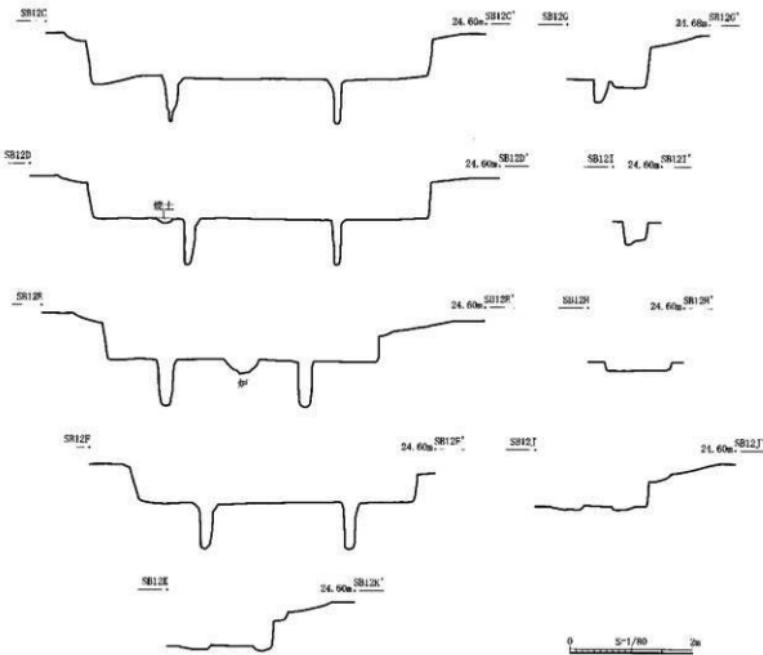
#### 12号竖穴建筑物跡土層説明

- 1層 棕褐色土 (7.SYR4/4) しらべやや細い、粒性中、コームブロック少盛、ローム粒子微量含む。
- 2層 黄褐色土 (7.SYR2/2) しらべ弱い、粘性やや弱い、ロームブロック・粒子微量含む。
- 3層 黑色土 (7.SYR2/1) しらべやや強い、粒性中、ロームブロック・粒子微量含む。
- 4層 灰褐色土 (7.SYR3/4) しらべ少、粒性中、ロームブロック・粒子微量含む。
- 5層 布岩褐色土 (7.SYR3/3) しらべ中、粒性やや弱い、ロームブロック微量、ローム粒子少盛含む。
- 6層 棕褐色土 (7.SYR4/4) しらべ中、粒性やや弱い、ロームブロック少盛、ローム粒子少量含む。

#### 12号竖穴建筑物跡土層説明

- 1層 棕褐色土 (7.SYR4/4) しらべやや細い、粒性中、コームブロック少盛、ローム粒子微量含む。
- 2層 黄褐色土 (7.SYR2/2) しらべ弱い、粘性やや弱い、ロームブロック・粒子微量含む。
- 3層 黑色土 (7.SYR2/1) しらべやや強い、粒性中、ロームブロック・粒子微量含む。
- 4層 灰褐色土 (7.SYR3/4) しらべ少、粒性中、ロームブロック・粒子微量含む。
- 5層 布岩褐色土 (7.SYR3/3) しらべ中、粒性やや弱い、ロームブロック微量、ローム粒子少盛含む。
- 6層 棕褐色土 (7.SYR4/4) しらべ中、粒性やや弱い、ロームブロック少盛、ローム粒子少量含む。

第30図 12号竖穴建筑物跡 (1)



第31図 12号竪穴建物跡（2）

た。P 1～P 4 は柱穴と考えられる。P 5 はその位置と深さから貯蔵穴、P 6 はその位置から入口施設に関わるものと考えられる。P 7 は掘り込みが浅く、焼土と被熱面が確認されたことから火を焚く目的で構築されたと考えられ、副炉の用途として使われた可能性がある。P 8 は竪穴壁沿いに構築されており、性格は不明だが、本遺構に伴うものと考えられる。P 9 は掘り込みが浅く、その性格も不明なために確実に本遺構に伴うものとは断言できない。本遺構では竪穴壁の外側に浅い掘り込みが全周するように確認され、その断面は緩やかに傾斜したものだった。床面は全面が強く硬化していた。

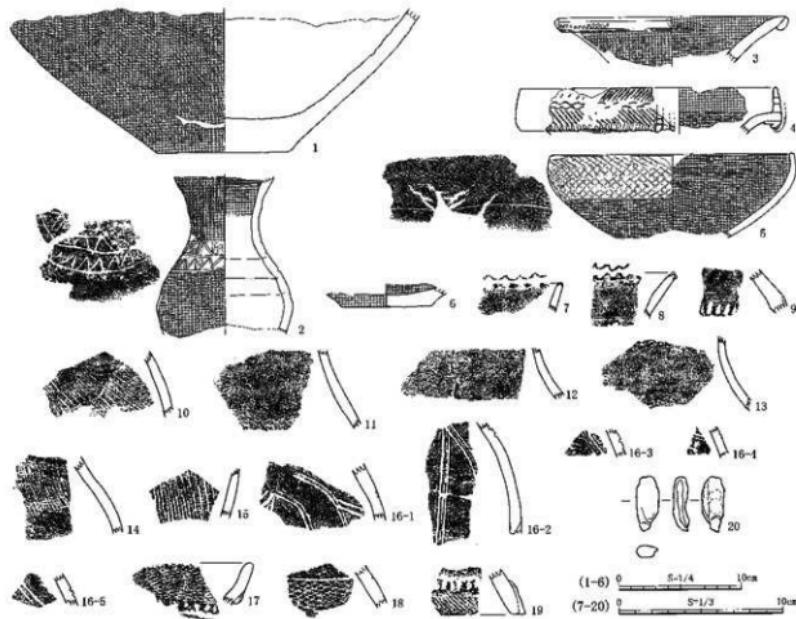
**埋土堆積状況**：いわゆるレンズ状堆積だった。1～2層では広範囲に焼土が確認され、5～6層にかけても焼土が検出された。竪穴壁外側で確認された浅い掘り込みから竪穴壁内側に向かって入り込むように5層および6層は堆積していた。

**出土遺物点数**：弥生土器 172 点、弥生時代土製品 1 点

**出土遺物重量**：弥生土器 3,826 点、弥生時代土製品 5 g

**遺物出土状況**：1層・2層・3層を上層とし、5層と6層を下層として遺物を取り上げた。

遺物は上層から床面直上にかけて出土したが、上層出土の遺物はやや少なかった。1は床



第32図 12号竪穴建物跡（3）

第25表 12号竪穴建物跡出土遺物観察表（1）

遺物番号	形式・種類	寸法	色調	文様・成形・特徴		鉢土	火入・コト	出土状況
				外面	内面			
1	火牛後頭蓋	頭～底幅 直存 9.8cm	底：径：10.7cm 直存：11.8cm	外面：赤褐色 (2.5YR6/8), 帶褐色 内面：棕色 (2.5YR6/8)	外面：ミガキ 内面：不明	石灰、黄褐色 石、黄褐色 表面無色。基 部有凹	火入・コト	火入は底面にのみ あり、底を裏抜き押 出したと思われる 内面無色
2	火牛後頭蓋	頭～頭部 直存 40%	頭型最大径：(11.1)cm 直存高：13.2cm 直存高：	外面：棕色 (7.5YR7/6), 赤褐色 直存 内面：棕色 (7.5YR7/6), 赤褐色 直存	外面：ミガキ、赤褐色 内面：ナダ、ミガキ	シヤツツ、石 灰、角閃石、赤 色、黑色 シヤツツ、石 灰、角閃石、赤 色、黑色	なし	下層 壁面の凹戸が底、 壁面
3	火牛後頭蓋	口縫部 直存 30%	口：径：(18.4)cm 直存高：4.6cm	外面：赤褐色 (7.5YR6/4), にひき褐色 (7.5YR7/6), 赤 褐色 内面：赤褐色	外面：ミガキ、複合1線、 ナダ 内面：ミガキ	石英、黄閃 石、灰岩、赤 色、黑色 シヤツツ、石 灰、角閃石、赤 色、黑色	なし	床面直上 器曲の剥落や壁 面
4	火牛後頭蓋	口縫部 直存 30%	口：径：(20.0)cm 直存高：3.8cm	外面：複合褐色 (7.5YR6/6), 赤褐色 内面：赤褐色	外面：ミガキ、火入、L.R. 5 火入 内面：赤褐色	石英、黄閃 石、灰岩、赤 色、黑色 シヤツツ、石 灰、角閃石、赤 色、黑色	なし	下層 外曲面無着しい 内曲面無着しい
5	火牛後頭蓋鉢	口縫部 直存 30%	口：径：(19.0)cm 直存高：6.9cm	外面：赤褐色 (7.5YR6/4), 黄褐色 内面：赤褐色 (7.5YR7/6), 黄褐色	外面：ミガキ 内面：ミガキ	シヤツツ、石 灰、角閃石、赤 色、黑色	なし	床面直上
6	火牛後頭蓋鉢	底部 直存 30%	底：径：(7.5)cm 直存高：1.9cm	外面：棕色 (7.5YR7/6), 黄褐色 内面：棕色 (7.5YR7/6), 黄褐色	外面：ヘラナダ 内面：ミガキ	石英、黄閃 石、灰岩、赤 色、黑色	なし	下層 床面直上
7	火牛後頭蓋	口縫部 破片	-	外面：棕色 (7.5YR2/4) 内面：棕色 (7.5YR2/3), にひき褐色 (7.5YR5/2)	外面：ナダ、交叉押捺 内面：ナダ	石英、黄閃 石、灰岩、赤 色、黑色	なし	下層 交瓦隙透にツバ底 あり
8	火牛後頭蓋	口縫部 破片	-	外面：棕色 (3YR6/6), 黄褐色 内面：棕色 (3YR6/6), 黄褐色	外面：ナダ、交叉押捺 内面：ナダ	石英、黄閃 石、灰岩、赤 色、黑色	なし	上層

第 26 表 12 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (2)

出土品名・種類	出土地点	寸法	表面	文様・成形・装飾等	胎土	スス・コゲ	出土状況	備考
弥生後期 底石盤	腰部 破片	-	外面：褐色 (7.5VR7/6), 底部 内面：褐色 (7.5VR7/6)	外縁：褐色によるキザミ, ミガキ 内面：ナデ	シャモット、石 灰、角閃石、 長石、黑色	なし	下層	内面剥落あり
弥生後期 壁	腰部 破片	-	外面：灰褐色 (7.5VR8/2) 内面：灰褐色 (7.5VR8/2)	外縁：RL+L-L 内面：ナデ	石英、角閃 石、長石、 黑色	スス 内面：コゲ	下層	
弥生後期 壁	腰部 破片	-	外縁：灰褐色 (7.5VR8/2), 内面：褐色 (7.5VR8/2) 内面：灰褐色 (7.5VR8/4), 内面：褐色 (7.5VR8/4), 内面：褐色 (7.5VR8/4), 内面：褐色 (7.5VR8/4)	外縁：柳葉模様文、S字状 内面：褐色文 内面：ナデ	石英、角閃 石、長石、 黑色	スス 内面：コゲ	上層	
弥生後期 壁	腰部 破片	-	外縁：灰褐色 (7.5VR8/2), 内面：褐色 (7.5VR8/2), 内面：褐色 (7.5VR8/3) 内面：褐色 (7.5VR8/4), 内面：褐色 (7.5VR8/4), 内面：褐色 (7.5VR8/4)	外縁：ナデ 内面：ヘラナダ、ミガキ	石英、角閃 石、長石、 黑色	スス 内面：コゲ	下層 床面直上	
弥生後期 壁	腰部 破片	-	外縁：褐色 (5VR7/8) 内面：にいし・分離色 (5V 7/4), 分離色 (5VR7/4)	外縁：ナデ 内面：ナデ	石英、角閃 石、長石、 黑色	スス 内面：なし	上層	
弥生後期 壁	腰部 破片	-	外縁：褐色 (10VR1/1), 内面：褐色 (10VR1/1) 内面：褐色 (10VR1/1) 内面：褐色 (10VR1/2)	外縁：直前後3条 (RL) 内面：ナデ	シャモット、石 灰、角閃石、 長石、黑色	スス 内面：なし	下層	
弥生後期 不明	腰部 破片	-	外縁：褐色 (7.5VR6/8) 内面：褐色 (7.5VR6/8)	外縁：LR+R-R 内面：ナデ	石英、角閃 石、長石、 黑色	スス 内面：なし	上層	大粒の石英多量 心
弥生後期 壁?	腰部 破片	-	外縁：褐色 (7.5VR7/6), 内面：褐色 (7.5VR7/6) 内面：褐色 (7.5VR7/6), 内面：褐色 (7.5VR7/6)	外縁：ナデ 内面：ナデ、ミガキ	石英、角閃 石、長石、 黑色	スス 内面：なし	上層 下層	
弥生後期 壺	口縁部 破片	-	外縁：にいし・褐色 (7.5VR7/3) 内面：灰褐色 (7.5VR7/2), 赤彩	外縁：ナデ 内面：ナデ 内面：ナデ	シャモット、石 灰、角閃石、 長石、黑色	スス 内面：なし	上層	
弥生後期 壺	肩部 破片	-	内面：にいし・黄褐色 (10Y 7/4), 青彩 内面：にいし・黄褐色 (10Y 7/4), 青彩	内面：ミガキ、附着3箇 所無し 内面：ナデ	海綿骨針、シ ヤモット、石 灰、角閃石、 長石、黑色	スス 内面：なし	炉側上	内面剥落観察
弥生後期 壺	腰部 破片	-	外縁：明る褐色 (2.5VR5/6), 褐色 (7.5VR5/6) 内面：褐色 (7.5VR5/6)	外縁：ナデ 内面：ナデ	シャモット、角 閃石、長石、 黑色	スス 内面：なし	下層	
弥生後期 不明? 壺	腰部 破片	-	褐色 (5VR6/6)	内面：褐色状	長石、黑色	スス 内面：なし	炉側上	

直面上から出土した。おそらく胴部のあたりが床面に着いて底面は傾いた状態で置かれ、その後土圧によって潰れたと考えられる。また、11は浅い掘り込みから出土した。炉内からは20が出土した。

遺物：2・3・5・9・14・17・19の胎土にはシャモットが含まれ、6の胎土には海綿骨針が含まれている。18の胎土にはシャモットと海綿骨針が含まれている。16はあまり類例がない土器で器種はおそらく壺になるのではないかと思われる。文様は2本1単位の櫛描文が施されているが、その文様がどのようなものを描いたのかは不明である。20は性格不明の土製品でユビオサエなどがはっきりと確認できる。

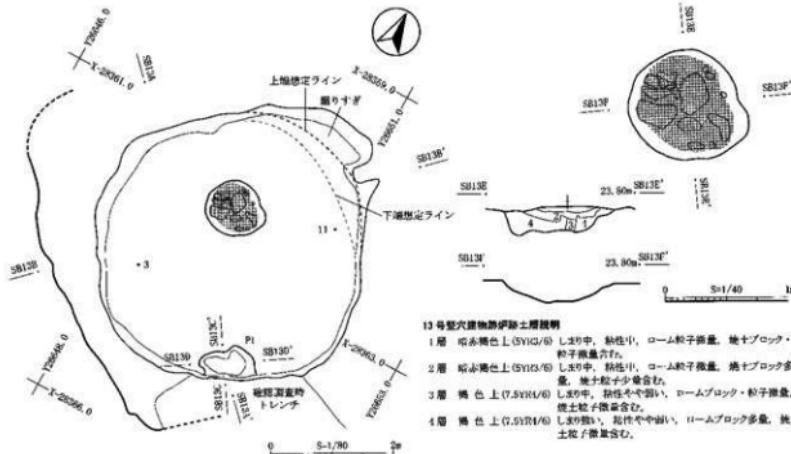
備考：調査区南側のピットらしき掘り込みについては当初攪乱として完掘したが、17Pと埋土の特徴が似ており、攪乱ではなかった可能性がある。

### 13号竪穴建物跡

時期：弥生時代後期 検出面：基本層序3層 平面形態：不整胴張隅丸方形

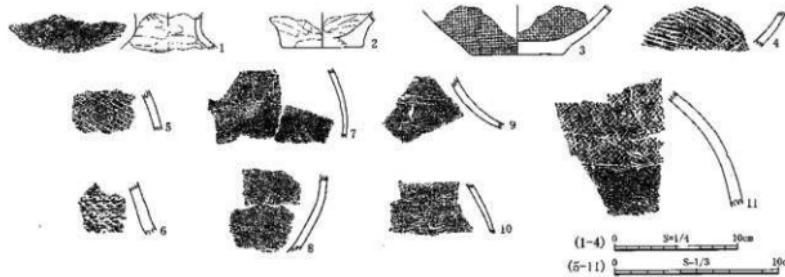
規模：長軸長4.38m、短軸長4.16m(5.05m)、深さ0.66m(0.71m)

構造：炉は1基、ピットは1基検出された。炉には被熱面が確認され、炉の2層からは焼土ブロックが多量に検出された。P1はその位置と深さから貯蔵穴と考えられる。なお、柱



#### 13号繁育植物种子股利

- 肩 黒褐色 (7.5W9/2) まろやか。触性中、ローム粒子混含む。
  - 脇 色 (7.5W9/1) まろやか。触性中、ローム粒子混含む。
  - 腹端毛 (7.5W9/2) まろやかの中細。触性中、ロームゴマ油 混含む。
  - 脚 灰褐色 (7.5W9/2) まろやか。触性やや弱い。ローム粒子混含む。
  - 尾 灰色 (7.5W9/2) まろやか。触性やや弱い。ローム粒子混含む。
  - 臀斑毛 (10W9/4) まろやか。触性中、ロームゴマ油 混含む。
  - 前足 (7.5W9/4) まろやか。触性中、ロームゴマ油 混含む。
  - 後足 (7.5W9/4) まろやか。触性中、ロームゴマ油 混含む。
  - 側面 色 (7.5W9/6) まろやか。触性やや弱い。コムゴマ油と ローム粒子混含む。
  - 頭 色 (7.5W9/6) まろやか。触性やや弱い。コムゴマ油と ローム粒子混含む。風樹木の樹皮と思われる。



第33図 13号竪穴建物跡

第27表 13号竪穴建物跡出土遺物観察表

遺物名	材質・寸法	直面状況	寸法	色調	文様・模様・斑駁等		胎土	スス・コグリ	出土状況	備考
					外面	内面				
1 弥生後期 壺	陶器 直径 25cm 造作高：2.9cm	外面：褐色(7.5YR 4/0), にぶ い黄褐色(7.5YR 6/0) 内面：褐色(7.5YR 6/0)	外面：ナゲ, RL + L + L 内面：ナゲ	石英, 長石, なし 黒色鉄			床面直上			
2 弥生後期 壺	陶器 直徑 20cm 底径：6.5cm 造作高：2.8cm	外面：にぶい褐色(SYR 4/0) 内面：にぶい褐色(7.5YR 6/0)	外面：ヘラナゲ 内面：ヘラナゲ	海藻青苔, 石英, 長石, なし 黒色鉄			上層			
3 弥生後期 壺	陶器 直徑 60cm 造作高：4.1cm	外面：淡黃褐色(10YR 8/4), 赤褐色, 黑褐色 内面：本色, 黑色	外面：ミガキ 内面：ミガキ	シャモット, 海 藻青苔, 石 英, 長石, なし 黒色鉄			下層			
4 弥生後期 壺	陶器 破片	-	外面：にぶい褐色(7.5YR 6/0), 黑褐色 内面：にぶい褐色(7.5YR 6/0)	外面：RL + L + L 内面：ヘラナゲ	石英, 長石, なし 黒色鉄, 黒 色鉄		上層	内面少々剥落		
5 弥生後期 壺	陶器 破片	-	外面：にぶい褐色(SYR 6/0), 黑褐色 内面：にぶい褐色(7.5YR 6/0), 黑褐色	外面：RL + L + L 内面：ヘラナゲ	石英, 長石, なし 黒色鉄		P1 地上			
6 弥生後期 壺	陶器 破片	-	外面：灰褐色(SYR 2/0) 内面：褐色(7.5YR 7/0)	外面：ミガキ, S字状結晶 内面：ナゲ	石英, 長石, なし 黒色鉄, 黑 色鉄		下層			
7 弥生後末～古 墳前期 壺	陶器 破片	-	外面：にぶい黄褐色 (10YR 6/2) 内面：にぶい褐色(7.5YR 6/0), にぶ い黒褐色(10YR 6/0)	外面：ヘラナゲ, ミガキ 内面：ヘラナゲ, ミガキ	石英, 長石, なし 黒色鉄	外面：スス 内面：コグ		Nb. 9, Nb. 10 上同一 個体か		
8 弥生後末～古 墳前期 壺	陶器 破片	-	外面：にぶい褐色(SYR 5/0), 黑褐色 内面：にぶい褐色(SYR 5/0), 黑褐色	外面：ハケ 内面：ハケ, ナゲ	石英, 長石, なし 黒色鉄		床面直上			
9 弥生終末～古 墳前期 壺	陶器 破片	-	外面：白色(7.5YR 8/2) 内面：白色(7.5YR 6/0), にぶ い褐色(7.5YR 5/0)	外面：ヘラナゲ 内面：ヘラナゲ	石英, 長石, なし 黒色鉄	外面：スス 内面：なし	上層	Nb. 7, Nb. 10 上同一 個体か 内面少々剥落		
10 弥生終末～古 墳前期 壺	陶器 破片	-	外面：白色(7.5YR 8/2), にぶ い褐色(7.5YR 6/0), 褐褐色 内面：褐色(7.5YR 6/0), 褐褐色 (7.5YR 5/0)	外面：ヘラナゲ 内面：ヘラナゲ	石英, 長石, なし 黒色鉄	外面：スス 内面：なし	下層	Nb. 7, Nb. 9 と同一 個体か		
11 弥生後期 壺	陶器 破片	-	外面：褐色(SYR 6/0) 内面：褐色(SYR 6/0), にぶ い褐色(SYR 5/0)	外面：ミガキ, 附加条 3 條 内面：RL + L, 沈像 内面：ナゲ	シャモット, 海 藻青苔, 石 英, 長石, なし 黒色鉄		下層			

穴と考えられるピットの類は検出されなかった。本遺構の南から西側にかけて竪穴壁上端部の外側で浅い掘り込みが確認され、その断面は緩やかに傾斜していた。床面は全面が硬化していた。

埋立堆積状況：いわゆるレンズ状堆積を呈していた。

出土遺物点数：弥生土器 41 点

出土遺物重量：弥生土器 525g

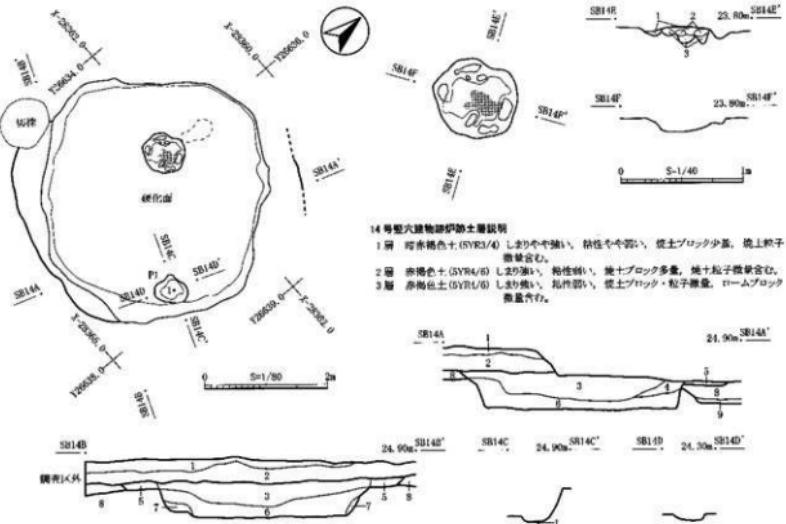
遺物出土状況：1～4層を上層、5～7層を下層として遺物を取り上げた。遺物は上層から床面直上にかけて出土したが、遺物の出土量は少なく、ほとんどが破片で復元実測できるものは少なかつた。

遺物：1の胎土には海綿骨針が含まれ、3・11の胎土にはシャモットと海綿骨針が含まれている。

備考：本遺構の北東側を掘りすぎてしまったのは竪穴壁の位置にちょうど風倒木痕があり、それに気づかずに入り進めてしまったためである。また、北西側の浅い掘り込みが消失してしまったのは重機による面下げの段階で深く掘削してしまったためである。

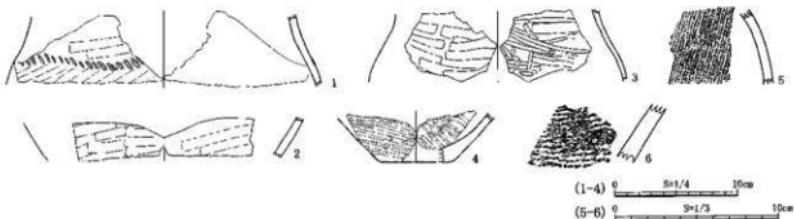
## 14号竪穴建物跡

時期：弥生時代後期 検出面：基本層序 3 層 平面形態：不整胴張方形



14号竖穴建物跡土層説明

- 1 層 接土 山
- 2 層 表 土
- 3 層 黄色土 (7.5YR2/1) しまりやや弱い、粘性中、ローム粒子少量含む。
- 4 层 布褐色土 (7.5YR2/3) しまり中、粘性中、ロームブロック・粒々少量含む。
- 5 层 布褐色土 (7.5YR3/4) しまりやや強い、粘性中、ロームブロック・粘土少量含む。
- 6 层 布褐色土 (7.5YR2/1) しまり中、粘性中、ロームブロック微量、ローム粒子少量含む。
- 7 层 暗色土 (7.5YR4/6) しまり中、粘性中、ロームブロック・粘土少量含む。
- 8 层 基本層序 3層。
- 9 层 基本層序 4層



第34図 14号竖穴建物跡

規模：長軸長 3.94m, 短軸長 3.64m(4.17m), 深さ 0.48m(0.62m)

構造：本遺構からは炉が1基、ピットが1基検出された。炉の底面からは被熱面が検出され、炉の2層からは焼土ブロックが多量に認められた。P1はその位置と深さから貯蔵穴と考えられる。なお、本遺構から柱穴と考えられるピットの類は確認されなかった。本遺構の南側から南西側にかけ、そして北東側において竪穴壁上端部から外側に向かって浅い掘り

第28表 14号竪穴建物跡出土遺物観察表

遺物名	形式・特徴	保存状態	寸法	色	文様・成形・特徴等	陶土	スス・コゲ		出土層段	備考
							外面	内面		
弥生後期 後	堅耳 罐	保存15%	底径 高さ: 5.9cm	内面: 淡褐色(5YR6/6), にぶ い黄褐色(7.5YR7/6) 外面: 淡褐色(7.5YR7/4)	外面: ハナダ 内面: ナガ	石英、角閃 石、長石、 黑色粘	石英、 長石、 黑色粘	外面: スス 内面: コゲ	P1底面	
弥生後期 後	BH25 壺	保存15%	底径 高さ: 3.3cm	内面: 淡褐色(7.5YR7/4) 外面: 淡褐色(7.5YR6/4)	外面: ハナダ 内面: ハナダ	石英、角閃 石、長石、 黑色粘	石英、 長石、 黑色粘	外面: スス 内面: コゲ	床面直上	
弥生終末～古 墳前期 後	堅耳 罐	保存15%	底径 高さ: 5.9cm	外面: 淡褐色(5YR6/8), 灰褐色 内面: 淡黃褐色(7.5YR8/6), 黑色	外面: ハナダ 内面: ハナダ、ミガキ	石英、角閃 石、長石、 黑色粘	石英、 長石、 黑色粘	外面: スス 内面: なし	床面直上	
弥生後期 後	底部 壺	保存15%	底径 高さ: 5.9cm	外面: 淡褐色(5YR6/8), 灰褐色 内面: 淡褐色(7.5YR8/6), 黑色	外面: ハナダ 内面: ハナダ、ミガキ	石英、角閃 石、長石、 黑色粘	石英、 長石、 黑色粘	外面: なし	上層	
弥生後期 後	堅耳 罐	破片	-	外面: 淡褐色(5YR6/8), 灰褐色(5YR6/8) 内面: 淡褐色(5YR6/8), 灰褐色(5YR 7/8)	外面: LN+R + R 内面: ミガキ	石英、角閃 石、長石、 黑色粘	石英、 角閃 石、長石、 黑色粘	外面: スス 内面: なし	上層	
西文中～後期 後	堅耳 罐	破片	-	外面: 淡褐色(5YR6/8), 灰褐色(5YR6/8) 内面: 淡褐色(5YR6/4), にぶい黒褐色(5YR5/4)	外面: R 内面: ミガキ	石英、角閃 石、長石、 黑色粘	石英、 角閃 石、長石、 黑色粘	外面: なし	堆上・枯	

込みが確認された。この浅い掘り込みの底面は、平らな面と緩やかな立ち上がりからなっていた。なお、東側の浅い掘り込みの北側および南側は確認調査時のトレンチによって消失していた。床面は大部分が硬化していた。

**埋土堆積状況**: 本遺構では運よく表土から床面直上にかけて一連の堆積過程を確認することができた。本遺構の堆積はいわゆるレンズ状堆積と考えられる。3号竪穴建物跡や10号竪穴建物跡とは異なり、新規富士テフラ層と考えられる堆積は確認されず、表土の直下からは基本層序3層が検出された。

出土遺物点数: 33点

出土遺物重量: 285g

遺物出土状況: 3層を上層、4～7層を下層として遺物を取り上げた。遺物は上層から床面直上にかけて出土した。

遺物: 6は縄文中期～後期と考えられる深鉢の破片である。

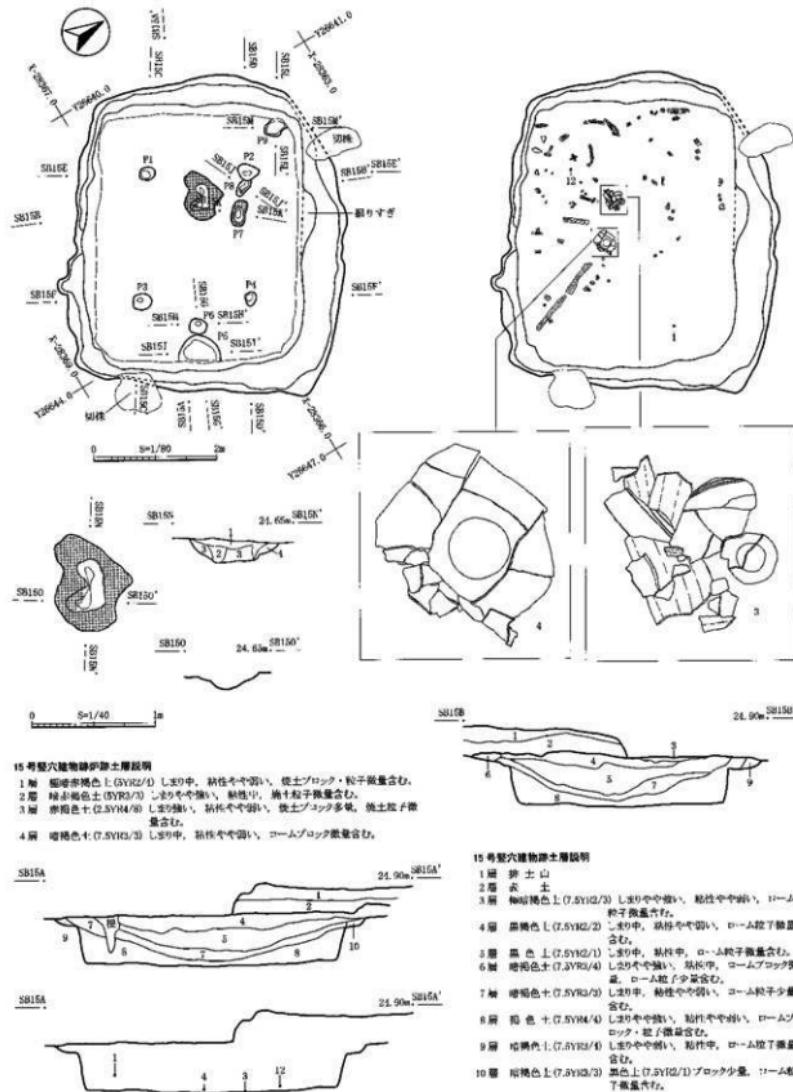
**備考**: 本遺構は平沢遺跡c地点における確認調査で検出された竪穴建物跡である。セクション観察のためのベルトについては表土から床面直上にかけて確認できる箇所に設定したため、その位置は本遺構の中心から大きくずれている。

## 15号竪穴建物跡

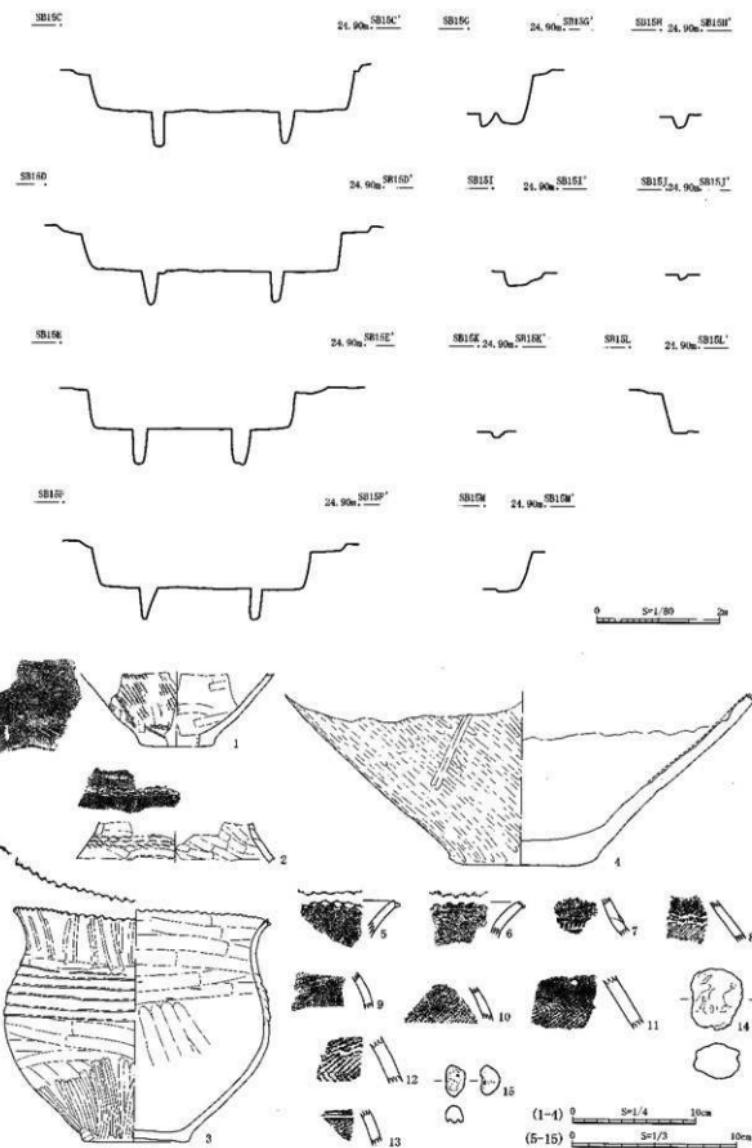
時期: 弥生時代後期 検出面: 基本層序3層 平面形態: 胸張隅丸長方形

規模: 長軸長 4.37m(5.17m), 短軸長 3.57m(4.39m), 深さ 0.67m(0.91m)

構造: 本遺構からは炉が1基、ピットが9基検出された。炉の底面からは被熱面が検出され、炉の埋土3層からは焼土ブロックが多量検出された。P1～P4は柱穴で、P5は竪穴壁沿いにある点とその深さから貯蔵穴と考えられる。P6はその位置とやや斜めに掘り込まれていたことから入口施設に関わるピットと考えられる。P7とP8は浅いピットだが、焼土と被熱面が確認されたことから火を焚く目的で構築されたと考えられる。断言はでき



第35図 15号堅穴建物跡 (1)



第36図 15号竪穴建物跡（2）

第29表 15号堅穴建物跡出土遺物観察表

番号	形式・特徴等	直徑	形態	文面・底形・裏面等	地土	スス・コグ	出土層位	備考	土器・土製品	
									寸法	直徑
1	弥生後期 壙	廣～底部 深：10.0cm 遺存高：6.0cm	外壁：褐色(7.5YR5/0), 色斑 内面：褐色(5YR14/1)	内面：ヘラナグ, ナグ, KL, LL 外面：ヘラナグ	石英, 長石, 雲母粒 石英, 角閃 石, 長石, 雲母粒	石英, 長石, 雲母粒 石英, 角閃 石, 長石, 雲母粒	なし コグ なし	床面直上		
2	弥生後期 壙	廣前 遺存15%	外壁：褐色(7.5YR5/1) 内面：褐色(7.5YR5/1)	内面：ヘラナグ, S字状跡 文面：ヘラナグ, ハタリデ	石英, 角閃 石, 長石, 雲母粒	石英, 角閃 石, 長石, 雲母粒	なし コグ なし	下層		
3	弥生後期 壙	口縁～底部 深：21.6cm 底：8.7cm 高：19.2cm	外壁：褐色(7.5YR5/0), に赤味 赤褐色(5YR14/3), 基盤 内面：褐色(7.5YR5/0), に赤味 赤褐色(5YR14/3)	内面：ヘラナグ, ミガキ, 交疊押繩 内面：ヘラナグ, ナグ	石英, 長石, 雲母粒 石英, 長石, 雲母粒	石英, 長石, 雲母粒 石英, 長石, 雲母粒	スス コグ なし	上層 床面直上		
4	弥生後期 壙	廣～底部 深：12.0cm 遺存高：14.2cm	外壁：褐色(7.5YR5/0), 褐色 (2.5YR7/8), 基盤 内面：褐色(7.5YR5/0), 褐色 (2.5YR7/8)	内面：ヘラナグ, 上り巻 外面：ヘラナグ, 不明	シマモット, 石 英, 角閃石, 長石, 黑色 雲母粒	シマモット, 石 英, 角閃石, 長石, 黑色 雲母粒	なし スス なし	下層		
5	弥生後期 壙	口縁部 破片		外壁：に赤い赤褐色(5YR5/3) 内面：に赤い褐色(5YR6/4), 黑色	内面：ナグ, 交疊押繩 内面：ナグ	内面：ナグ, 交疊 押繩 内面：ナグ	スス なし	下層		
6	弥生後期 壙	口縁部 破片	-	外壁：褐色(7.5YR5/0) 内面：に赤い褐色(7.5YR6/4)	内面：ヘラナグ, 一方向か らの押繩 内面：ヘラナグ	シマモット, 石 英, 角閃石, 長石, 黑色 雲母粒	なし	上層 内面剥落著		
7	弥生後期 壙	脚部 破片	-	外面：褐色(7.5YR5/0) 赤褐色(2.5YR6/2) 内面：褐色(2.5YR5/2)	内面：ナグ, キヂミ 内面：ナグ	シマモット, 石 英, 角閃石, 長石, 黑色 雲母粒	スス なし	床面直上		
8	弥生後期 壙	脚部 破片	-	外壁：褐色(7.5YR5/0) 内面：褐色(7.5YR5/0)	外壁：S字状跡文, 直筋 脚部(LL) 内面：ナグ	石英, 角閃 石, 長石, 雲母粒	なし	下層		
9	弥生後期 壙	脚部 破片	-	外壁：灰褐色(7.5YR5/2), 褐 色(7.5YR6/0) 内面：灰褐色(7.5YR5/2)	内面：横穴の網織 内面：ヒカル 内面：ヒカル	シマモット, 石 英, 角閃石, 長石, 黑色 雲母粒	スス なし	下層		
10	弥生後期 壙	脚部 破片	-	外壁：に赤い褐色(5YR5/3), 褐色(7.5YR5/0) 内面：に赤い褐色(7.5YR5/0)	外壁：ナグ, LR+R+H 内面：ナグ	石英, 角閃 石, 長石, 雲母粒	なし	埋土一部		
11	弥生後期 壙	脚部 破片	-	外壁：に赤い褐色(7.5YR5/4), に赤い褐色(10YR7/4), 赤褐色(10YR7/4), 内面：灰褐色(10YR5/2), に赤い褐色(10YR5/4)	外壁：S字状跡文, 脚加 筋(LR+R+H+H) 内面：ナグ	シマモット, 石 英, 角閃石, 長石, 黑色 雲母粒	なし	上層 11号堅穴建物跡 13と同一個体の可 能性あり		
12	弥生後期 壙	脚部 破片	-	外壁：に赤い赤褐色(10YR7/ 0), 棕色(2.5YR5/0), 赤褐色 (2.5YR5/0)	外壁：LR, RL, S字状跡 内面：ナグ	シマモット, 石 英, 角閃石, 長石, 黑色 雲母粒	なし	埋土一部		
13	弥生後期 壙	脚部 破片	-	外壁：赤褐, 褐色 内面：褐色(7.5YR5/0)	外壁：附加条3種ないしは 直筋状筋条文, 花葉 内面：ナグ	シマモット, 石 英, 角閃石, 長石, 黑色 雲母粒	なし	下層		
14	弥生後期 施瓦ル維	遺存100%	最大長：39mm 最大幅：20mm 最大厚：11mm	に赤い褐色(7.5YR5/0), 褐色 内面：褐色(7.5YR5/0)	-	石英, 角閃 石, 長石, 雲母粒	なし	下層		
番号	直徑・特徴等	石材	寸法	観察所見			出土層位	備考	石製品	
					直徑	直徑			出土層位	備考
15	輕石	輕石		ぐすんだ白色の軽石。明確な使用痕や彫刻といったものは認められない。			下層			

ないが、副炉的用途として使われた可能性がある。P 9は本遺構の下端に沿って作られたピットだったことから本遺構に使うものと考えられるが、その性格については不明である。本遺構の堅穴壁の外側では浅い掘り込みがほぼ全周した状態で確認された。その断面は堅穴壁沿いがやや平坦で、立ち上がりは緩やかな傾斜を呈していた。床面は全面が強く硬化していた。

**埋土堆積状況：**本遺構では運よく表土から床面直上にかけて一連の堆積過程を確認することができたが、3号堅穴建物跡や10号堅穴建物跡のように新規富士テフラ層は認められなかった。本遺構における埋土の堆積はいわゆるレンズ状で、堅穴壁外側で確認された浅い掘り込みから堅穴壁内側へと入り込むように7層が堆積していた。A-A'で確認された

10層は堅穴壁から上方へと不自然に立ち上がっており、もしかしたら壁板があった状態で堆積した層かもしれない。

**炭化物検出状況**：本遺構では下層から床面直上にかけて炭化材が多数検出された。とくに本遺構の南側および西側で炭化材が集中して確認され、南側の炭化材の中には長さが約140cmのものがあった。ところが、これだけの炭化材が検出されたにもかかわらず、本遺構からは焼土がほとんど検出されなかった。もし、火災にあった堅穴建物跡であるなら焼土が検出されないというのを考えがたいことから、これらの炭化材は本遺構の廃絶後に投棄されたと考えるのが妥当である。

**出土遺物点数**：弥生土器76点、弥生時代土製品1点、弥生時代石器1点

**出土遺物重量**：弥生土器3,010g、弥生時代土製品22g、弥生時代石器2g

**遺物出土状況**：遺物は上層から床面直上にかけて出土した。焼成粘土塊である14は下層から出土した。出土土器は破片が多いが、その中にあって3と4は良好な出土状態であった。4は胴部上半を欠いた大形壺だが、底部外面が上を向いた状態で出土したことから、4は伏せた状態で置かれ、その後土圧によって潰れたものと考えられる。3も4と同様に底部外面が上を向いた状態で出土したことから、口縁部を下にして伏せた状態で置かれ、その後土圧によって潰れたものと考えられる。

**遺物**：4・5・7・9・13の胎土にはシャモットが含まれている。一方、6の胎土には海綿骨針が含まれている。11の胎土にはシャモットに加えて海綿骨針も含まれている。さらに、11は附加条の原体が細く、軸縄の筋が明瞭な附加条3種が施されており、文様と赤彩の状態、胎土の類似性から11号堅穴建物跡出土No.13と同一個体の可能性がある。

**備考**：本遺構の10層については現場で上層観察を行なうことを失念してしまっていた。そのため、写真から色調および含まれている各種ブロック・粒子を判断したが、しまりや粘性については記載できなかった。また、本遺構から出土した炭化材の自然科学分析については行なっていない。

## 16号堅穴建物跡

**時期**：弥生時代後期 **検出面**：基本層序3層 **平面形態**：胴張隅丸長方形

**新旧関係**：16号堅穴建物跡<1号溝跡・2号溝跡・22P・28P

**規模**：長軸長4.85m 短軸長4.18m 深さ0.52m

**構造**：炉が1基、ピットが1基検出された。炉の底面では被熱面が認められ、炉の埋土2層からは多量の焼土ブロックが検出された。P1はその位置と深さから貯蔵穴と考えられる。柱穴と考えられるピットは検出されなかった。床面は全面が強く硬化していた。

**埋土堆積状況**：いわゆるレンズ状堆積を呈していた。

**出土遺物点数**：弥生土器123点

**出土遺物重量**：弥生土器1,541g

**遺物出土状況**：1～2層を上層、3層以下を下層として遺物を取り上げた。遺物は上層から床面直上にかけて出土した。



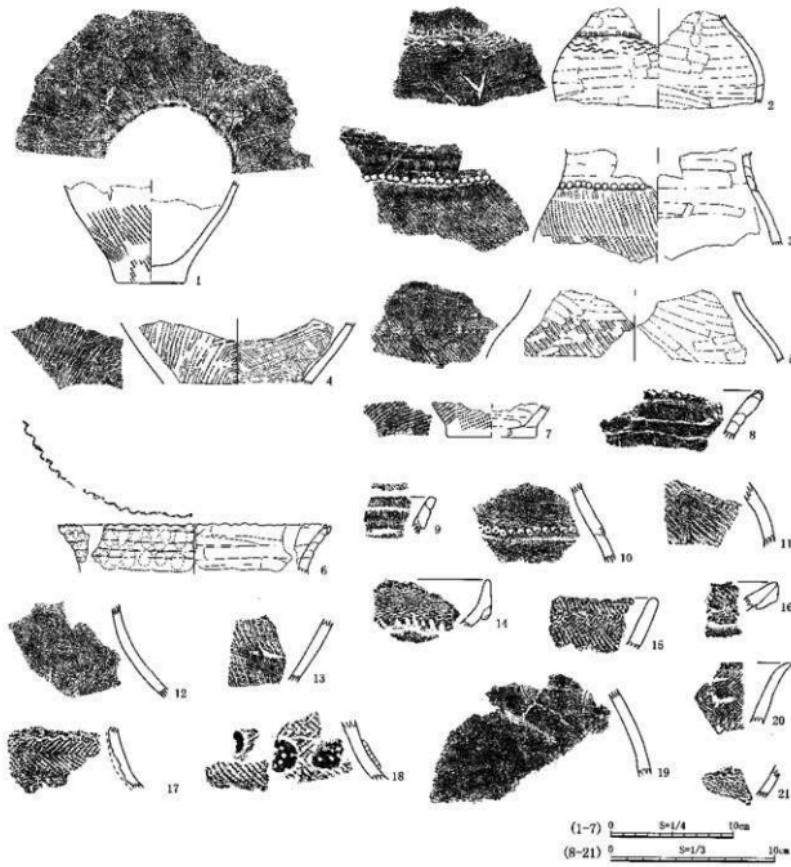
16号竪穴建物跡土層図

- 1層 棕褐色土 (7.SYR3/4) しらべや強い、粘性やや弱い、ロームブロック・粒子微量含む。
- 2層 棕褐色土 (7.SYR3/0) しらべ弱い、粘性やや弱い、ロームブロック少量、ローム泥炭少量含む。
- 3層 棕褐色土 (7.SYR3/3) しらべや弱い、粘性やや弱い、ロームブロック少量、ローム粒子微量含む。
- 4層 黑褐色土 (7.SYR3/2) しらべや弱い、粘性やや弱い、ローム粒子微量含む。
- 5層 棕褐色土 (7.SYR3/4) しらべや弱い、粘性やや弱い、ローム粒子微量含む。

### 第37図 16号竪穴建物跡（1）

第30表 16号竪穴建物跡出土遺物観察表（1）

番号	出土・発見場所	遺存状態	寸法	色調	文様・痕跡		地土	スス・コガ	出土層位	備考
					外面	内面				
1	弥生後期 窓	開口部 底:径:5.6cm 遺存高:8.5cm	遺存 100%	外面: 棕色 (7.SYR7/6), にぶ い褐色 (7.SYR7/0) 内面: 棕色 (7.SYR7/6)	外面: 直前後多条 (BL) 内面: 刻剥により不明		石英, 長石 黒色粘	スス コガ	床面以上	
2	弥生後期 解剖	解剖大路 (17.2cm) 遺存高: 8.1cm	遺存 20%	外面: 棕色 (7.SYR6/6) 内面: 棕色 (7.SYR6/6)	外面: ヘラダテ, S字状絞 筋形 内面: ヘラナゲ		石英, 長石 長石, 粘	スス コガ	下層	
3	弥生後期 窓	廻~輪郭 遺存 15%	遺存高: 8.4cm	外面: 棕色 (7.SYR6/6), にぶ い褐色 (SYR5/4) 内面: にぶい褐色 (7.SYR6/3)	外面: 滅文による字印? 内面: ヘラナゲ		石英, 長石 長石, 黄石 黒色粘	コガ なし	下層	
4	弥生後期 窓	解剖 遺存 20%	遺存高: 5.3cm	外面: 棕褐色 (7.SYR5/6) 内面: 棕褐色 (7.SYR4/1)	外面: 水前後4条 (BL) 内面: ヘラナゲ, ミガキ		石英, 長石 長石, 黄石 黒色粘	スス なし	上層	
5	弥生後期 窓	解剖 遺存 20%	遺存高: 5.9cm	外面: 棕色 (7.SYR5/1) 内面: 黄褐色 (10SYR6/6)	外面: ナグ, LRH-1. 内面: ヘラナゲ		石英, 長石 長石, 黄石 黒色粘	スス なし	上層	
6	弥生後期 窓	11袋~輪郭 遺存 15%	口:径: (21.7)cm 遺存高: 1.1cm	外面: 棕色 (SYR7/6) 内面: 棕色 (SYR6/6)	外面: ナグ, コピオラニ, 交叉織物 内面: ヘクナヂ		シヤマツ 石英, 長石 長石, 黄石 黒色粘	スス なし	下層 床面以上	
7	弥生後期 窓	解剖 遺存 20%	底:径: (7.2)cm 遺存高: 2.8cm	外面: 棕褐色 (7.SYR6/6) 内面: にぶい黃褐色 (10SYR6/5) 内面: にぶい黃褐色 (10SYR5/5)	外面: R-R 内面: ナグ		石英, 長石 長石, 黄石 黒色粘	なし コガ	下層	
8	弥生後期 窓	口部 破片	-	-	外面: ナグ, 穿孔 内面: ヘクナヂ		海綿骨針 長石, 長石 黒色粘	スス なし	上層	



第38図 16号竖穴建物跡（2）

第31表 16号竖穴建物跡出土遺物観察表（2）

遺物名	形式・特徴等	保存状態	寸法	色調	文様・模様・斑紋等	胎土	スズ・コグ	出土層位	備考
9 乳頭部 突起	口縫部 破片	-		外面：褐色(7.5YR 6/6), 黄褐色 内面：褐色(7.5YR 6/6), 黄褐色	外面：IL 内面：ナゲ	石英, 灰岩 石, 長石, 閃長岩	スズ 内面：なし	下層	
10 乳頭部 突起	胸器 破片	-		外側：にぶい褐色(7.5YR 6/20) 内側：にぶい褐色(7.5YR 6/3) にぶい褐色(7.5YR 6/3)	外側：ヘラナゲ 内面：ナゲ	石英, 灰岩 石, 長石, 黒色鉱物	ナシ	上層	
11 乳頭部 突起	胸器 破片	-		外側：褐色(7.5YR 6/6), にぶい褐色(7.5YR 6/4) 内側：にぶい褐色(7.5YR 6/4)	外面：IL, L, ナゲ 内面：ヘラナゲ	石英, 灰岩, 黑色鉱物	ナシ	下層	
12 乳頭部 突起	胸器 破片	-		外側：にぶい褐色(7.5YR 5/3), にぶい黄褐色(10 YR 6/0) 内面：褐色(5YR 6/6)	外面：ヘラナゲ 内面：ヘラナゲ	石英, 灰岩, 長石, 黑色鉱物	内面：なし 内面：コグ	上層	

第32表 16号竪穴建物跡出土遺物観察表(3)

遺物名	形式・断面等	表面状況	寸法	色調	文様・模様・圖案等	胎土	スス・コゲ	出土層位	備考
13 弥生後期 灰	輪郭 破片	-	外面：明褐色(2.5YR5/6) 内面：にらい褐色(2.5YR 5/2)	外面：HL-L 内面：ナゲ	赤茶、黄褐色 灰石、長石、 黑色斑	ナシ 内面：コゲ	下層		
14 弥生後期 灰	口縁部 破片	-	外面：灰褐色(7.5YR4/2) 内面：ホリ褐色(7.5YR5/4) 内面：にらい褐色(7.5YR5/4) 内面：ミタニ	外面：ナゲ、キズ、削落 内面：ナゲ	シャモット、白 灰、角閃石、 長石、赤色 斑	なし	下層	内外曲面削りし れ	
15 弥生後期 灰	口縁部 破片	-	外面：褐色(7.5YR7/6) 内面：褐色(7.5YR7/6)	外面：LR, RI 内面：ナゲ	石英、青閃 石、長石、 黑色斑	ナシ	上層		
16 弥生後期 灰	口縁部 破片	-	外面：褐色(7.5YR5/6) 内面：褐色(7.5YR5/6)	外面：複合口縁、RI 内面：ナゲ	花崗岩、青閃 石、長石、 黑色斑	なし	床面直上		
17 弥生後期 灰	輪郭 破片	-	外面：褐色(7.5YR5/6) 内面：褐色(7.5YR5/6)	外面：ミタニ、LR, HL, S 内面：ナシ	シャモット、 石英、長石、 黑色斑	なし	上層	内面削除確認で 削れ不明	
18 弥生後期 灰	唇部 破片	-	外面：褐色(3YR6/6) 内面：褐色(3YR6/6)	外面：LR, HL, 内面削除 内面：ナゲ	シャモット、石 英、角閃石、 長石、黑色 斑	なし	上層	内面一部剥落	
19 弥生後期 灰	輪郭 破片	-	外面：褐黃褐色(7.5YR5/4), 赤茶 内面：にらい褐色(7.5YR 5/2)	外面：ミタニ 内面：ナゲ	シャモット、石 英、角閃石、 長石、黑色 斑	なし	下層	内面削除芳しい	
20 弥生後期 灰II型	口縁部 破片	-	外面：褐色(7.5YR7/6) 内面：褐色(7.5YR7/6), 赤茶	外面：LR, HL 内面：ミタニ	石英、青閃 石、長石、 黑色斑、黑 色斑	なし	上層		
21 弥生後期 灰II	輪郭 破片	-	外面：にらい褐色(7.5YR5/3) 内面：赤茶、墨斑	外面：S半状結節文 内面：ミタニ	シャモット、白 灰、角閃石、 長石、黑色 斑	なし	上層		

遺物: 14・17・18・19・21 は胎土にシャモットが含まれ、8 の胎土には海綿骨針が含まれている。

6 の胎土にはシャモットに加えて海綿骨針も含まれている。

## 17号竪穴建物跡

時期：弥生時代後期 検出面：基本層序3～4層 平面形態：不整方形か？

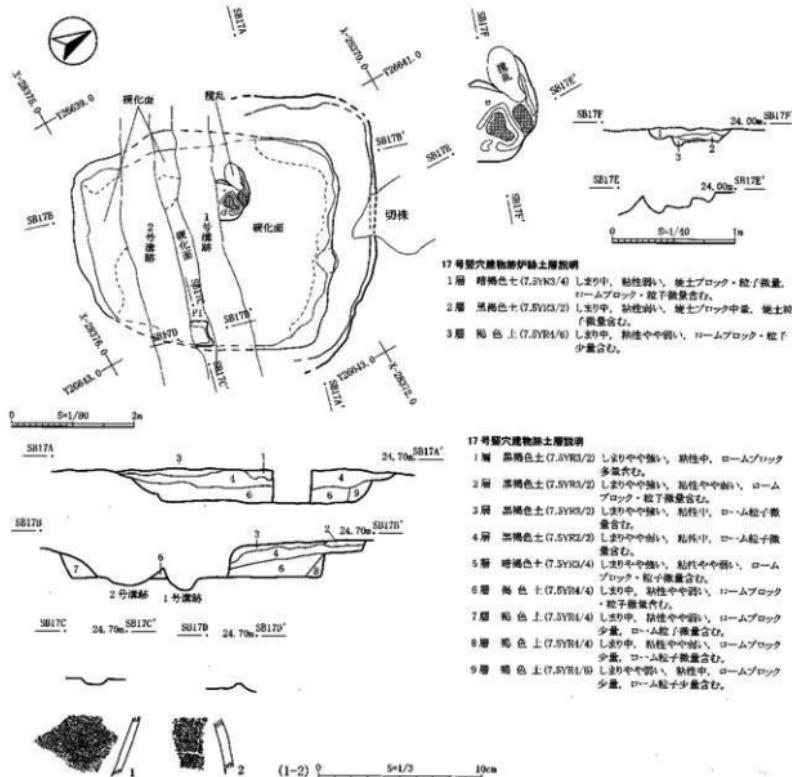
新旧関係：17号竪穴建物跡 < 1号溝跡・2号溝跡

規模：長軸長 4.36m(4.97m), 短軸長 3.47m(4.12m), 深さ 0.38m(0.63m)

構造：本遺構からは炉が 1 基、ピットが 1 基検出された。炉の底面ではブロック状に分かれた被然面が認められ、炉の埋土 2 層からは焼土ブロックが中量検出された。P 1 はその位置と深さから貯蔵穴と考えられる。一方、柱穴と考えられるピットは検出されなかった。北西から東側にかけて竪穴壁外側で浅い掘り込みが確認されたが、大部分は 1 号溝跡と 2 号溝跡に壊されたと考えられる。その底面は平坦で立ち上がりがやや急であるものと、緩やかに傾斜して立ち上がっていたものの 2 つが認められた。今回の調査で検出された竪穴建物跡の中でも本遺構はやや異質である。なぜなら、他の竪穴建物跡は貯蔵穴から炉を結ぶラインに長軸があることがほとんどだったのにに対し、本遺構の長軸は上記のラインと直角に交わったところにあったからである。1 号溝跡と 2 号溝跡に壊されていたために断片的ではあるが、床面は大部分が硬化していたと考えられる。

埋土堆積状況：いわゆるレンズ状堆積と考えられる。6 層は竪穴壁外側の浅い掘り込みから壁内側に向かって入り込むように堆積していた。壁沿いで検出された 7 ～ 9 層は埋土の特徴から壁が崩れて堆積した可能性がある。

出土遺物点数：弥生土器 3 点



第39図 17号竪穴建物跡

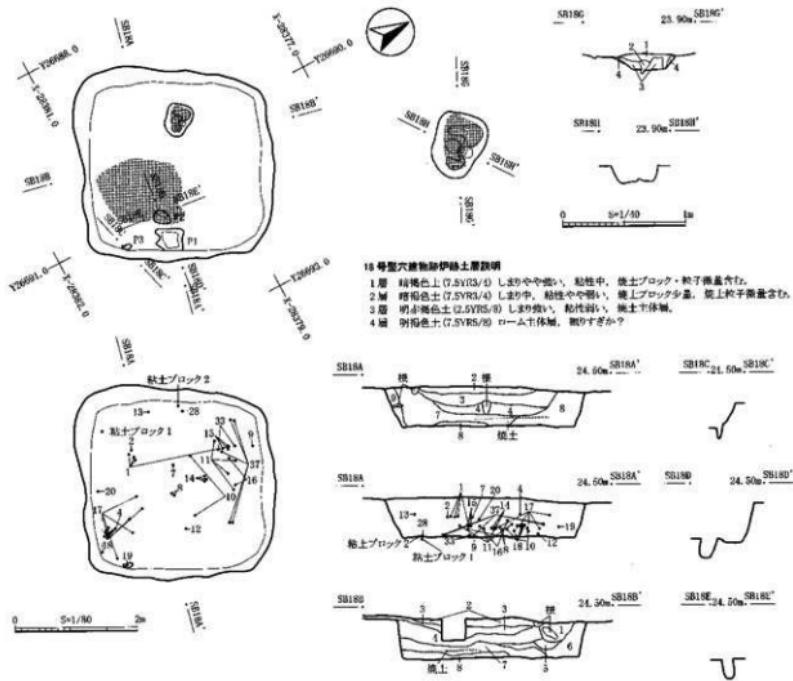
第33表 17号竪穴建物跡出土遺物観察表

土器	形状・大きさ	保存状況	寸法	色調	文様・形態・特徴等	胎土	スヌ・コグ		量
							出土層位	出土地点	
1 赤生土器 直筒 不規	筒形 破片	-	内面：にじみ褐色 (7.5YR16/3) 外面：褐色 (7.5YR3/1)	外表面：ナゲ 内表面：ナラナゲ	赤茶石、 青灰石、 黄褐色	赤茶石、 青灰石、 黄褐色	スヌ	コグ	未記
2 赤生土器 直筒 不規	筒形 破片	-	内面：褐色 (7.5YR7/6) 外面：灰褐色 (7.5YR5/2)	外表面：ナゲ 内表面：ナゲ	赤茶石、 青灰石、 黄褐色	赤茶石、 青灰石、 黄褐色	なし	なし	下層

出土遺物重量：赤生土器 21g

遺物出土状況：遺物はきわめて少なく、下層から床面直上にかけて出土した。

遺物：1・2ともに無文の破片である。



- 18号堅穴建物跡地図**
- 1層 植物色土 (7.SVR1/4) しまりやや多い、粘性やや強い、ロームブロック微量、ローム粒子少數含む。当該遺構の覆土の可能性は低く、ピットなどの遺構が盛んでいたか?
  - 2層 植物色土 (7.SVR2/2) しまりやや多い、粘性やや弱い、ロームブロック・粒子微量。暗褐色土 (7.SVR3/4) ブロック多発む。
  - 3層 暗褐色土 (7.SVR3/3) しま中、粘性弱い、ロームブロック少量、ローム粒子少數含む。
  - 4層 土 上 (7.SVR4/4) しま中、粘性やや弱い、ロームブロック少量、ローム粒子少數含む。
  - 5層 暗褐色土 (7.SVR5/2) しま中、粘性弱い。
  - 6層 黒褐色土上 (7.SVR3/4) しまり、粘性やや弱い、ロームブロック微量。ローム粒子少數含む。
  - 7層 黑褐色土 (7.SVR2/2) しまりやや弱い、粘性中、ロームブロック・粒子微量。施上ブロック・粒子微量含む。
  - 8層 黑褐色土 (7.SVR3/2) しまりやや弱い、粘性やや弱い、ローム粒子微量含む。
  - 9層 茶色 + (7.SVR4/4) しま中、粘性中、ロームブロック・粒子少數含む。

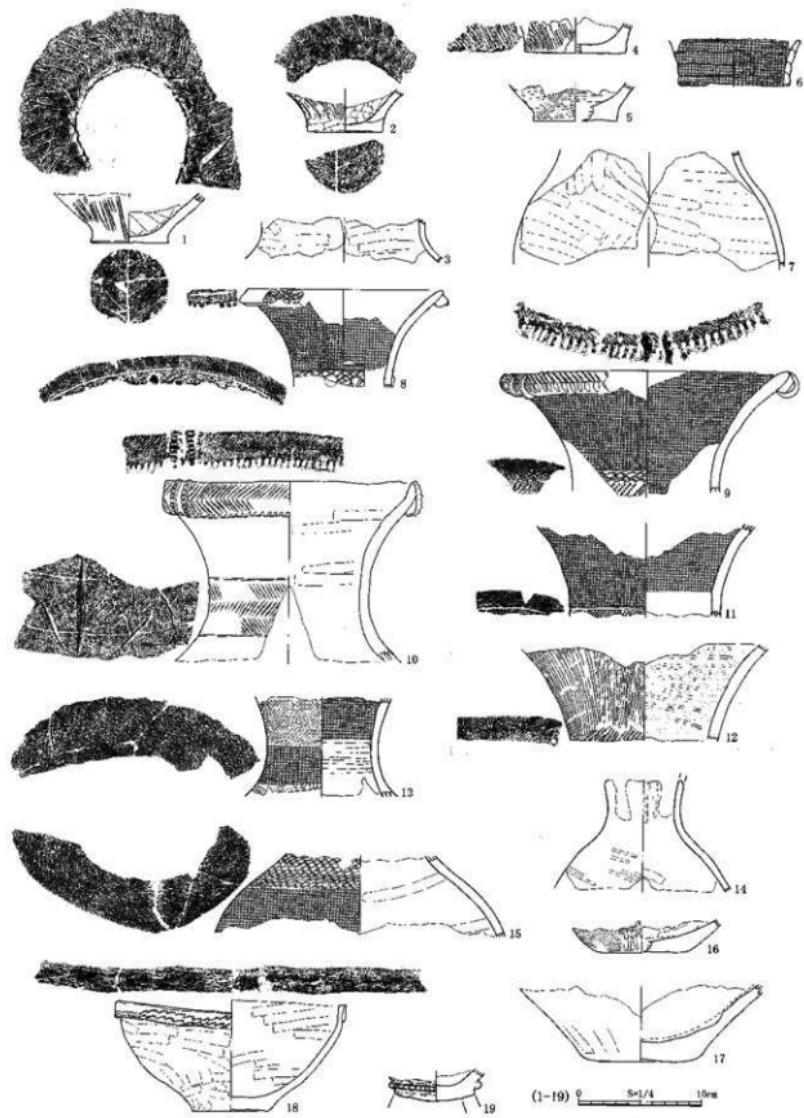
第40図 18号堅穴建物跡 (1)

## 18号堅穴建物跡

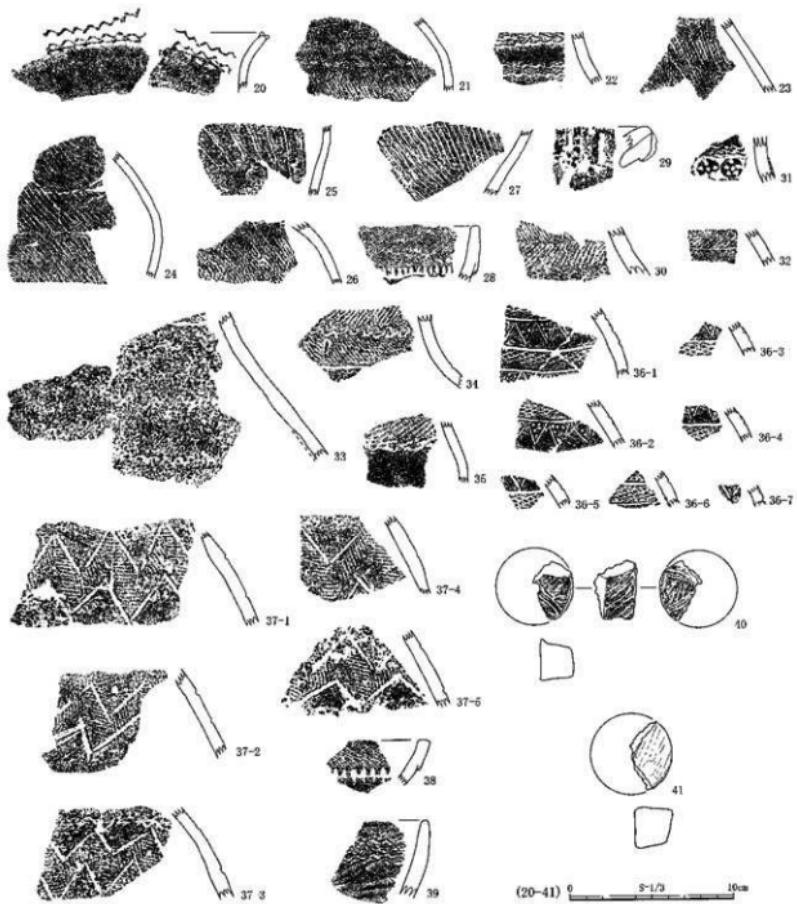
時期：弥生時代後期 棲出面：基本層序3層 平面形態：不整洞張方形

規模：長軸長 3.27m, 短軸長 3.21m, 深さ 0.65m

構造：本遺構からは炉が1基、ピットが3基検出された。炉の底面からは被熱面が検出され、炉の埋土3層は焼土主体層であった。P1はその位置と深さから貯蔵穴と考えられる。P2は堅穴壁に向かって斜め方向に立ち上がる断面形態を呈しており、その位置も踏まえると入口施設に関わるピットと考えられる。P3は直径が小さいが、深さは0.22mであり、しっかりと掘り込まれている印象を受ける。ほかに適当なピットもないことから、このピットが柱穴の可能性がある。床面は全面が強く硬化していた。



第41図 18号竖穴建物跡（2）



第42図 18号竪穴建物跡（3）

**埋土堆積状況：**今回の調査で検出された竪穴建物跡の多くが自然堆積によって埋没したと考えられ、上層は黒色・黒褐色、下層は暗褐色・褐色を呈しており、その違いは顕著であった。また、こうした自然堆積の場合、ロームブロック・粒子の混じり方は下層でやや多かったものに対し、上層では微量しか確認されなかった。一方、本遺構ではこうした色調の差異とは異なり、下層は黒褐色土による埋土であった。さらに、本遺構の上層にあたる3層・4層ではロームブロック・粒子が少量～中量程度入り込んでおり、こうしたことは自然堆積

第34表 18号堅穴建物跡出土遺物観察表(1)

測定No.	測定部・測定項目	直角状寸法	寸法	名前		文様・施用・縫合等	出土	スス・コグ	出土位置	備考
				外面	内面					
1	再生後期 窓	底部 直径 100% 窓存高 4.2cm	底径 : 6.4cm 窓存高 : 4.2cm	外面 : 黄褐色 (5.VR5/20), 明 黄褐色 (5.VR5/6), 黑斑 内面 : 灰色 (5.VR5/6), 黑斑	外面 : RL + L 内面 : ハラナダ	石灰, 角閃 石, 長石, 黑 色斑	外面 : スス 内面 : なし	下層	底無木葉痕あり	
2	再生後期 窓	底部 直径 50%	底径 : 6.2cm 窓存高 : 3.5cm	外面 : 淡褐色 (5.VR5/1), に しむ・褐色 (5.VR5/6), 黑斑 内面 : にしむ・褐色 (5.VR5/6), 黑斑	外面 : ハラナダ, RL+L 内面 : ハラナダ	鶴嘴形針, 石灰, 角閃 石, 長石, 黑 色斑	外面 : スス 内面 : なし	下層	底無木葉痕あり	
3	再生後期 窓	窓部 直径 50%	窓存高 : 3.7cm	外面 : 淡褐色 (5.VR5/20), に しむ・褐色 (5.VR5/30) 内面 : 褐色 (5.VR5/6), 黑斑	外面 : ハラナダ 内面 : ハラナダ	石灰, 角閃 石, 長石, 黑 色斑	外面 : スス 内面 : なし	上層		
4	再生後期 窓	底部 直径 50%	底径 : 8.3cm 窓存高 : 3.0cm	外面 : 淡褐色 (5.VR5/1), に しむ・褐色 (5.VR5/1), 黑斑	外面 : RL + L 内面 : ナダ	石灰, 马石, 黑 色斑	外面 : 古 色鉛針, 石灰, 角閃 石, 長石, 黑 色斑	上層		
5	再生後期 窓	底部 直徑 25%	底径 : 6.8cm 窓存高 : 3.0cm	外面 : 淡褐色 (5.VR5/3) 内面 : 淡褐色 (5.VR5/21), 黑斑	外面 : ハラナダ 内面 : ハラナダ	石灰, 角閃 石, 長石, 黑 色斑	外面 : スス 内面 : なし	下層	底無土	
6	再生後期 窓	口縫一部 直徑 40%	口縫 : 10.2cm 窓存高 : 3.8cm	外面 : 淡褐色 (5.VR5/20/4), 黒斑 (7.VR5/20/2), 黑斑 内面 : 淡褐色 (7.VR5/21/1)	外面 : ハラナダ 内面 : ハラナダ	角閃石, 長 石, 黑色斑	外面 : スス 内面 : なし	下層		
7	再生後期 窓	脚部 直徑 15%	窓存高 : 9.8cm	外面 : にしむ・褐色 (5.VR5/1), 黒斑 (7.VR5/6/6) 内面 : にしむ・褐色 (5.VR5/6)	外面 : ナダ, ハラナダ 内面 : ナダ	石灰, 角閃 石, 長石, 黑 色斑	外面 : なし	下層		
8	再生後期 窓	口縫一部 直徑 60%	口縫 : 15.0cm 窓存高 : 8.0cm	外面 : 淡褐色 (7.VR5/17/6), 黑 色斑 (7.VR5/17/6), 黑斑 内面 : 淡褐色 (7.VR5/17/6), 小影	外面 : ハラナダ, 縫合各3針 (原縫は割れ 縫い)	シモセト, 海 綿形針, 石灰, 角閃石, 黑 色斑	外面 : なし	下層		
9	再生後期 窓	口縫一部 直徑 30%	口縫 : 22.7cm 窓存高 : 10.2cm	外面 : 淡褐色 (7.VR5/17/6), 黑 色斑 (7.VR5/17/6), 黑斑 内面 : なし, 黑斑	外面 : ハラナダ 内面 : ハラナダ	石灰, 角閃 石, 長石, 黑 色斑	外面 : なし	下層	内面一部剥離あり	
10	再生後期 窓	口縫一部 直徑 30%	口縫 : 19.0cm 窓存高 : 11.8cm	外面 : 明黄褐色 (2.5.VR6/6), 明黄褐色 (2.5.VR6/6), 黑斑 内面 : 明黄褐色 (2.5.VR6/6)	外面 : LR, RL, ハラナダ, 沈 泡形針 (2.5.VR6/6)	石灰, 角閃 石, 長石, 黑 色斑	外面 : なし	下層	外面剥離により調 査小片	
11	再生後期 窓	窓部 直徑 60%	窓存高 : 7.7cm	外面 : にしむ・褐色 (7.VR5/16/4), 黒斑 (7.VR5/16/4), 黑斑 内面 : なし	外面 : ハラナダ, I.R., 沈 泡形針 (2.5.VR6/6)	シモセト, 石 灰, 角閃石, 黑 色斑	外面 : なし	下層	内面剥離帯著なた め, 断壁は断片的 にしか見えず	
12	再生後期 窓	窓部 直徑 25%	窓存高 : 7.9cm	外面 : 淡褐色 (2.5.VR6/4), 山影 内面 : なし	外面 : LR, RL, ハラナダ 内面 : ハラナダ	シモセト, 石 灰, 角閃石, 黑 色斑	外面 : なし	下層	内面剥離帯著い	
13	再生後期 窓	窓部 直徑 60%	窓存高 : 8.2cm	外面 : にしむ・褐色 (5.VR5/6/6), 明黄褐色 (5.VR5/6/6), 黑斑 内面 : 淡褐色 (10.VR8/1), にしむ・褐色 (10.VR8/1), 黑斑	外面 : ハラナダ, S字状縫合 文 内面 : ナダ, ハラナダ	石灰, 角閃 石, 長石, 黑 色斑	外面 : なし	下層		
14	再生後期 窓	脚部 直徑 30%	窓存高 : 9.1cm	外面 : にしむ・褐色 (5.VR5/6/3) 内面 : にしむ・褐色 (5.VR5/6/3)	外面 : ハラナダ 内面 : ハラナダ, ミガキ	シモセト, 石 灰, 角閃石, 黑 色斑	外面 : なし	下層	内外面とも剥離が 差しく, 調査は断 片的に繰り返す	
15	再生後期 窓	脚部 直徑 40%	窓存高 : 6.8cm	外面 : 淡褐色 (7.VR5/17/6), 黑 色斑 内面 : なし	外面 : ハラナダ, K.S字状縫合 文 内面 : ナダ, ハラナダ	シモセト, 石 灰, 角閃石, 黑 色斑	外面 : なし	下層		
16	再生後期 窓	底部 直徑 80%	底径 : 6.8cm 窓存高 : 2.7cm	外面 : にしむ・褐色 (5.VR5/6/4), 黒斑 内面 : にしむ・褐色 (5.VR5/6/4), 淡褐色 (5.VR5/6/4)	外面 : ハラナダ 内面 : ハラナダ	石灰, 角閃 石, 長石, 黑 色斑	外面 : なし	下層		
17	再生後期 窓	底部 直徑 50%	底径 : 7.0cm 窓存高 : 6.5cm	外面 : 淡褐色 (10.VR8/4), にしむ・褐色 (10.VR8/4), 黑 色斑 内面 : 淡褐色 (10.VR8/4)	外面 : ハラナダ 内面 : 不明	シモセト, 石 灰, 角閃石, 黑 色斑	外面 : なし	上層 下層	内面剥離著しい ため調査不明	
18	再生後期 窓	口縫一部 直徑 80%	口縫 : 17.8cm 底径 : 6.2cm 窓高 : 9.1cm	外面 : 淡褐色 (10.VR8/4), 黒斑 内面 : にしむ・褐色 (5.VR5/6/4), 淡褐色 (5.VR5/6/4)	外面 : 混合11種, S字状 縫合 内面 : ハラナダ	シモセト, 石 灰, 角閃石, 黑 色斑	外面 : スス 内面 : なし	下層		
19	再生後期 窓	脚部 直徑 100%	窓存高 : 2.8cm	外面 : にしむ・褐色 (10.VR8/4/2) 内面 : にしむ・褐色 (5.VR5/6/4), 黒斑	外面 : キサミ 内面 : ハラナダ	シモセト, 石 灰, 角閃石, 黑 色斑	外面 : なし	下層		
20	再生後期 窓	口縫 破片	-	外面 : にしむ・褐色 (5.VR5/6/3) 内面 : 淡褐色 (7.VR5/6/6), 黑斑	外面 : ハラナダ 内面 : ハラナダ	鶴嘴形針, 石灰, 角閃 石, 長石, 黑 色斑	外面 : スス 内面 : なし	下層		
21	再生後期 窓	脚部 破片	-	外面 : 淡褐色 (10.VR8/4) 内面 : 淡褐色 (7.VR5/6/6), にし む・褐色 (5.VR5/6/3)	外面 : ナダ, RL, L 内面 : ナダ	石灰, 角閃 石, 長石, 黑 色斑	外面 : スス 内面 : なし	上層		
22	再生後期 窓	脚部 破片	-	外面 : にしむ・褐色 (5.VR5/6/4), 淡褐色 (5.VR5/6/4), 黑斑 内面 : にしむ・褐色 (7.VR5/6/4), 淡褐色 (5.VR5/6/4), 黑斑	外面 : ナダ, S字状縫合 文 内面 : ハラナダ	石灰, 角閃 石, 長石, 黑 色斑	外面 : スス 内面 : なし	下層		
23	再生後期 窓	脚部 破片	-	外面 : 淡褐色 (7.VR5/6/4), 黑 斑 内面 : 淡褐色 (7.VR5/6/4)	外面 : RL + L 内面 : ナダ	石灰, 角閃 石, 長石, 黑 色斑	外面 : なし	下層		
24	再生後期 窓	脚部 破片	-	外面 : にしむ・褐色 (5.VR5/6/4), 淡褐色 (5.VR5/6/4), 黑斑 内面 : にしむ・褐色 (5.VR5/6/4), 淡褐色 (5.VR5/6/4), 黑斑	外面 : RL + L 内面 : ナダ	石灰, 角閃 石, 長石, 黑 色斑	外面 : なし	上層	多量の灰石を含む	
25	再生後期 窓	脚部 破片	-	外面 : にしむ・褐色 (5.VR5/6/4), 淡褐色 (5.VR5/6/4), 黑斑 内面 : にしむ・褐色 (5.VR5/6/4), 淡褐色 (5.VR5/6/4)	外面 : ナダ, RL + L 内面 : ナダ	石灰, 角閃 石, 長石, 黑 色斑	外面 : スス 内面 : ニゴ	上層 下層		

第35表 18号竪穴建物跡出土遺物観察表(2)

分類	形状・性質	直面状況	寸法	名前	文様・技術・断面等	胎土	スス・コゲ	出土層位	備考
26	弥生後期 壺	胴部 破片	-	外面：灰色(7.SYR6/0), 黒斑外面：R. ナシ 内面：微細(7.SYR7/6), 壁面内面：ヘラナデ	石英, 角閃 石, 長石, 赤色斑, 黑 色斑, 壁面 内面：ヘラナデ	外面：スス 内面：なし	下層		
27	弥生後期 壺	胴部 破片	-	外面：褐色(7.SYR6/0), 細斑 内面：にらむ褐色(7.SYR6/0)	外面：R. R. L. L. 内面：ナダ	外面：角閃 石, 長石, 褐色斑 内面：ナダ	外面：なし 内面：コゲ	下層	
28	弥生後期 壺	口部 破片	-	外面：褐色(7.SYR6/0), 細斑 内面：褐色(7.SYR6/0), 彩绘 内面：にらむ褐色(7.SYR6/0)	外面：R. R. 西文による色彩, 角閃 石, 長石, 褐色斑 内面：ナダ	外面：ナシ 内面：ナシ		床面直上	
29	弥生後期 壺	口部 破片	-	外面：褐色(7.SYR6/0), にらむ い褐色(7.SYR6/0) 内面：にらむ褐色(7.SYR6/0)	外面：ナダ, LR. 漆器浮 文 内面：不明	ナダ, 角 閃石, 長石, 褐色斑 内面：ナダ	ナシ	下層	内面剥落により調 査不明
30	弥生後期 壺	肩部 破片	-	外面：褐色(7.SYR6/0), にらむ い褐色(7.SYR6/0), にらむ い褐色(7.SYR6/0), にらむ い褐色(7.SYR6/0)	外面：R. R. S. S. 次第剥離 文 内面：褐色(7.SYR6/0), にらむ い褐色(7.SYR6/0)	ナダ, 角閃 石, 長石, 黑 色斑 内面：不明	ナシ	下層	内面剥落をさした め調査不明
31	弥生後期 壺	脚部 破片	-	外面：褐色(7.SYR6/0), 歩崩 内面：褐色(7.SYR6/0)	外面：R. R. 行狀斜 文 内面：ナダ	ナダ, 角閃 石, 長石, 褐色斑 内面：ナダ	ナシ	下層	
32	弥生後期 壺	肩部 破片	-	外面：褐色(7.SYR6/0) 内面：褐色(7.SYR6/0)	外面：LR. 沈绘 内面：ナダ	ナダ, 角閃 石, 長石, 褐色斑 内面：ナダ	ナシ	下層	
33	弥生後期 壺	肩部 破片	-	外面：褐色(7.SYR6/0), 歩崩 内面：褐色(7.SYR6/0)	外面：R. R. S. 文様 内面：ナダ	ナダ, 角閃 石, 長石, 褐色斑 内面：ナダ	ナシ	上層	外側剥離者
34	弥生後期 壺	胴部 破片	-	外面：褐色(7.SYR6/0), にら い褐色(7.SYR6/0) 内面：褐色(7.SYR6/0), 黒斑	外面：R. R. S. S. 状態 文 内面：ナダ	ナダ, 角閃 石, 長石, 黑 色斑 内面：ナダ	ナシ	下層	内面剥離あり
35	弥生後期 壺	胴部 破片	-	外面：褐色(7.SYR6/0) 内面：褐色(7.SYR6/0)	外面：ナダ, LR. S. S. 状態 文 内面：ナダ	ナダ, 角閃 石, 長石, 褐色斑 内面：ナダ	ナシ	下層	
36	弥生後期 壺	胴部 破片	-	外面：褐色(7.SYR6/0), 赤 色斑 内面：褐色(7.SYR6/0)	外面：ナダ, 沈绘 内面：ナダ	ナダ, 角閃 石, 長石, 黑 色斑 内面：ナダ	ナシ	上層 下層 床面直上	詰剝離あり
37	弥生後期 壺	胴部 破片	-	外面：にらむ褐色(7.SYR6/0), にらむ褐色(7.SYR6/0), 歩崩 内面：青褐色(7.SYR6/0), 黒斑	外面：ナダ, LR. 沈绘 内面：ナダ	ナダ, 角閃 石, 長石, 黑 色斑 内面：ナダ	ナシ	下層 床面直上	内面剥離により調 査不明
38	弥生後期 壺	口部 破片	-	外面：浅黃褐色(7.SYR6/0), 彩绘 内面：赤色	外面：褐色口縁, 接脚部 3 箇所(身体は剥離感), ナダ 内面：ナダ	ナダ, 角閃 石, 長石, 褐色斑 内面：ナダ	ナシ	下層	
39	弥生後期 壺	口部～胴部 破片	-	外面：褐色(7.SYR6/0), 内面：褐色(7.SYR6/0)	外面：ナダ, S. S. 状態 文 内面：ナダ, ナダ	ナダ, 角閃 石, 長石, 褐色斑 内面：ナダ	ナシ	下層	
40	弥生後期 壺	表在20%	直径：4.7cm 厚：2.6cm 底：17.5cm <sup>2</sup> /60	表在20%	壁厚3mm 底厚(7.5cm <sup>2</sup> )：褐色	R. L. L.	ナシ	上層	
41	弥生後期 壺	表在25%	直径：4.2cm 厚：2.5cm	にらむ褐色(7.SYR6/0)	三ガキ	ナダ, 角閃 石, 長石, 褐色斑 内面：ナダ	ナシ	上層	

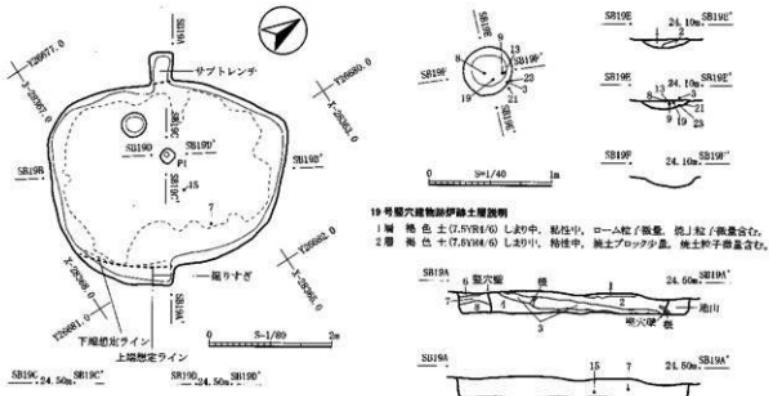
では認められなかった。以上のことと総合すると、本遺構は人為的に埋められた可能性が高いと言える。一方、本遺構からは7層中から焼土も確認された。

出土遺物点数：弥生土器 692点、弥生時代土製品 2点

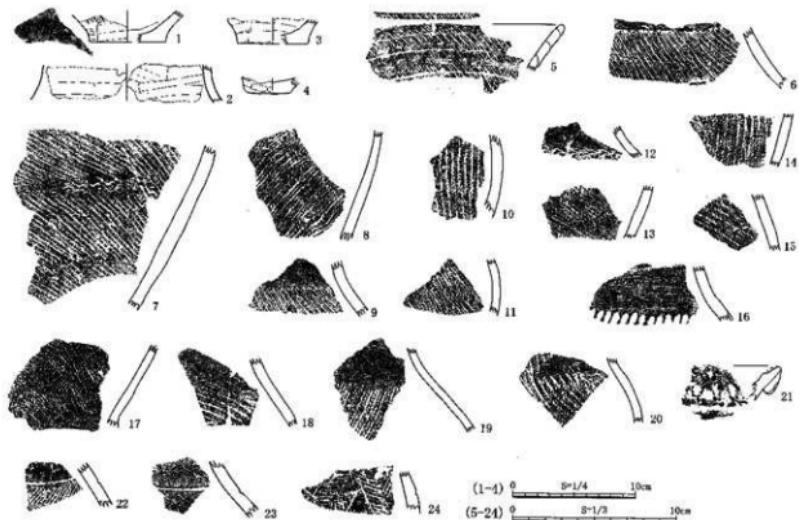
出土遺物重量：弥生上器 9,673g、弥生時代土製品 42g

遺物出土状況：2～3層を上層、4層以下を下層として遺物を取り上げた。今回調査を行なった竪穴建物跡の中で本遺構はとくに出土遺物の量が多く、上層から床面直上にかけて多量に遺物が出土した。このことから本遺構は人為的に埋め戻しつつ、遺物も投棄したものと考えられる。また、白色粘土のブロックが床面直上の2箇所で確認された。

遺物：2・5・20・31の胎土には海綿骨針が含まれ、11・12・14・15・17・18・19・29・30・33・37・38の胎土にはシャモットが含まれている。一方、8・34・36の胎土にはシャモットに加えて海綿骨針も認められる。38は複雑な幾何学文が施された装飾壺の破片と



- 19号竖穴物跡土層説明
- 1層 黑褐色土 (7.SV92/2) しわの弱い、粘性中、ローム粒子微量含む。
  - 2層 黑褐色土 (7.SV92/4) しわのやや強い、粘性中、ロームブロック・粒子微量含む。
  - 3層 棕褐色土 (7.SV94/3) L20中、粘性やや弱い、ローム粒や弱い、ロームブロック微量。ヨーム粒子中量含む。
  - 4層 棕褐色土 (7.SV94/3) L29中、粘性やや弱い、ロームブロック・粒子微量。黒褐色 (7.SV93/2) ブロック微量含む。
  - 5層 棕褐色土 (7.SV94/3) L29中、粘性やや弱い、ロームブロック・粒 / 粒量含む。
  - 6層 黑褐色土 (7.SV93/2) しわり弱い、粘性やや弱い、ローム粒 / 粒量含む。
  - 7層 黑褐色土 (7.SV93/4) しわの中、粘性弱い、ロームブロック微量、ヨーム粒子中量含む。
  - 8層 黑褐色土 (7.SV93/2) しわり弱い、粘性中、ロームブロック・粒 / 粒量含む。

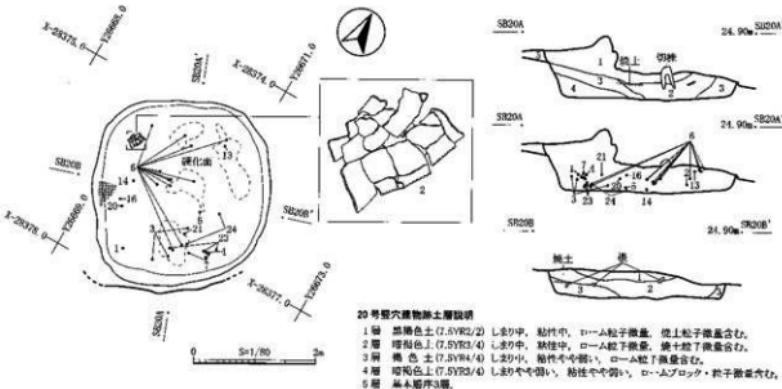


第43図 19号竖穴物跡

第36表 19号堅穴建物跡出土遺物観察表

土器									
遺物名	型式・標様等	遺存状態	寸法	色調	文様・成形・調整等	胎土	スス・コゲ	出土層位	備考
1 野生後期 灰	底部 直徑 6.2cm 直存 20%	底 細: 6.2cm 直存高: 2.6cm	内面: 黄褐色 (7.5YR4/1), 外面: 赤褐色 (7.5YR4/2) 内面: 非施色 (SYR4/4), 有 孔: 施褐色 (SYR4/3)	外底: ハラナダ、ミガキ 内面: ナダ	石灰、黄石、 黑色粘土	なし	上層	内部木炭痕あり	
2 野生後期 灰	底部 直存 15%	直存高: 3.2cm	外底: 赤褐色 (SYR4/6), 黑陶 内面: 底褐色 (SYR4/6), 黑陶	外底: ハラナダ 内面: ハラナダ	石灰、黄石、 黑色粘土	なし	上層		
3 野生後期 灰	底部 直徑 6.5cm 直存 25%	直 径: 6.5cm 直存高: 2.1cm	外底: 明顯褐色 (SYR5/3), 外 面: 赤褐色 (SYR5/2) 内面: 施褐色 (SYR5/2)	外底: ハラナダ 内面: ハラナダ	石灰、角閃 石、黄石、 黑色粘土	外底: なし 内面: ニゴ	下層		
4 野生後期 灰 器種不明	底部 直存 100%	直 径: 3.2cm 直存高: 1.3cm	外底: 褐色 (SYR6/7), 黑陶 内面: 有孔: 褐色 (SYR6/7), 例 外底: 棕褐色 (7.5YR4/13) 内面: 棕褐色 (7.5YR4/13), 例 外底: 褐色 (SYR6/8)	外底: ナダ 内面: ナダ	石灰、角閃 石、黄石、 黑色粘土	なし	堆土		
5 野生後期 灰	口縁 破片	-	外底: にぶい褐色 (7.5YR8/4), 底色 (7.5YR7/6), 黑陶 内面: にぶい褐色 (7.5YR8/4), 底色 (7.5YR7/6)	外底: ハラナダ + L 内面: ハラナダ	石灰、角閃 石、黄石、 黑色粘土	なし	上層 床面直上 堆土上		
6 野生後期 灰	脚部 破片	-	外底: にぶい褐色 (7.5YR8/4), 底色 (7.5YR7/6), 黑陶 内面: にぶい褐色 (7.5YR8/4), 底色 (7.5YR7/6)	外底: ナダ, R, L + L 内面: ハラナダ	石灰、角閃 石、黄石、 黑色粘土	なし	上層		
7 野生後期 灰	脚部 破片	-	外底: にぶい褐色 (7.5YR8/4), 底色 (7.5YR7/6), 黑陶 内面: にぶい褐色 (7.5YR8/4), 底色 (7.5YR7/6)	外底: R, + L + L 内面: ハラナダ	石灰、黄石、 黑色粘土	スス 外底: なし	上層		
8 野生後期 灰	脚部 破片	-	外底: にぶい褐色 (7.5YR8/4) 内面: 黑褐色 (7.5YR3/2)	外底: I, R + R 内面: ナダ, ミガキ	石灰、角閃 石、黄石、 黑色粘土	スス 外底: ニゴ	下層 床面直上 堆土上		
9 野生後期 灰	脚部 破片	-	外底: にぶい褐色 (7.5YR8/4) 内面: にぶい褐色 (7.5YR8/3)	外底: HL, L + L 内面: ナダ	石灰、角閃 石、黄石、 黑色粘土	なし	下層		
10 野生後期 灰	脚部 破片	-	外底: 反褐色 (7.5YR8/2) 内面: 棕褐色 (7.5YR7/6)	外底: HL + L + L 内面: ナダ	石灰、角閃 石、黄石、 黑色粘土	スス 外底: なし	堆土+灰		
11 野生後期 灰	脚部 破片	-	外底: 棕褐色 (7.5YR8/1) 内面: 棕褐色 (SYR5/0)	外底: HL + L + L 内面: ナダ	石灰、角閃 石、黄石、 黑色粘土	スス 外底: なし	上層		
12 野生後期 灰	脚部 破片	-	外底: 反褐色 (7.5YR8/2) 内面: 反褐色 (SYR5/0)	外底: HL, L + L 内面: ハラナダ, ミガキ	石灰、角閃 石、黄石、 黑色粘土	スス 外底: コゲ	堆土+灰		
13 野生後期 灰	脚部 破片	-	外底: にぶい褐色 (7.5YR8/3), 底色 (7.5YR7/6) 内面: にぶい褐色 (SYR5/0)	外底: HL + L + L 内面: ナダ	石灰、角閃 石、黄石、 黑色粘土	なし	堆土+灰		
14 野生後期 灰	脚部 破片	-	外底: 反褐色 (7.5YR8/2) 内面: 黑褐色 (7.5YR3/2)	外底: HL + L + L 内面: ナダ	石灰、角閃 石、黄石、 黑色粘土	スス 外底: コゲ	堆土 内面剥落酥軟		
15 野生後期 灰	脚部 破片	-	外底: にぶい褐色 (7.5YR8/4), 底色 (7.5YR7/6) 内面: にぶい褐色 (7.5YR8/4)	外底: HL + L + L 内面: ナダ	石灰、角閃 石、黄石、 黑色粘土	なし	上層	内面剥落酥軟で倒 壊初期不可	
16 野生後期 灰	脚部 破片	-	外底: にぶい褐色 (7.5YR8/3), 底色 (7.5YR7/6) 内面: にぶい褐色 (7.5YR8/4) 底色 (7.5YR7/6)	外底: HL + L + L 内面: ナダ	石灰、角閃 石、黄石、 黑色粘土	なし	下層		
17 野生後期 灰	脚部 破片	-	外底: にぶい褐色 (7.5YR8/4) 内面: 反褐色 (7.5YR8/4)	外底: HL + L + L 内面: ナダ	石灰、角閃 石、黄石、 黑色粘土	なし	堆土+灰		
18 野生後期 灰	脚部 破片	-	外底: にぶい褐色 (SYR8/3), 内面: にぶい褐色 (SYR8/3)	外底: ハラナダ, RL + L 内面: ハラナダ	石灰、角閃 石、黄石、 黑色粘土	スス 外底: コゲ	床面直上		
19 野生後期 灰	脚部 破片	-	外底: 棕褐色 (7.5YR2/1) 内面: 棕褐色 (7.5YR4/1)	外底: ナダ, LR + R + R 内面: ナダ	石灰、角閃 石、黄石、 黑色粘土	スス 外底: なし	下層 内面剥落		
20 野生後期 灰	脚部 破片	-	外底: 棕褐色 (SYR8/1) 内面: 棕褐色 (SYR8/1)	外底: HL + L + L 内面: ナダ	石灰、角閃 石、黄石、 黑色粘土	スス 外底: コゲ	堆土+灰		
21 野生後期 灰	口縁 破片	-	外底: にぶい褐色 (7.5YR6/4), 底色 (7.5YR7/6) 内面: にぶい褐色 (7.5YR6/4)	外底: ハラナダ, LR, RL, 沈 泡 内面: ナダ	シモチト, 石 灰, 角閃石, 黑色粘土	なし	上層 内面剥落酥軟で倒 壊初期不可		
22 野生後期 灰	脚部 破片	-	外底: 棕褐色 (SYR8/6) 内面: 棕褐色 (7.5YR7/6)	外底: ハラナダ, LR, RL, 沈 泡 内面: ナダ	シモチト, 石 灰, 角閃石, 黑色粘土	なし	堆土上 内面少し剥落あり		
23 野生後期 灰	脚部 破片	-	外底: 棕褐色 (SYR8/6) 内面: にぶい褐色 (7.5YR7/6)	外底: ハラナダ 内面: にぶい褐色 (SYR8/6)	シモチト, 石 灰, 角閃石, 黑色粘土	なし	堆土上		
24 野生後期 灰	脚部 破片	-	外底: にぶい褐色 (7.5YR8/3), 底色 (SYR7/6) 内面: 棕褐色 (SYR8/6)	外底: LR, RL, 沈 泡 内面: ナダ	シモチト, 石 灰, 角閃石, 黑色粘土	なし	堆土 内面剥落酥軟		

考えられる。9～12はその大きさから大形壺の口頭部と考えられる。



第44図 20号竪穴建物跡（1）

### 19号竪穴建物跡

時期：弥生時代後期 検出面：基本層序3層 平面形態：不整胴張隅丸長方形

規模：長軸長3.89m、短軸長3.02m、深さ0.36m

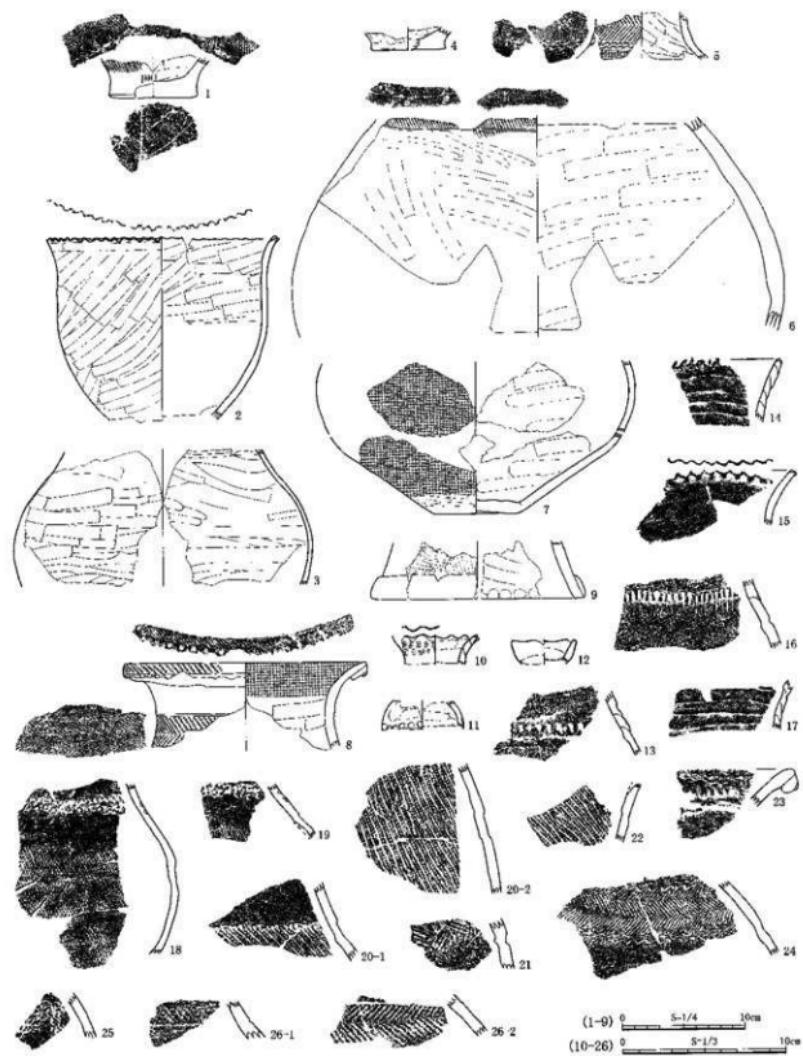
**構造：**本遺構からは炉が1基、ピットが1基検出された。炉の底面では被熱面が確認できず、焼土についても検出量は少なく、多いもので炉の埋土2層において焼土ブロックが少量認められた程度であった。P1は掘り込みが浅く、その性格については不明である。確実に柱穴と判断できるピットは検出されなかった。床面については竪穴壁際に沿って未硬化面が見られた。本遺構の掘り込みは浅く、床面はソフトローム層まで達していなかった。

**埋土堆積状況：**本遺構で検出された各層の埋土は本遺構の北西から南東方向に向かって傾斜しており、いわゆるレンズ状堆積ではなかった。さらに、3層はロームブロックが多量、ローム粒子が中量含まれていた。本遺構はソフトローム層まで掘り込まれていなかったことから、竪穴壁が崩れたことでこれらの多量なロームブロック・粒子が流れ込んだとは考えられない。したがって、これらのロームブロック・粒子は明らかに人為的に本遺構に投げ込まれたと考えざるをえない。以上のことを踏まえると、本遺構の埋土は人為的に埋め戻されたことで形成されたと考えられ、さらには北西方向から南西方向に向かって埋め戻しが行なわれたために北西から南東方向に向かって埋土が傾斜した可能性が指摘できる。

**遺物出土状況：**1～2層を上層、3層以下を下層として遺物を取り上げた。遺物は上層から下層にかけて出土した。本遺構から出土した遺物はいずれも破片だったが、とくに炉の埋土中から破片が集中して出土した。

**遺物：**14・16・22の胎土には海綿骨針が含まれており、21・23・24の胎土にはシャモットが含まれている。

**備考：**本遺構の北西側は周辺の竪穴壁よりも暗く、他の遺構が重なっている可能性があった。



第45図 20号竪穴建物跡（2）

第37表 20号堅穴建物跡出土遺物観察表(1)

遺物名	式・標号	遺存状況	寸法	色調	文様・形態・特徴等	出土土	スス・コグ	出土位置	備考		
									外表面	内面	
1 生後漆 漆	底部 重存50%	底 径: 5.80cm 高存高: 3.5cm	外表面: にぶい 黄褐色(10VR7/0) 黒皮 内面: 小崩	外表面: ナゲ、RL 内面: タグ	石英、角閃 石、長石、 黑色鉱	石英、角閃 石、長石、 黑色鉱	なし 内面: ヨケ	下層	内面の色調はコグ の影響により判別 できず。木製似	あり。	
2 生後漆 漆	口縁~柄部 道存50%	鋼頭足入深: 17.0cm 口径: 18.4cm 重存高: 15.0cm	外表面: 黄褐色(7.5VR3/1), 黑 褐色(7.5VR3/1), 黑褐色 (2.5VR6/0), 黑 内面: 黄褐色(7.5VR3/0), 黑 褐色(7.5VR3/1), 黑 内面: にぶい 黄褐色(7.5VR3/4), 黑 褐色(7.5VR3/4)	外表面: ナゲ、ヘラナゲ、父 石、父石、 内面: ヘラナゲ	石英、角閃 石、長石、 黑色鉱	石英、角 閃石、長石、 黑色鉱	外表面: 2スス 内面: ヨケ	下層			
3 生後漆 漆	底部 道存15%	鋼頭足入深: (24.2)cm 重存高: 11.0cm	外表面: にぶい 黄褐色(5.5VR5/4) 内面: にぶい 黄褐色(7.5VR5/4), 内面: にぶい 黄褐色(7.5VR5/3)	外表面: ヘラケズリ、ヘラナゲ 内面: ナゲ	石英、角閃 石、長石、 黑色鉱	石英、角閃 石、長石、 黑色鉱	スス 内面: なし	下層			
4 生後漆 漆	底部 道存30%	底 径: (4.9)cm 重存高: 1.8cm	外表面: にぶい 黄褐色(5.5VR5/4) 内面: にぶい 黄褐色(7.5VR5/4)	外表面: ナゲ、内面: 外表面: RL, H., S字状結節部, 内面: ヨケ	石英、角 閃石、長石、 黑色鉱	石英、角 閃石、長石、 黑色鉱	なし	下層			
5 生後漆 漆	底部 道存30%	底 径: 3.9cm 重存高: 3.9cm	外表面: 黄褐色(10VR7/0), 黑 褐色(7.5VR6/0), 小崩, 風化 内面: 黃褐色(1.5VR7/0), 植物 (G.5VR6/0), 黑 内面: ヘラナゲ、ナゲ	外表面: RL, H., S字状結節部, 内面: ナゲ	石英、角 閃石、長石、 黑色鉱	石英、角 閃石、長石、 黑色鉱	なし	下層			
6 生後漆 漆	鋼頭 道存25%	鋼頭足入深: (46.1)cm 重存高: 17.5cm	外表面: 黄褐色(7.5VR3/1), 黑 褐色(7.5VR3/1), 黑 内面: 黄褐色(7.5VR3/0), 黑 内面: 黄褐色(7.5VR3/0), 黑 内面: ナゲ	外表面: ナゲ、ミガキ 内面: ミガキ、 内面: ナゲ	石英、角 閃石、長石、 黑色鉱, 父 石, 沈殿 内面: ヘラナゲ	石英、角 閃石、長石、 黑色鉱, 父 石, 沈殿 内面: ナゲ	ナメモツ, 父 石, 角閃石、 長石, 黑色 鉱	上層 下層	表面剥落により認 定不明		
7 生後漆 漆	鋼頭 道存15%	鋼頭足入深: (25.9)cm 底 径: 6.6cm 重存高: 12.40cm	外表面: 黄褐色(10VR7/0), 黑 褐色(7.5VR6/0), 黑 内面: 明黄色(10VR7/0), 黑 内面: 黄褐色(7.5VR6/0), 黑 内面: ナゲ	外表面: ミガキ 内面: ミガキ 内面: ナゲ	石英、角 閃石、長石、 黑色鉱, 沈 殿	石英、角 閃石、長石、 黑色鉱, 沈 殿	なし	下層			
8 生後漆 底上蓋	口縁~脚部 道存20%	底 径: 19.25cm 重存高: 7.2cm	外表面: 黄褐色(7.5VR7/0), 黑 褐色(7.5VR7/0), 小崩 内面: ナゲ	外表面: 板口跡, 测定上 部: RL, H., 沈殿 内面: ヘラナゲ, ミガキ	石英、角 閃石、長石、 黑色鉱, 父 石, 沈殿	石英、角 閃石、長石、 黑色鉱, 父 石, 沈殿	なし	上層 下層	内面多変色		
9 生後漆 漆	脚部 道存15%	底 径: (17.3)cm 重存高: 4.7cm	外表面: 黄褐色(7.5VR7/0) 内面: 黄褐色(7.5VR7/0)	外表面: ミガキ 内面: ナゲ, ミコヒオガ	石英、角 閃石、長石、 黑色鉱	石英、角 閃石、長石、 黑色鉱	なし	上層			
10 生後漆 小形漆	口縁~脚部 道存20%	底 径: 5.00cm 重存高: 1.8cm	外表面: にぶい 黄褐色 (10VR7/0) 内面: にぶい 黄褐色 (10VR7/0)	外表面: 刺突 内面: ナゲ	石英、角 閃石、長石、 黑色鉱	石英、角 閃石、長石、 黑色鉱	なし	下層			
11 生後漆 漆?	小形漆?	脚部 道存25%	脚部足入深: (5.60)cm 重存高: 1.8cm	外表面: 黄褐色(7.5VR4/1) 内面: 明黄色(7.5VR4/1)	外表面: ナゲ 内面: ナゲ	石英、角 閃石、長石、 黑色鉱	石英、角 閃石、長石、 黑色鉱	なし	下層		
12 生後漆 漆?	口縁~脚部 道存15%	底 径: 5.70cm 重存高: 1.5cm	外表面: にぶい 黄褐色(7.5VR4/1), 灰褐色(7.5VR4/2) 内面: にぶい 黄褐色(7.5VR4/1), 灰褐色(7.5VR4/2)	外表面: ナゲ 内面: ナゲ	石英、角 閃石、長石、 黑色鉱	石英、角 閃石、長石、 黑色鉱	なし	下層			
13 生後漆 漆	脚部 破片	-	外表面: 黄褐色(7.5VR6/0) 内面: にぶい 黄褐色(7.5VR6/0)	外表面: ナゲ 内面: ナゲ, ミカクス	石英、角 閃石、長石、 黑色鉱	石英、角 閃石、長石、 黑色鉱	なし	下層			
14 生後漆 漆	II脚部 破片	-	外表面: 黄褐色(7.5VR2/3) 内面: 明黄色(7.5VR2/1), 黑 褐色(7.5VR2/2)	外表面: 跡跡 内面: ミカクス	石英、長石、 黑色鉱	石英、 内面: スス	スス 内面: なし	下層			
15 生後漆 漆	口縁~脚部 破片	-	外表面: 黄褐色(7.5VR4/1) 内面: にぶい 黄褐色(7.5VR4/3)	外表面: ナゲ 内面: ナゲ	石英、角 閃石、長石、 黑色鉱	石英、角 閃石、長石、 黑色鉱	なし	下層			
16 生後漆 漆	脚部 破片	-	外表面: にぶい 黄褐色 (10VR7/0) 内面: にぶい 黄褐色 (10VR7/0)	外表面: ナゲ 内面: ナゲ, ナゲ	石英、角 閃石、長石、 黑色鉱	石英、角 閃石、長石、 黑色鉱	なし	上層			
17 生後漆 漆	脚部 破片	-	外表面: 黄褐色(7.5VR6/0), 灰褐色(7.5VR6/0) 内面: にぶい 黄褐色 (10VR7/0)	外表面: ナゲ 内面: ナゲ	石英、角 閃石、長石、 黑色鉱	石英、角 閃石、長石、 黑色鉱	なし	下層			
18 生後漆 漆	脚部 破片	-	外表面: 黄褐色(7.5VR6/0), 明 黄色(7.5VR6/0) 内面: にぶい 黄褐色(7.5VR6/0), 黑 褐色(7.5VR6/0)	外表面: RL + L, L. 内面: ナゲ	石英、角 閃石、長石、 黑色鉱	石英、角 閃石、長石、 黑色鉱	なし	I層 下層	N. 19と同一個体か N. 18と同一個体か		
19 生後漆 漆	脚部 破片	-	外表面: 黄褐色(7.5VR6/0) 内面: 黄褐色(7.5VR6/0), 黑 褐色(7.5VR6/0)	外表面: RL + L, L. 内面: ナゲ	石英、角 閃石、長石、 黑色鉱	石英、角 閃石、長石、 黑色鉱	なし	下層	内面一部例 N. 18と同一個体か		
20 生後漆 漆?	脚部 破片	-	外表面: 黄褐色(7.5VR6/0), 黑 褐色(7.5VR6/0), 黑 内面: にぶい 黄褐色 (7.5VR6/0)	外表面: RL + L, L. 内面: ナゲ	石英、角 閃石、長石、 黑色鉱	石英、角 閃石、長石、 黑色鉱	なし	上層	大枚の石多量合 む。		
21 生後漆 漆	脚部 破片	-	外表面: にぶい 黄褐色(7.5VR6/0), 黑 褐色(7.5VR6/0), 黑 内面: にぶい 黄褐色(7.5VR6/0), 黑 褐色(7.5VR6/0)	外表面: ナゲ, RL, 沈殿 内面: ナゲ	石英、角 閃石、長石、 黑色鉱	石英、角 閃石、長石、 黑色鉱	なし	上層	内面剥落により認 定不明。		
22 生後漆 漆?	脚部 破片	-	外表面: 黄褐色(7.5VR6/0) 内面: 黄褐色(7.5VR6/0)	外表面: RL + L, L. 内面: 不明	石英、角 閃石、長石、 黑色鉱	石英、角 閃石、長石、 黑色鉱	なし	下層	剥落により認 定不明。 大枚の石多量合 む。		
23 生後漆 漆	口縁 破片	-	外表面: にぶい 黄褐色(10VR8/4), 黑褐色, 黑 内面: にぶい 黄褐色 (10VR8/4), 黑褐色	外表面: ナゲ 内面: ナゲ, キサギ, ミカクス	石英、角 閃石、長石、 黑色鉱	石英、角 閃石、長石、 黑色鉱	なし	下層			
24 生後漆 漆	脚部 破片	-	外表面: 黄褐色(7.5VR7/0)	外表面: ナゲ 内面: ナゲ	石英、角 閃石、長石、 黑色鉱	石英、角 閃石、長石、 黑色鉱	なし	下層	脚部 脚部破片		
25 生後漆 漆	脚部 破片	-	外表面: にぶい 黄褐色(10VR8/4), 黑褐色, 黑 内面: にぶい 黄褐色 (7.5VR8/4), 黄褐色 (5.5VR8/4), 黑褐色 (5.5VR8/4)	外表面: ナゲ 内面: ナゲ	石英、角 閃石、長石、 黑色鉱	石英、角 閃石、長石、 黑色鉱	なし	下層	内面剥落が 多い。		

第38表 20号竪穴建物跡出土遺物観察表(2)

遺物名	型式・断面図	底面状態	寸法	色調	文様・或形・記録等	胎土	スス・コゲ	出土層位	備考
26 弥生後期 壺	腹部 破片	-	-	外面：褐色(GVRe/6), に凸凹 縦色(7.SYRe/6) 内面：橙色(GVRe/6)	外面：ナガリ, LR, RI., S 字状鉢形文 内面：ナガリ	シヤモリ。赤 瓦、角閃石、 長石、赤色 斑、黒色 斑。	なし	下層	



第46図 遺構外出土の弥生土器

そのため、サブトレーナーを設定して掘削したが、結果的に明確な遺構は確認されなかった。一方、南東側の一部については竪穴壁の立ち上がりに気づけず、掘りすぎてしまった。

## 20号竪穴建物跡

時期：弥生時代後期 検出面：基本層序3層～4層 平面形態：胸張隅丸方形

規模：長軸長3.04m(3.17m)、短軸長2.91m、深さ0.56m(0.76m)

構造：炉やピットは検出されなかった。床面は大部分が硬化していたが、部分的に未硬化の面も見られた。本遺構の大部分は基本層序4層で検出されたが、一部基本層序3層で検出されたところもあった。基本層序3層で検出された部分については竪穴壁外側に浅い掘り込みが確認され、おそらく竪穴壁に沿ってさらに広がっていたものと思われる。浅い掘り込みの断面形態は立ち上がりの傾斜が急であった。

埋土堆積状況：いわゆるレンズ状堆積であり、自然堆積によって埋没したものと考えられる。3層中からは焼土も検出された。

遺物出土状況：1層を上層、2層以下を下層として遺物を取り上げた。遺物は上層から床面直上にかけて出土した。とくに2はその出土状況から土器が横倒しになった状態から上圧

第39表 遺構外出土弥生土器観察表

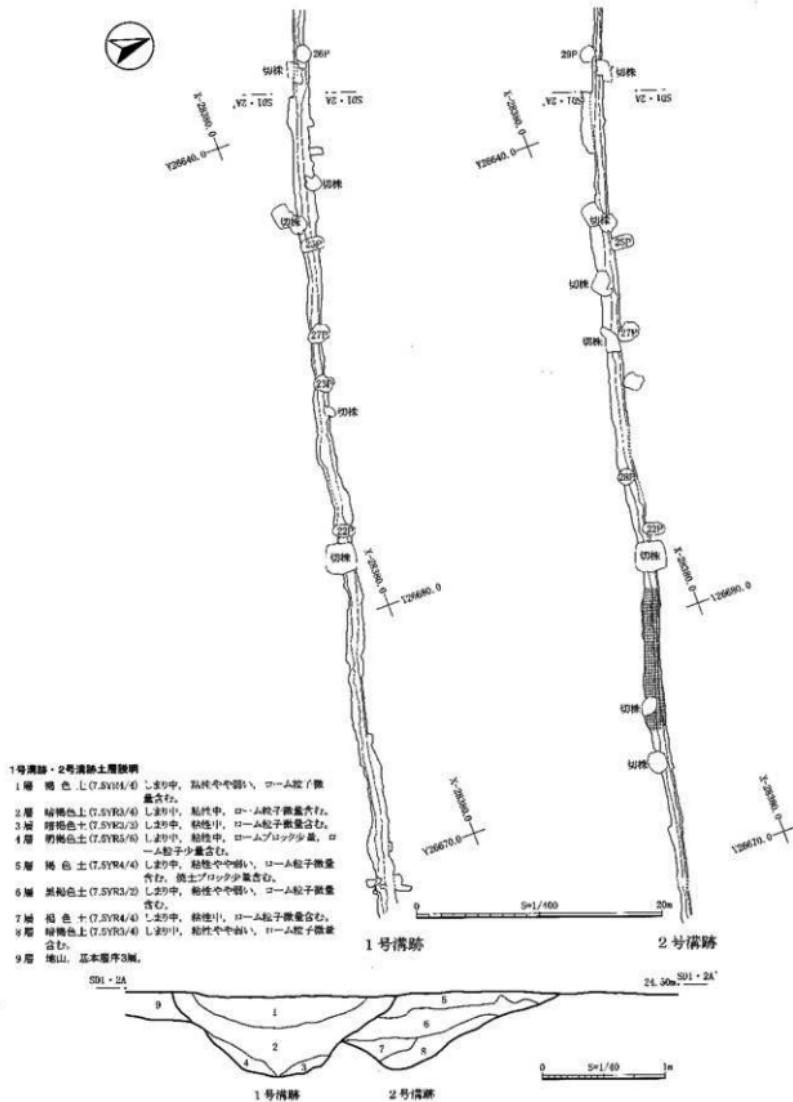
遺物番号	目次・分類	遺存状況	寸法	色調	文様・痕跡・施用跡	胎土	スス・コケ	出土層位	備考
1	弥生後期 甕	頭部 破片	-	外面：にぶい褐色(7.5VR5/4) 底面：にぶい褐色(7.5VR5/4) 内面：にぶい褐色(7.5VR5/3)	外面：ヘラナダ、ミガキ 内面：ヘラナダ、ミガキ	石英、角閃石、長石、黒色斑	なし	基本層序 2層	
2	弥生後期 甕	底部 遺存15%	底、径：(5.0cm 遺存高：3.8cm	外面：にぶい褐色(7.5VR5/3) 内面：にぶい褐色(7.5VR5/3)	外面：ヘラナダ、ミガキ 内面：ミガキ	石英、長石、黑色斑	外面：スス コケ 内面：なし	包含層	
3	弥生後期 甕	脚部 破片	-	外面：にぶい褐色(10VH5/4) 内面：底黄褐色(10VH5/2)	外面：LH、沈棒 内面：不明	シャモット、石英、角閃石、長石、黒色斑	なし	包含層	内面剥落により調査不判
4	弥生後期 甕	脚部 遺存30%	遺存高：4.0cm	外面：にぶい褐色(10VH5/4) 内面：にぶい褐色(10VH5/2) 内面：赤褐色(5VH4/3)	外面：ヘラナダ、齊伏工具 によるキザミ 内面：ヘラナダ	石英、長石、黑色斑	スス 内面：なし	胎土	
5	弥生後期 甕	底部 遺存40%	底、径：(6.0cm 底存高：3.0cm	外面：にぶい褐色(7.5VR5/4) 赤彩、黒斑 内面：赤彩	外面：ヘラナダ 内面：ヘラナダ	シャモット、石英、角閃石、長石、黒色斑	なし	胎土	
6	弥生後期 甕	口縁部 破片	-	外面：にぶい褐色(7.5VR5/4) 内面：にぶい褐色(10VH5/3)	外面：ヘラナダ、交互押捺 内面：ヘラナダ	石英、角閃石、長石、黒色斑	スス 内面：なし	表土	
7	弥生後期 甕	破片	-	外面：にぶい褐色(7.5VR5/4) 内面：黒褐色(7.5VR4/2)	外面：底前段多条(RL) 内面：ヘラナダ	石英、角閃石、長石、黒色斑	なし	表土	内面剥落あり
8	弥生後期 甕	脚部 破片	-	外面：褐色(7.5YR 6/6) 内面：褐色(7.5YR 4/1) 底面：褐色(7.5YR 5/6)	外面：RL-L-L 内面：ナデ	石英、角閃石、長石、黒色斑	なし	表土	
9	弥生後期 甕	脚部 破片	-	外面：褐色(7.5YR 5/6) 内面：にぶい褐色(7.5VR5/4) 内面：赤褐色(10VH5/4) 内面：赤褐色(7.5VR5/3) 内面：安息香色(10VH5/4)	外面：S字状結節部, LH R、R 内面：ヘラナダ	石英、長石、黑色斑	スス 内面：なし	表土	
10	弥生後期 甕	脚部 破片	-	外面：底黃褐色(7.5YR5/6), 橙色(7.5YR5/6) 内面：底黃褐色(7.5YR5/6), 橙色(7.5YR5/6)	外面：ヘラナダ、キヤミ 内面：ナデ	石英、角閃石、長石、黒色斑	なし	胎土	
11	弥生後期 甕	口縁部 破片	-	外面：褐色(7.5YR 6/6) 内面：褐色(7.5YR 6/6)	外面：複合口縁、ミガキ 内面：ヘラナダ	石英、角閃石、長石、黒色斑	なし	表土	
12	弥生後期 甕	口縁部 破片	-	外面：にぶい褐色(10VH5/3) 底面：にぶい褐色(7.5YR7/6), 赤彩 内面：にぶい褐色(7.5YR5/3), 褐色(7.5YR5/6), 赤彩	外面：ミカタ、附加条3種(横 筋)、附加側(側面) 内面：ナデ	シャモット、石英、角閃石、長石、黒色斑	なし	表土	
13	弥生後期 甕	脚部 破片	-	外面：にぶい褐色(7.5VH6/4) 小彩 内面：にぶい褐色(7.5VH6/4)	外面：ミガキ、S字状結節部, LR 内面：ナデ	シャモット、石英、角閃石、長石、黒色斑	なし	表土	

で潰されたものと考えられる。また、6は本遺構に散在した状態で出土した。

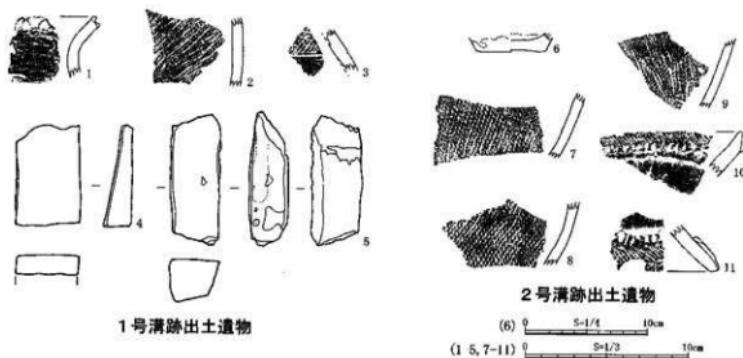
遺物：5・13・16・17・23の胎土には海綿骨針が含まれ、6・9・24・25・26の胎土にはシャモットが含まれている。

#### 遺構外出土弥生時代遺物

1は基本層序2層から出土した。2・3は包含層一括で取り上げたものである。4以降の遺物は表土から出土した。3・5・12・13の胎土にはシャモットが含まれている。



第47図 1号溝跡・2号溝跡（1）



第48図 1号溝跡・2号溝跡(2)

#### 第4節 中世以降

##### 1号溝跡

時期：中世以降 検出面：基本層序3層 断面形態：U字状

新旧関係：16号竪穴建物跡・17号竪穴建物跡・2号溝跡<1号溝跡という新旧関係は確実である。しかし、22P・23P・25Pとの新旧関係は確認できなかった。なぜなら、本遺構の埋土とピットの埋土は近似しており、遺構確認の段階では両者を区別できず、溝跡を掘る過程で重なり合ったピットを確認次第掘削したからである。

規模：幅1.82m 深さ0.70m

埋土堆積状況：いわゆるレンズ状堆積を呈していた。なお、本遺構は埋没しきっておらず、調査開始前から表土が本遺構の形に添って落ち込んでいたことが確認されていた。

遺物出土状況：本遺構の1層から中世～近世の砥石と考えられる4・5が出土し、本遺構の時期を中世以降と判断したのもこの2点を根拠としている。それ以外としては弥生土器の破片が埋土中から複数出土した。

遺物：4と5は中世～近世と考えられる砥石で、4は一部が欠けているが、各面とも使用痕がはっきりと確認できる。

備考：本遺構は2号溝跡を壊して掘られていたが、2号溝跡と並走するように掘削されていることから、本遺構と2号溝跡には強い関係性があったと考えられる。

##### 2号溝跡

時期：中世以降 検出面：基本層序3層 断面形態：U字状

新旧関係：16号竪穴建物跡・17号竪穴建物跡<2号溝跡<1号溝跡という新旧関係は確実

第 40 表 1号溝跡出土遺物観察表

土器									
遺物名	型式・器種等	遺存状態	寸法	色調	文様・成形・調整等	胎土	スス・コゲ 付着状況	出土層位	備考
1	弥生後期 壺	口縁一部剥 離片	-	外面：にぶい褐色 (7.5YR6/4) 内面：褐色 (7.5YR7/4)	外側：ナグ、交叉押縫 内面：ミガキ	陶質骨灰、 石灰、角閃 石灰、黑色 粘土	なし	焼土	
2	弥生後期 壺	網部 破片	-	外面：にぶい褐色 (7.5YR6/4) 灰黄褐色 (10YR6/2) 内面：にぶい褐色 (10YR6/4) 灰黄褐色 (10YR6/2)	外側：直沿多条 (1.0) 内面：ミガキ	石灰、角閃 石灰、黑色 粘土	外側：スス 内面：なし	焼土	
3	弥生後期 壺	肩部 破片	-	外面：褐色 (7.5YR6/4) 赤褐色 (7.5YR7/4) 内面：にぶい褐色 (7.5YR6/4) 内面：ナグ	外側：ミガキ、1R. 内面：ナグ	シヤモット、白 灰、角閃石、 黑色粘土	なし	焼土、 内面剥落	

石製品									
遺物名	型式・器種等	石種	寸法	施用所見	出土層位	備考			
4	砾石	燧瓦岩	最大長：6.2cm 最大幅：3.4cm 最大厚：2.6cm	端部が欠損し、他用面は上面である。	1層				
5	砾石	燧瓦岩	最大長：2.9cm 最大幅：2.6cm	両端部が欠損し、使用面は2面である。	1層				

第 41 表 2号溝跡出土遺物観察表

土器									
遺物名	型式・器種等	遺存状態	寸法	色調	文様・成形・調整等	胎土	スス・コゲ 付着状況	出土層位	備考
6	弥生後期 壺	口縁 遺存 30%	底径 (3.5)cm 遺存高：1.5cm	外面：にぶい褐色 (7.5YR6/4) 内面：褐反色 (7.5YR4/1)	外側：ナグ 内面：ミガキ	石灰、角閃 石灰、長石、 黑色粘土	外側：なし 内面：コゲ	焼土	
7	弥生後期 壺	網部 破片	-	外面：にぶい褐色 (10YR7/4), 灰灰褐色 (10YR6/3) 内面：にぶい褐色 (10YR6/4)	外側：直沿多条 (1.0) 内面：ナグ	陶質骨灰、 石灰、角閃 石灰、長石、 黑色粘土	外側：スス 内面：なし	焼土	
8	弥生後期 壺	網部 破片	-	外面：褐色 (5YR6/6) 内面：にぶい褐色 (10YR7/4)	外側：直沿多条 (1.0) 内面：ヘラナグ	陶質骨灰、 石灰、角閃 石灰、長石、 黑色粘土	なし	焼土、 内面一部剥落	
9	弥生後期 壺	網部 破片	-	外面：褐色 (7.5YR7/6), 褐反 内面：褐色 (7.5YR7/6)	外側：直沿多条 (1.0) 内面：ナグ	石灰、角閃 石灰、長石、 黑色粘土	なし	焼土	
10	弥生後期 壺	口縁部 破片	-	外面：褐色 (7.5YR6/6), 赤褐色 内面：褐色 (7.5YR6/6), 赤褐色	外側：溝に上るキザミ、1R. 内面：ミガキ	シヤモット、白 灰、角閃石、 長石、黑色 粘土	外側：なし	焼土	
11	弥生後期 壺	網部 破片	-	外面：褐色 (7.5YR6/6) 内面：褐色 (7.5YR6/6), 角閃 色 (7.5YR5/2)	外側：板合網部、RL. 内面：ナグ	シヤモット、石 灰、角閃石、 長石、黑色 粘土	なし	堆上	

である。一方、22P・25P・27P・28P・29Pとの切り合い関係は1号溝跡と同様の理由によって不明である。

規模：幅 1.77m, 深さ 0.64m

埋土堆積状況：やや歪だが、いわゆるレンズ状堆積と考えられる。1層中からは焼土が検出された。

遺物出土状況：埋土中から弥生土器の破片が数点出土したが、本遺構の時期を決定するようなものではなかった。

遺物：10の胎土にはシャモットが含まれている。

備考：本遺構は1号溝跡に接されていたことから、本遺構が掘削されたのは1号溝跡よりも古く、かつ1号溝跡で砾石が出土した点も踏まると、本遺構の掘削時期は中世の中でお

さる可能性があるかもしれない。

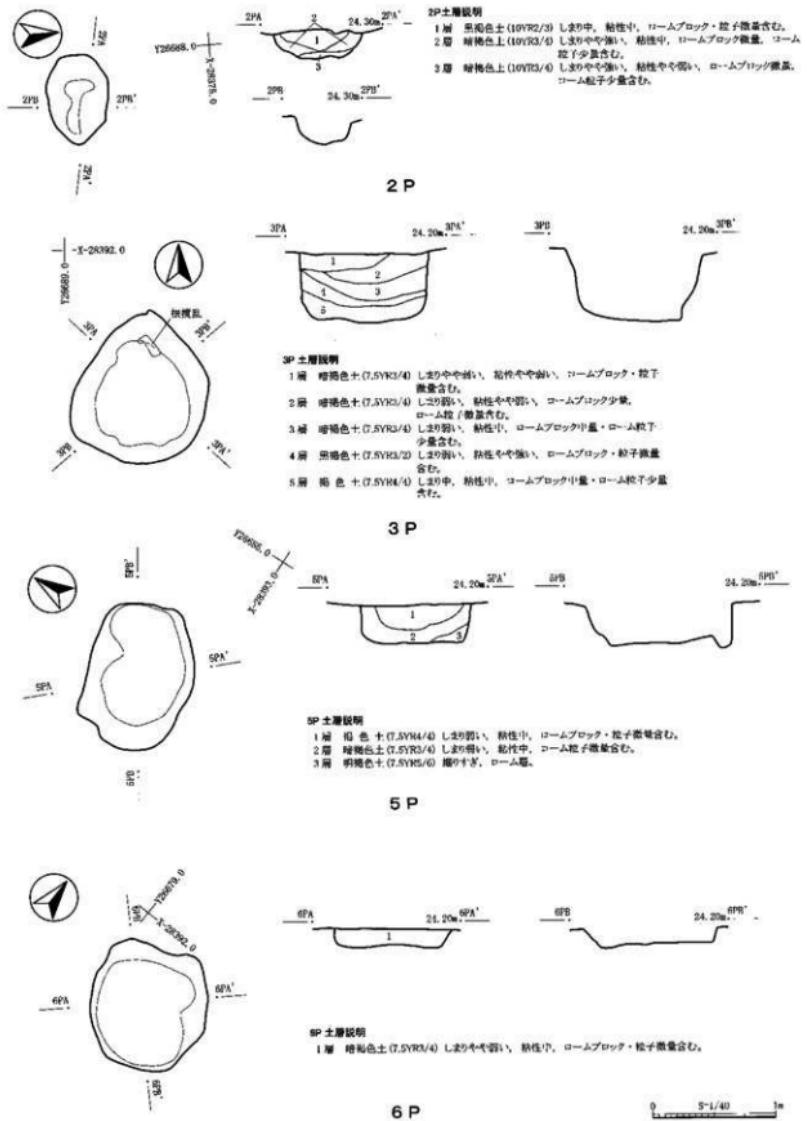
## 第5節 繩文時代～中近世

### 土坑

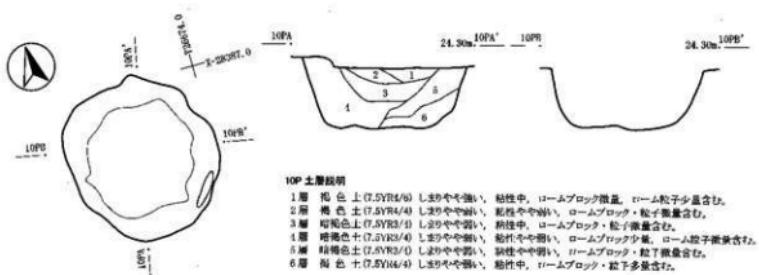
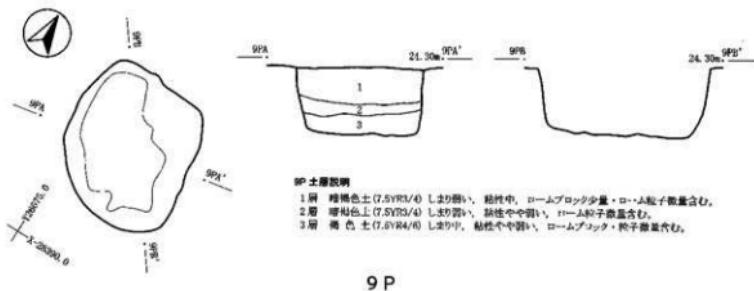
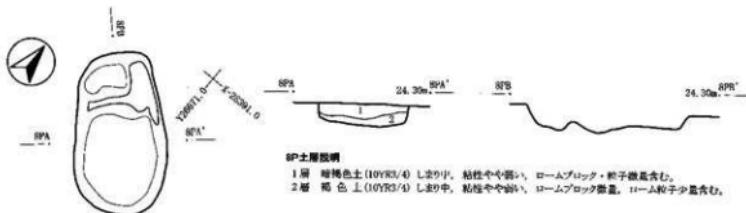
今回の調査で検出された土坑については第42表でまとめたとおりである。検出された土坑はいずれも時期決定のための要素に乏しいが、弥生時代後期の竪穴建物跡との切り合い関係から少なくとも弥生時代よりも新しいと判断できるものが14P・17P・22P・28Pである。一方、1号溝跡・2号溝跡と切り合い関係があるピットも複数あったが、いずれも新旧関係について確認することはできなかった。なお、ピットから出土した遺物はいずれも縄文土器や弥生土器の破片であり、時期決定に有効なものは出土しなかった。また、4Pのみは10号竪穴建物跡に壟されていたことから、弥生時代あるいはそれ以前の土坑であったと考えられる。

第42表 ピット一覧表

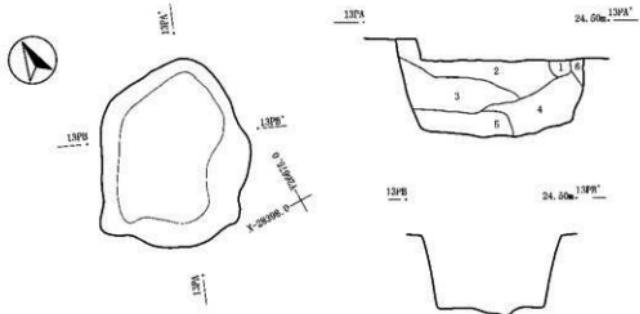
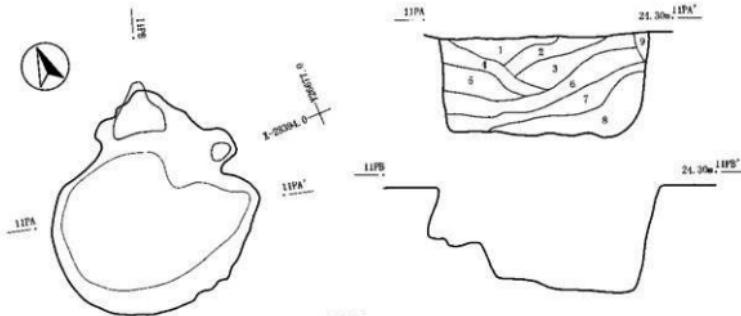
ピット名	現地	新旧関係
2P	長軸長 0.73m、短軸長 0.46m、深さ 0.24m	
3P	長軸長 1.15m、短軸長 1.06m、深さ 0.56m	
4P 小町		4P×10号竪穴建物跡
5P	小町長 1.20m、短軸長 0.92m、深さ 0.31m	
6P	長軸長 1.09m、短軸長 0.98m、深さ 0.13m	
8P	長軸長 1.33m、短軸長 0.74m、深さ 0.17m	
9P	長軸長 1.41m、短軸長 1.04m、深さ 0.58m	
10P	長軸長 1.36m、短軸長 1.25m、深さ 0.17m	
11P	長軸長 1.84m、短軸長 1.70m、深さ 0.81m	
13P	長軸長 1.53m、短軸長 1.15m、深さ 0.79m	
14P	長軸長 0.98m、短軸長 0.85m、深さ 0.23m	7号竪穴建物跡<14P
16P	長軸長 0.69m、短軸長 0.67m、深さ 0.39m	
17P	長軸長 1.52m、短軸長 1.37m、深さ 1.12m	12号竪穴建物跡<17P
19P	長軸長 1.26m、短軸長 1.05m、深さ 0.45m	おそらく11号竪穴建物跡と切り合い関係があったと考えられるが、確認調査時のトレチで11号竪穴建物跡の一部が壊されてしまったために不明である。
20P	長軸長 1.27m、短軸長 0.90m、深さ 0.35m	
22P	長軸長 1.84m、短軸長 1.02m、深さ 1.17m	16号竪穴建物跡<22Pで、1分・2分溝跡との新旧は不明である。
23P	長軸長 1.60m、短軸長 1.49m、深さ 1.04m	1号溝跡と切り合い関係にあったが、新旧については確認できなかった。
25P	長軸長 1.86m、短軸長 1.06m、深さ 1.18m	2号・2号溝跡と切り合い関係にあったが、新旧については確認できなかった。
26P	長軸長 1.43m、短軸長 1.24m、深さ 0.72m	
27P	長軸長 1.89m、短軸長 1.51m、深さ 1.36m	2号溝跡と切り合い関係にあったが、新旧については確認できなかった。
28P	長軸長 1.34m、短軸長 1.28m、深さ 0.60m	16号竪穴建物跡<28Pだが、2号溝跡との新旧関係は確認できなかった。
29P	長軸長 1.36m、短軸長 1.18m、深さ 0.43m	2号溝跡と切り合い関係にあったが、新旧については確認できなかった。
30P	長軸長 1.50m、短軸長 1.28m、深さ 1.10m	
31P	長軸長 1.47m、短軸長 0.92m、深さ 0.54m	
32P	長軸長 1.88m、短軸長 0.82m、深さ 0.79m	



第49図 2P・3P・5P・6P

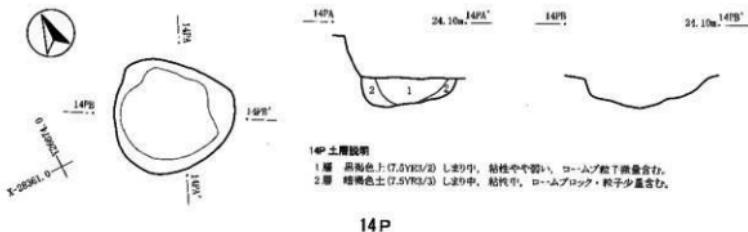


第50図 8P・9P・10P

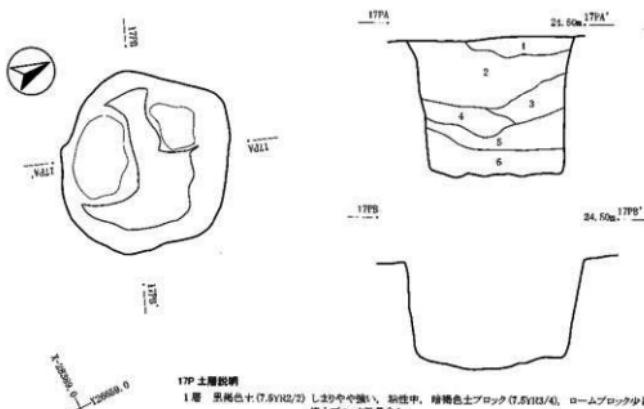
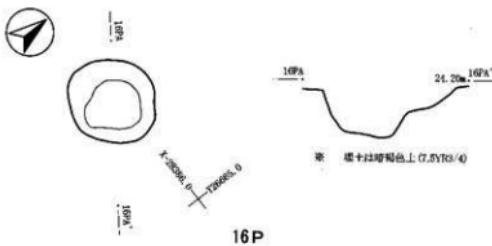


0 S=1/10 1m

第 51 図 11P・13P



14P



17P

0 S=1/40 1m

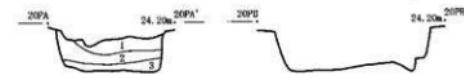
第 52 図 14P・16P・17P



19P 土層説明

- 1層 塗褐色土 (7.SVR3/4) L20cm 中、粘性やや弱い、ロームブロック中量、ローム粒子少量含む。
- 2層 塗褐色土 (7.SVR3/4) しりべやや弱い、粘性中、ロームブロック少量、ローム粒子微量含む。
- 3層 塗褐色土 (7.SVR3/3) L20cm 中、粘性中、黒褐色土ブロック (7.SVR3/2) 少量、ロームブロック少量、ローム粒子微量含む。

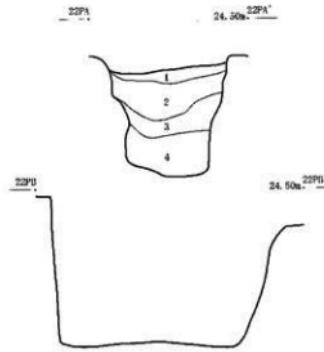
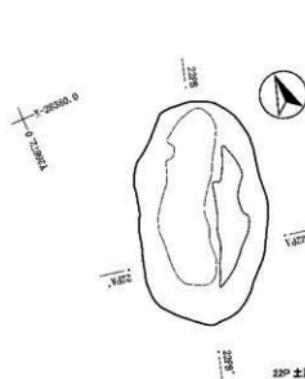
19P



20P 土層説明

- 1層 棕色 L (7.SVR1/0) L30cm弱い、粘性中、ロームブロック・粒子微量含む。
- 2層 増褐色土 (7.SVR1/0) L25cmやや弱い、粘性中、コームブロック・粒子微量含む。
- 3層 棕色土 (7.SVR1/0) L20cm 中、粘性やや弱い、コームブロック多量、コーム粒子微量含む。

20P



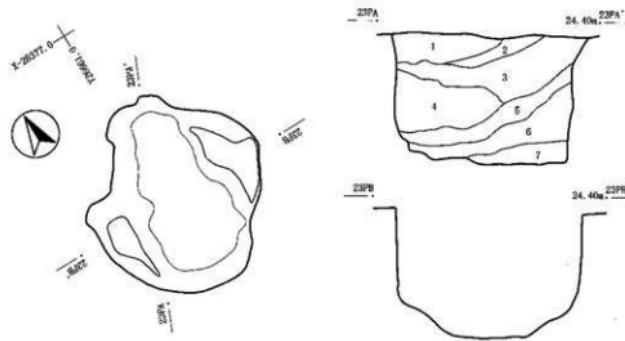
22P 土層説明

- 1層 棕色土 (7.SVR4/4) しまか中、粘性弱い、ローム粒子微量含む。
- 2層 棕色土 (7.SVR4/4) しまか中、粘性やや弱い、ロームブロック少量、ローム粒子微量含む。
- 3層 黒褐色土 (7.SVR4/3) しまやや弱い、粘性中、ロームブロック・粒子微量含む。
- 4層 棕色土 (7.SVR4/4) しまやや弱い、粘性中、ローム粒子微量含む。

22P

0 S=1/40 1m

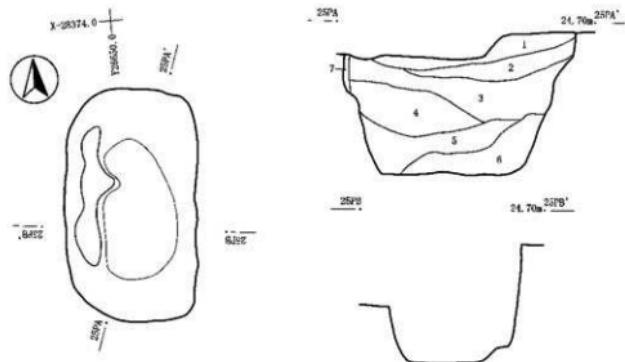
第 53 図 19P・20P・22P



23P 土層図

- 1 層 増粘土上 (7.5VR2/0) しりりやや弱い、粘性中、ロームブロック少量、ローム粒子微量含む。
- 2 層 増粘土下 (7.5VR2/4) しりりやや弱い、粘性中、ロームブロック・粒子微量含む。
- 3 層 黄色土 (7.5VR4/0) しりり弱い、粘性中、ロームブロック・粒子微量含む。
- 4 层 黄色土 (7.5VR4/4) しりり弱い、粘性中、ロームブロックの量、ローム粒子少量含む。
- 5 层 赤褐色土 (7.5VR5/0) しりり弱い、粘性やや弱い、ロームブロック・粒子微量含む。
- 6 层 赤色土 (7.5VR5/4) しりり弱い、粘性やや弱い、ロームブロック・粒子少量含む。
- 7 层 橙色土 (7.5VR6/0) しりり弱い、粘性やや弱い、ロームブロック多量、ローム粒子微量含む。

23P



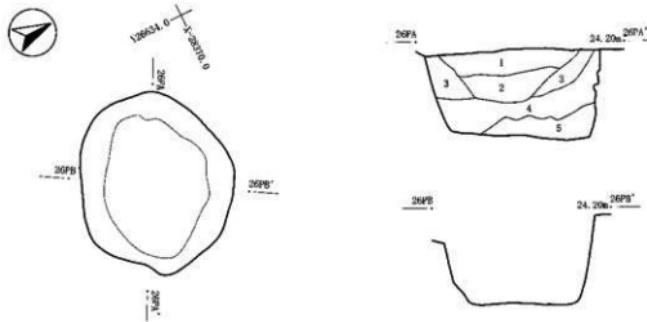
23P 土層図

- 1 層 増粘色土 (7.5VR1/4) しりり中、粘性中、ロームブロック・粒子少量含む。
- 2 層 増粘色土 (7.5VR2/0) しりりやや弱い、粘性やや強い、ロームブロック。
- 3 层 增粘色土 (7.5VR2/4) しりりやや弱い、粘性中、ロームブロック・粒子微量含む。
- 4 层 增粘色土 (7.5VR2/0) しりりやや弱い、粘性中、ロームブロック少量、ローム粒子微量含む。
- 5 层 増粘色土 (7.5VR2/4) しりり弱い、粘性中、ロームブロック・粒子微量含む。
- 6 层 增粘色土 (7.5VR2/0) しりり弱い、粘性やや強い、ロームブロック多量、ローム粒子微量含む。

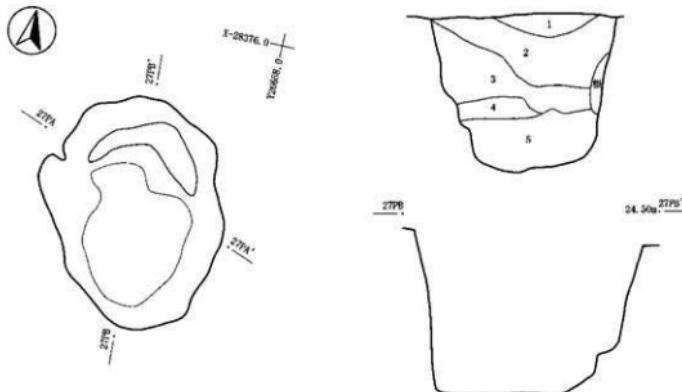
25P

0 5-1/40 1m

第 54 図 23P・25P



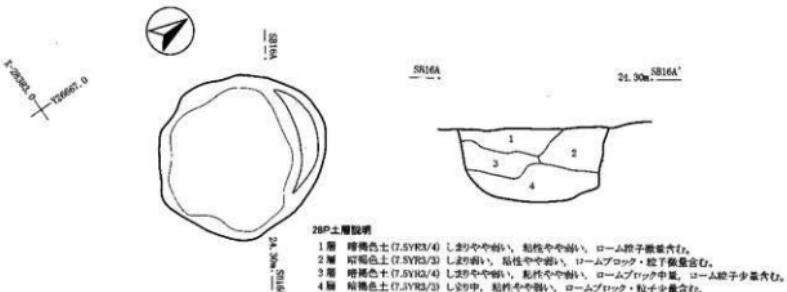
26P



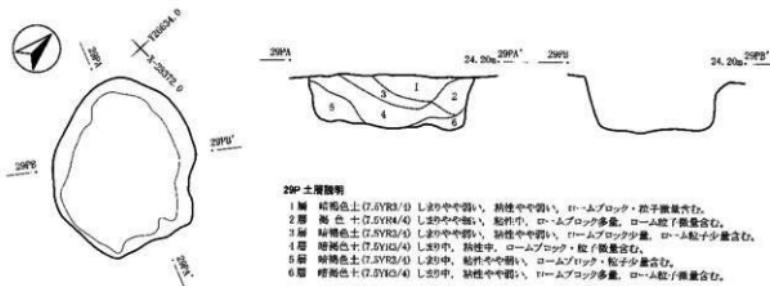
27P

0 50m 100m

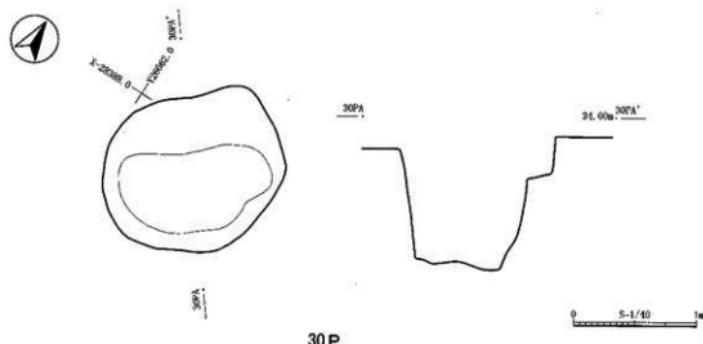
第 55 図 26P・27P



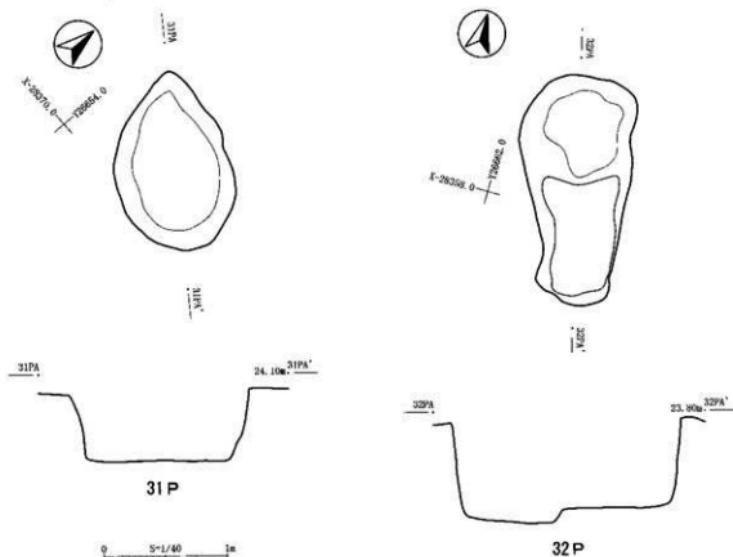
28P



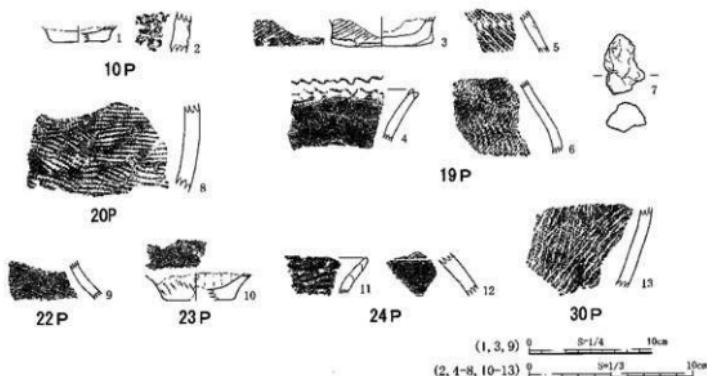
29P



第 56 図 28P・29P・30P



第57図 31P・32P



第58図 ピット出土遺物

第43表 ピット出土遺物観察表

番号	採取日	採取場所	土質	寸法		色調	文様・模様・特殊性	鉱土	スス・コガ	備考
				底幅	底高					
1	10P	弥生後期 第	底幅 底高 2.5cm	底 径 : (1.6cm)	底 高 : 1.3cm	外面: 明黄色 (7.SYR5/6) 内面: 暗褐色 (7.SYR5/7)	外面: ナヅ 内面: ナヅ	石英、角閃石、 長石、黒岩、 黑色鉄	なし 内面: コガ	
2	10P	縄文中期～後期 深鉢	脚部 破片	-	-	外面: 暗褐色 (7.SYR7/6) 内面: 暗褐色 (7.SYR5/6)	外面: ナヂミ、沈殿 内面: ナヅ	石英、角閃石、 長石、 黑色鉄	なし	
3	19P	弥生後期 鏡	底 底高 2.4cm	底 径 : (8.1)cm	底 高 : 2.4cm	外盤: 錫色 (SYR6/6), 青銅 色 (10R8/6) 内盤: 黄褐色 (7.SYR8/6)	外面: LN-N + R 内面: ナヅ	石英、角閃 石、長石、 黑色鉄	外面: スス 内面: コガ	
4	19P	弥生後期 鏡	口縁部 破片	-	-	外面: 暗褐色 (7.SYR5/6), 黑 色 (SYR4/1) 内面: 暗赤褐色 (SYR5/6), 暗 褐色 (SYR4/1)	外面: ナヅ、ヘラナヅ、微 に上の交叉斜構 内面: ナヅ、ヘラナヅ	石英、角閃 石、長石、 黑色鉄	なし	小皿が交差構造の ところにある
5	19P	弥生後期 鏡	脚部 破片	-	-	外面: 暗褐色 (7.SYR6/4) 内面: 暗褐色 (7.SYR6/4)	外面: RL-L + L 内面: ナヅ	石英、角閃 石、長石、 黑色鉄	なし	人形の石英多量大 き
6	19P	弥生後期 鏡	脚部 破片	-	-	外面: 暗褐色 (7.SYR6/4) 内面: 暗褐色 (7.SYR6/4)	外面: RL 内面: ナヅ	石英、角閃 石、長石、 黑色鉄	外面: スス 内面: なし	
7	19P	輪廻不規 格成點上地	-	-	-	暗褐色 (SYR7/6)	-	長石、黑色 鉄	なし	
8	20P	縄文中期後半 ～後期初期 深鉢	脚部 破片	-	-	外面: 暗褐色 (7.SYR6/6) 内面: 暗褐色 (10R7/4)	外面: RL 内面: ナヅ	石英、長石、 黑色鉄	なし	
9	22P	弥生後期 鏡	脚部 破片	-	-	外面: 暗褐色 (7.SYR6/6), 黑色 内面: 暗褐色 (7.SYR6/6), 黑色	外面: ヘラナヅ 内面: ナヅ	海綿骨構 石英、角閃石、 長石、 黑色鉄	なし	
10	23P	弥生後期 鏡	正部 底高1.1cm	底 径 : (5.2cm)	底 高 : 1.1cm	外面: 暗褐色 (7.SYR5/6) 内面: 暗褐色 (7.SYR5/6)	外面: ナヅ 内面: ナヅ	石英、長石、 黑色鉄	なし 内面: コガ	
11	24P	弥生後期 鏡	口縁部 破片	-	-	外面: 暗褐色 (7.SYR7/6), 暗 褐色 (7.SYR5/2), 黑色 内面: 暗褐色 (7.SYR7/6), 暗 褐色 (7.SYR5/2), 黑色	外面: ナヅ 内面: ナヅ	石英、長石、 黑色鉄	なし	
12	24P	弥生後期 鏡	脚部 破片	-	-	外面: 暗褐色 (7.SYR6/6), 深 褐色 内面: 暗褐色 (7.SYR5/6)	外面: 貼酒溝3個、土が余 内面: ナヅ	シラモツ、ナ 英、角閃石、 長石、黑色鉄	なし	
13	30P	弥生後期 鏡	脚部 破片	-	-	外面: 暗褐色 (7.SYR1/1) 内面: 暗褐色 (7.SYR7/6)	外面: LR-R + R 内面: ヘラナヅ	石英、長石、 黑色鉄	外面: スス 内面: なし	



反転前調査区全景（北西から）



反転後調査区全景（北西から）



1号竪穴建物跡 A-A'（南から）



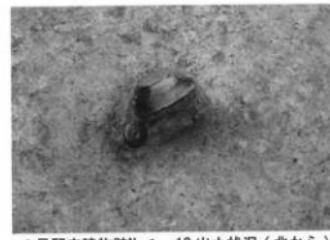
1号竪穴建物跡No.3・12出土状況（東から）



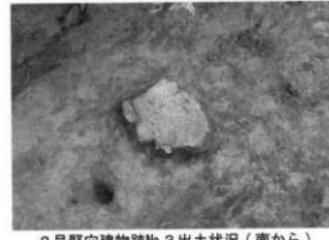
1号竪穴建物跡炉跡完掘（東から）



1号竪穴建物跡完掘（南東から）

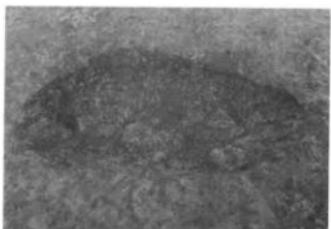


2号竪穴建物跡No.1・12出土状況（北から）



2号竪穴建物跡No.3出土状況（南から）

写真図版 2



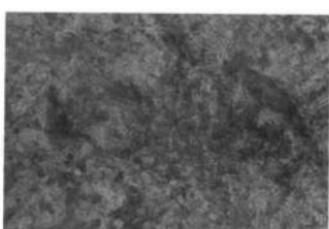
2号竪穴建物跡炉跡完掘（北西から）



2号竪穴建物跡完掘（南東から）



3号竪穴建物跡No. 1 出土状況（南から）



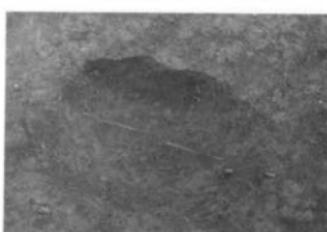
3号竪穴建物跡炉跡完掘（南西から）



3号竪穴建物跡完掘（南東から）



4号竪穴建物跡遺物出土状況（南東から）



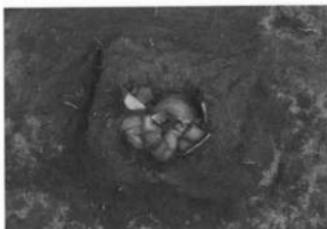
4号竪穴建物跡炉跡完掘（南西から）



4号竪穴建物跡完掘（南東から）



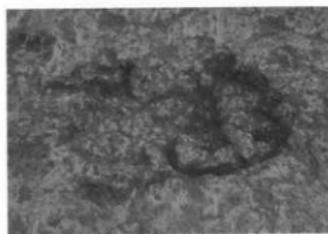
5号竪穴建物跡遺物出土状況（南西から）



5号竪穴建物跡No.1出土状況（西から）



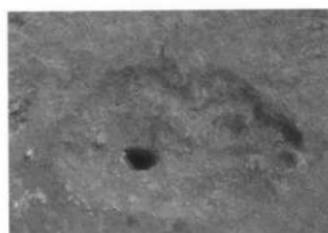
5号竪穴建物跡No.3出土状況（東から）



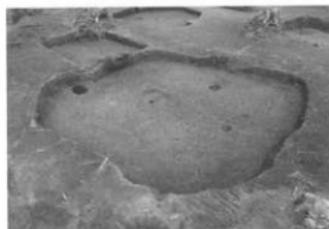
5号竪穴建物跡炉跡完掘（南西から）



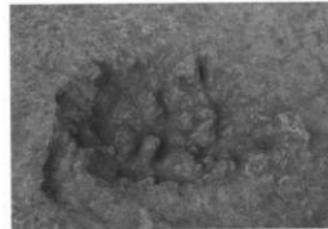
5号竪穴建物跡完掘（南東から）



6号竪穴建物跡炉跡完掘（西から）



6号竪穴建物跡完掘（南から）



7号竪穴建物跡炉跡完掘（南西から）

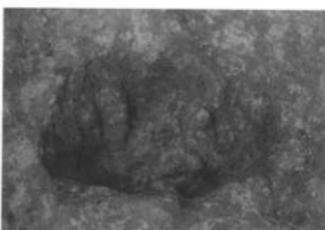
写真図版 4



7号竪穴建物跡完掘（南東から）



8号竪穴建物跡遺物出土状況（北西から）



8号竪穴建物跡炉跡完掘（南西から）



8号竪穴建物跡完掘（南東から）



9号竪穴建物跡炉跡完掘（南西から）



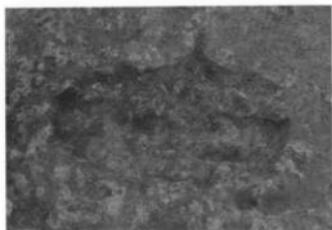
9号竪穴建物跡完掘（南東から）



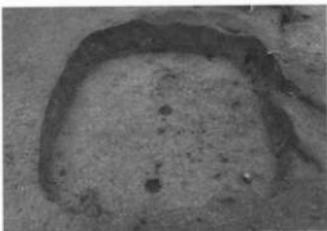
10号竪穴建物跡No.5・6出土状況（東から）



10号竪穴建物跡No.7・10出土状況（南東から）



10号竪穴建物跡炉跡完掘（南西から）



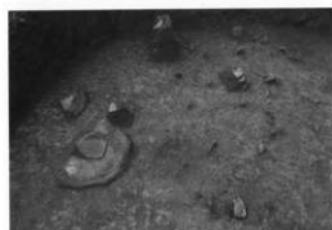
10号竪穴建物跡完掘（南東から）



11号竪穴建物跡遺物出土状況（南東から）



11号竪穴建物跡完掘（南東から）



12号竪穴建物跡遺物出土状況（西から）



12号竪穴建物跡 A-A' セクション（南から）

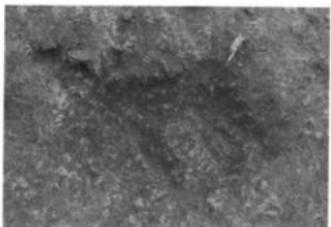


12号竪穴建物跡 B-B' セクション 1（東から）



12号竪穴建物跡 B-B' セクション 2（東から）

写真図版 6



12号竪穴建物跡炉跡完掘（南西から）



12号竪穴建物跡完掘（南東から）



13号竪穴建物跡 B-B' セクション（南東から）



13号竪穴建物跡炉跡完掘（南西から）



13号竪穴建物跡完掘（南東から）



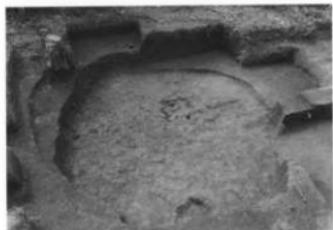
14号竪穴建物跡 B-B' セクション1（北東から）



14号竪穴建物跡 B-B' セクション2（北東から）



14号竪穴建物跡炉跡完掘（南西から）



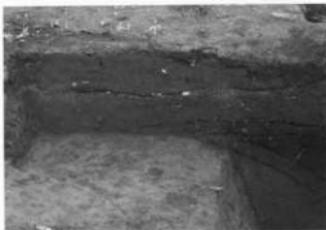
14号竪穴建物跡完掘（南東から）



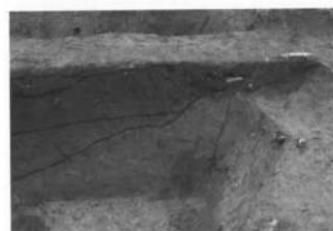
15号竪穴建物跡 A-A' セクション1（北東から）



15号竪穴建物跡 A-A' セクション2（北東から）



15号竪穴建物跡 B-B' セクション1（南東から）



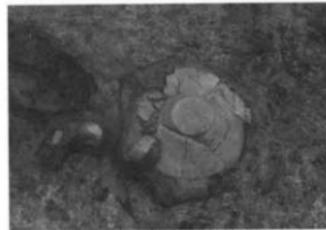
15号竪穴建物跡 B-B' セクション2（南西から）



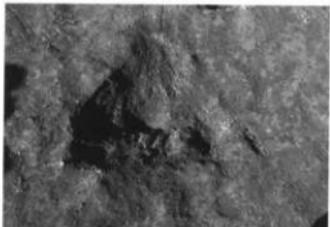
15号竪穴建物跡遺物出土状況（南東から）



15号竪穴建物跡No.3出土状況（北から）



15号竪穴建物跡No.4出土状況（北東から）



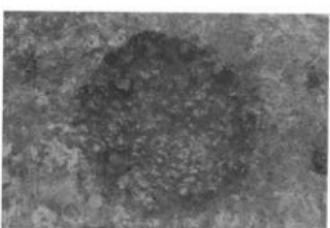
15号竪穴建物跡炉跡完掘（南西から）



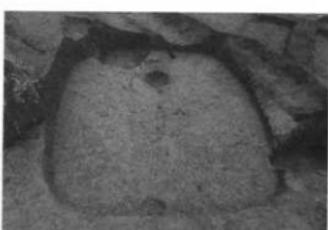
15号竪穴建物跡炉跡完掘（南東から）



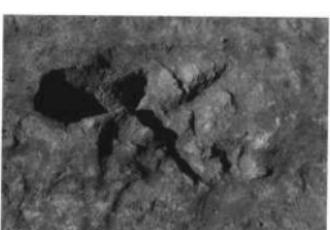
16号竪穴建物跡遺物出土状況（北東から）



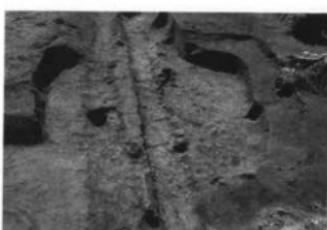
16号竪穴建物跡炉跡完掘（南東から）



16号竪穴建物跡完掘（南東から）



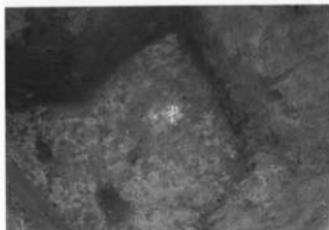
17号竪穴建物跡炉跡完掘（南西から）



17号竪穴建物跡完掘（南東から）



18号竪穴建物跡遺物出土状況（南東から）



18号竪穴建物跡出土粘土 1（北西から）



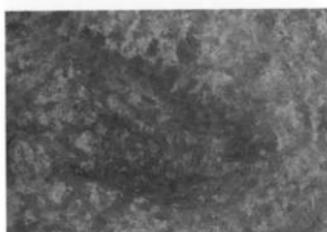
18号竪穴建物跡出土粘土 2（北西から）



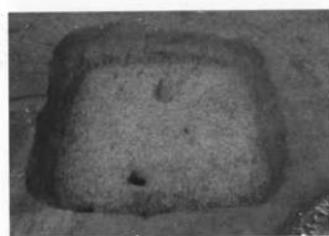
18号竪穴建物跡 A-A' セクション（南から）



18号竪穴建物跡 B-B' セクション（東から）



18号竪穴建物跡炉跡完掘（南西から）



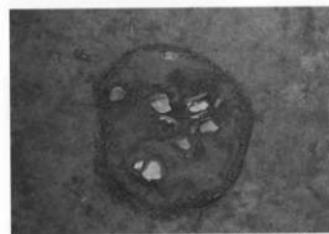
18号竪穴建物跡完掘（南東から）



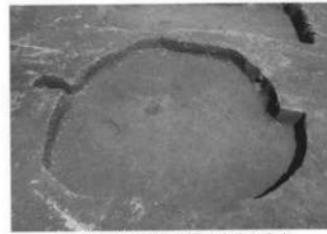
19号竪穴建物跡 A-A' セクション（南西から）



19号竪穴建物跡 B-B' セクション（南東から）



19号竪穴建物跡炉跡検出（南西から）



19号竪穴建物跡完掘（南東から）

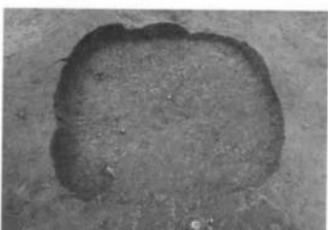
写真図版 10



20号竪穴建物跡遺物出土状況（北から）



20号竪穴建物跡No.2出土状況（南西から）



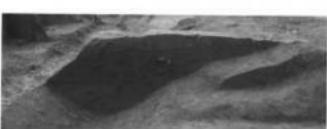
20号竪穴建物跡完掘（南東から）



1号溝跡・2号溝跡完掘（西から）



1号溝跡セクション（西から）



2号溝跡セクション（西から）



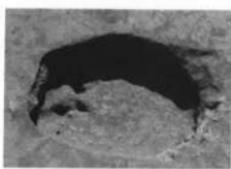
2P完掘（南西から）



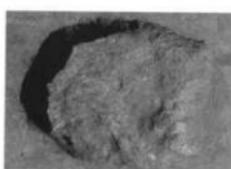
3P完掘（南から）



4P完掘（南東から）



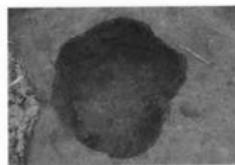
5P完掘（北から）



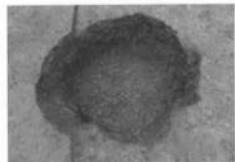
6P完掘（南東から）



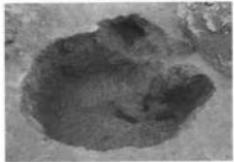
8P完掘（南西から）



9P 完掘（南東から）



10P 完掘（東から）



11P 完掘（南西から）



13P 完掘（東から）



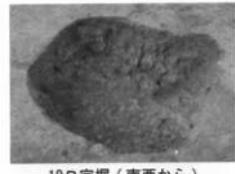
14P 完掘（北西から）



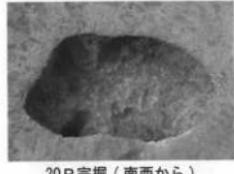
16P 完掘（南東から）



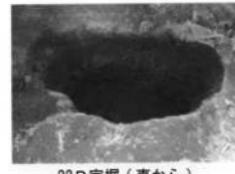
17P 完掘（南西から）



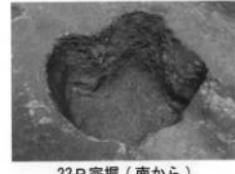
19P 完掘（南西から）



20P 完掘（南西から）



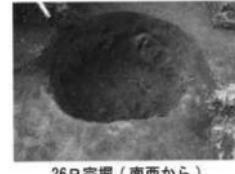
22P 完掘（東から）



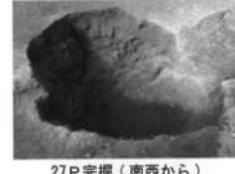
23P 完掘（南から）



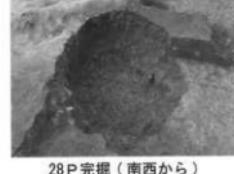
25P 完掘（南から）



26P 完掘（南西から）

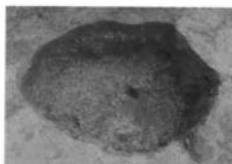


27P 完掘（南西から）



28P 完掘（南西から）

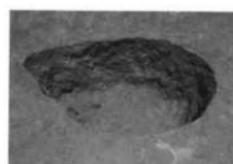
写真図版 12



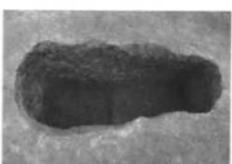
29P 完掘（南西から）



30P 完掘（南西から）



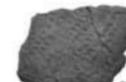
31P 完掘（南西から）



32P 完掘（西から）



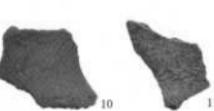
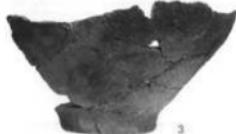
基本層序 4 層出土ナイフ形石器



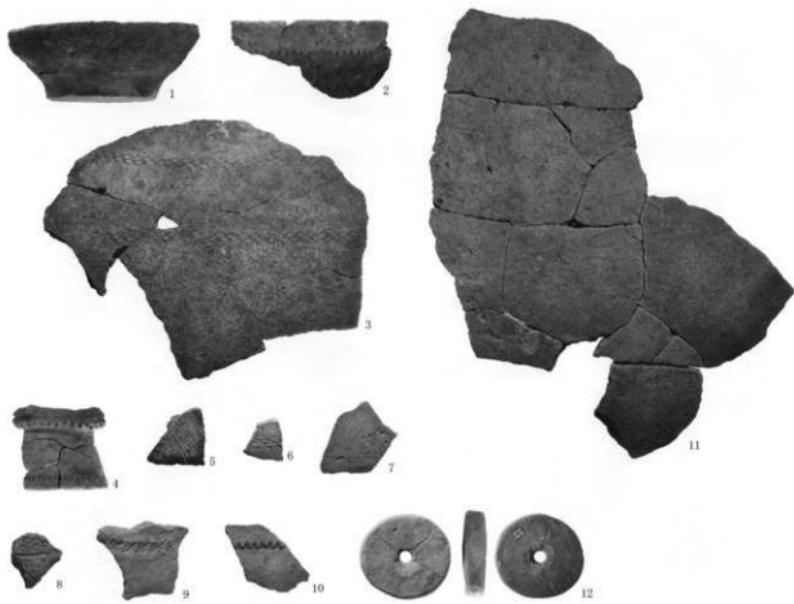
遺構外出土の縄文土器



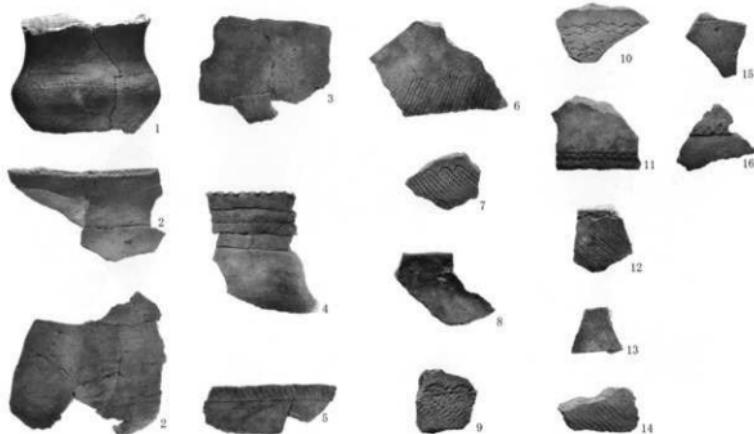
2



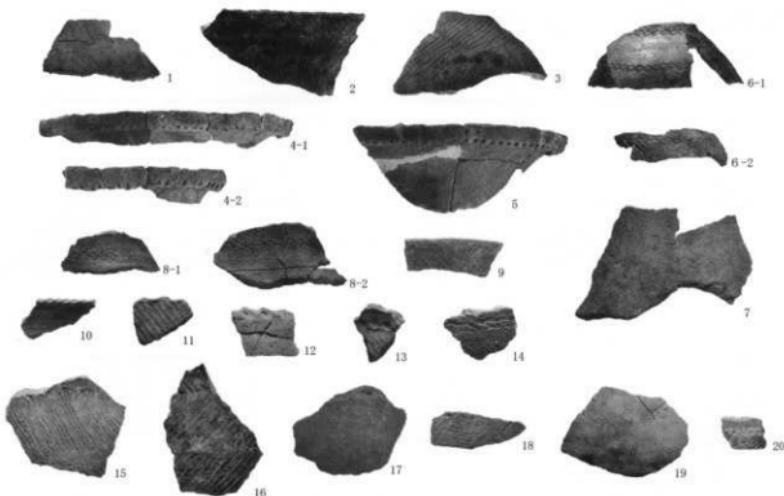
1号竪穴建跡出土遺物



2号竖穴建物跡出土遺物



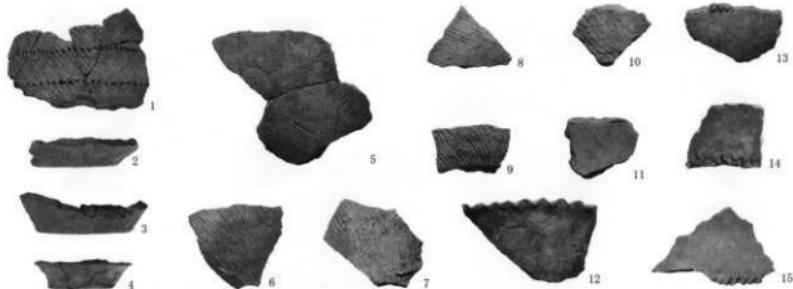
3号竖穴建物跡出土遺物



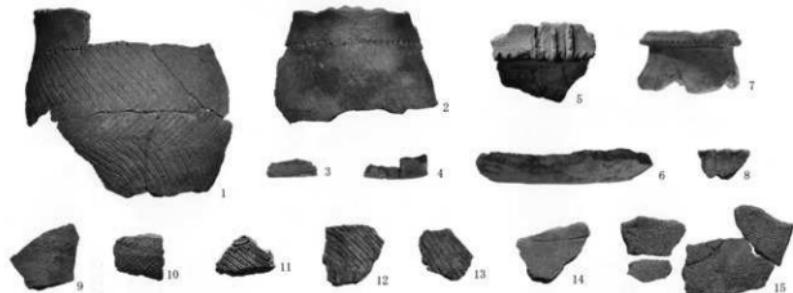
4号竪穴建物跡出土遺物



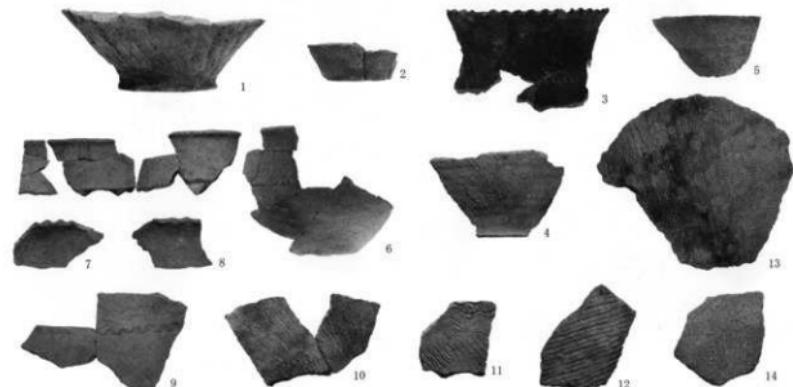
5号竪穴建物跡出土遺物



6号竪穴建物跡出土遺物

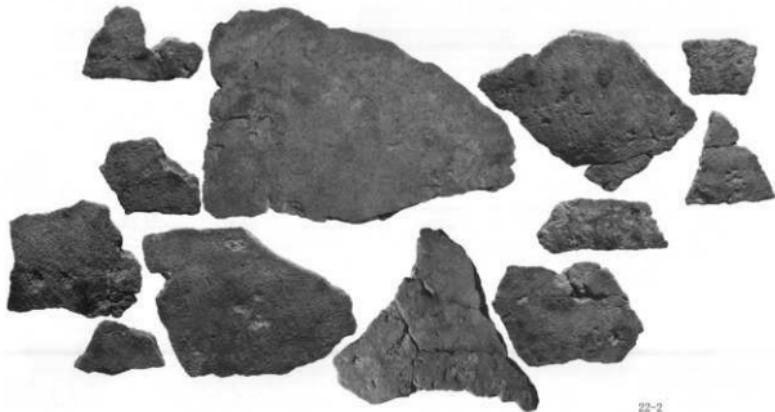
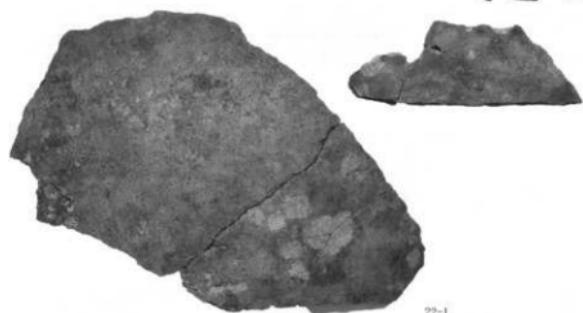


7号竪穴建物跡出土遺物

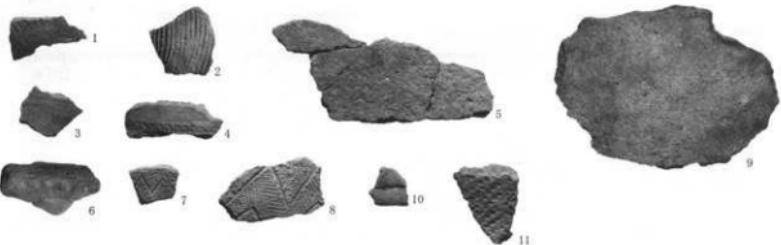


8号竪穴建物跡出土遺物（1）

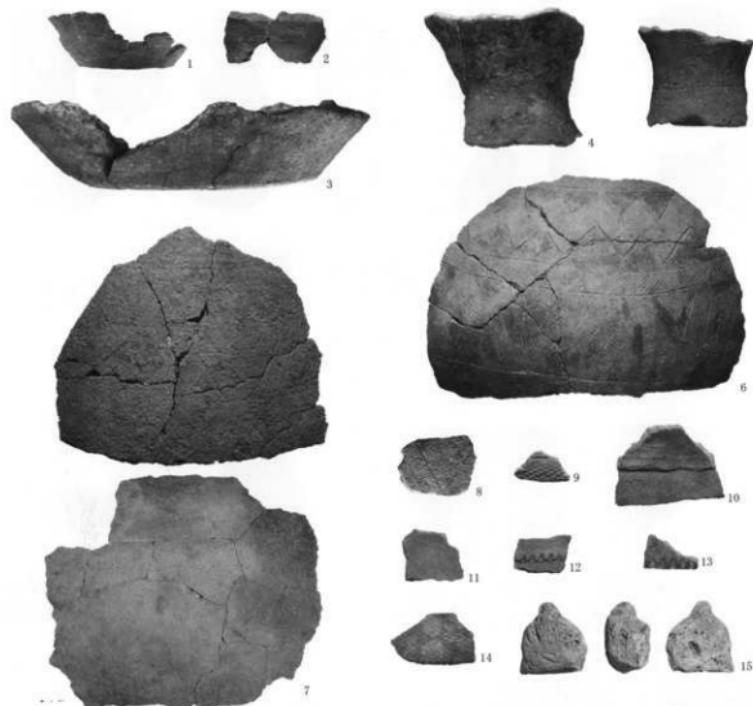
写真図版 16



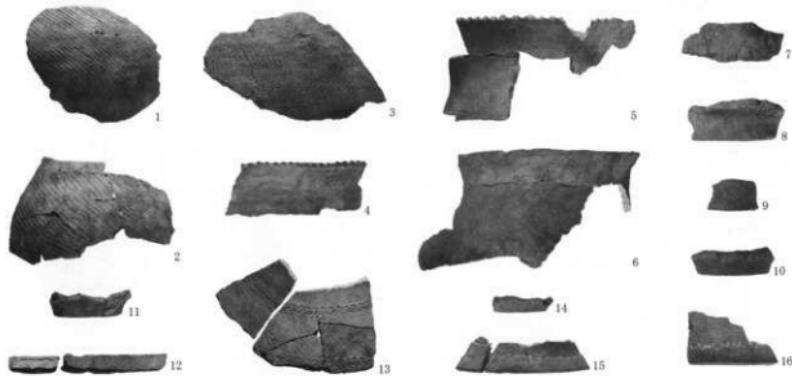
8号竪穴建物跡出土遺物



9号竪穴建物跡出土遺物

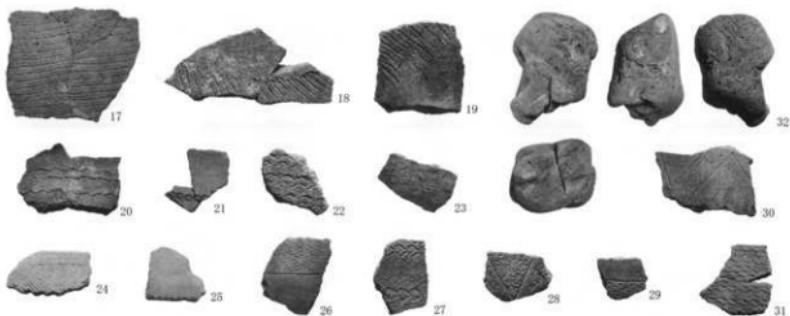


10号竪穴建物跡出土遺物

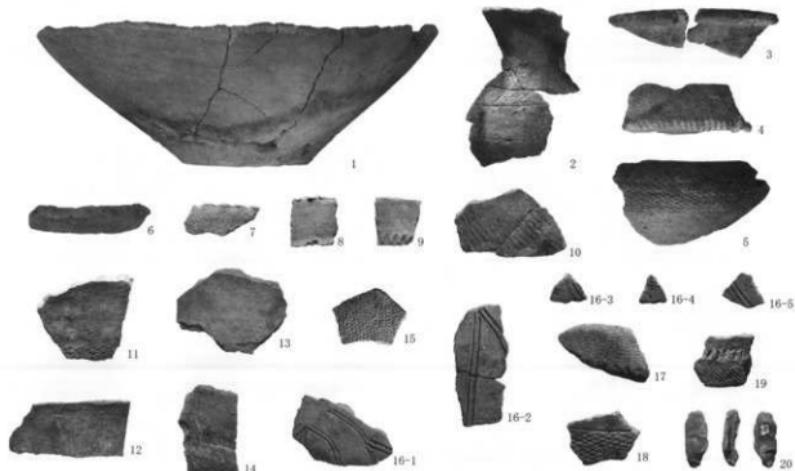


11号竪穴建物跡出土遺物（1）

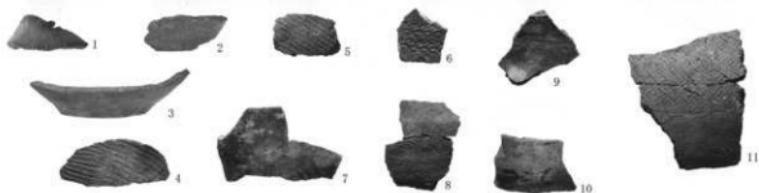
写真図版 18



11号竪穴建物跡出土遺物（2）



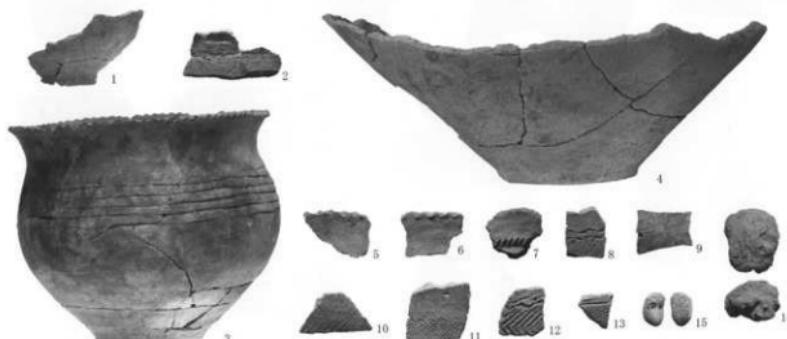
12号竪穴建物跡出土遺物



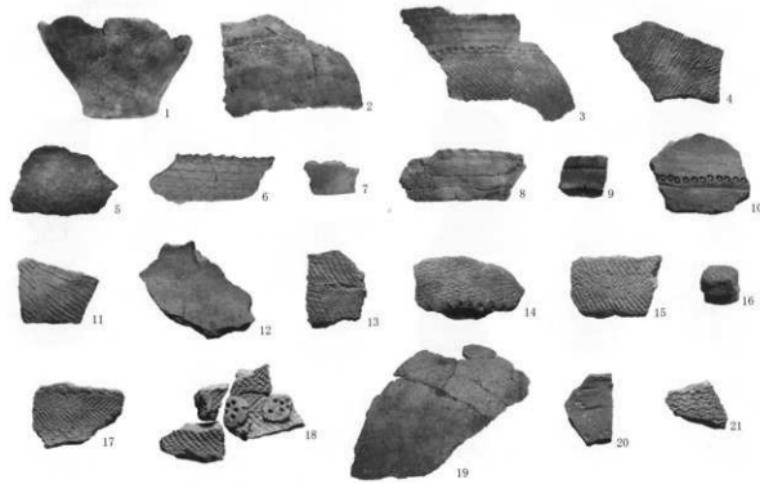
13号竪穴建物跡出土遺物



14号竪穴建物跡出土遺物



15号竪穴建物跡出土遺物



16号竪穴建物跡出土遺物



17号竪穴建物跡出土遺物

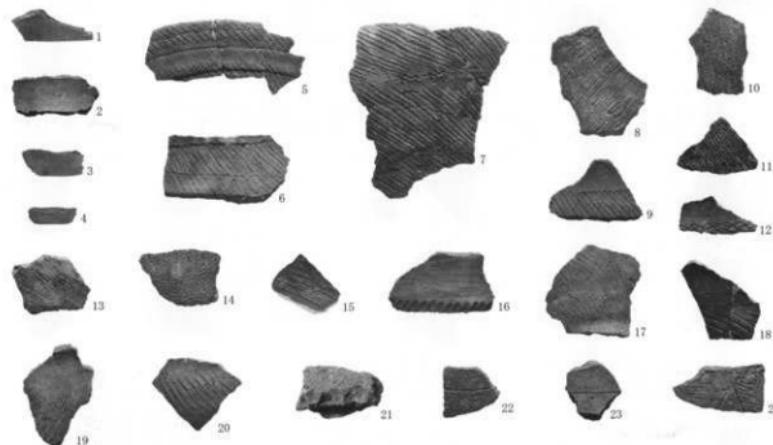
写真図版 20



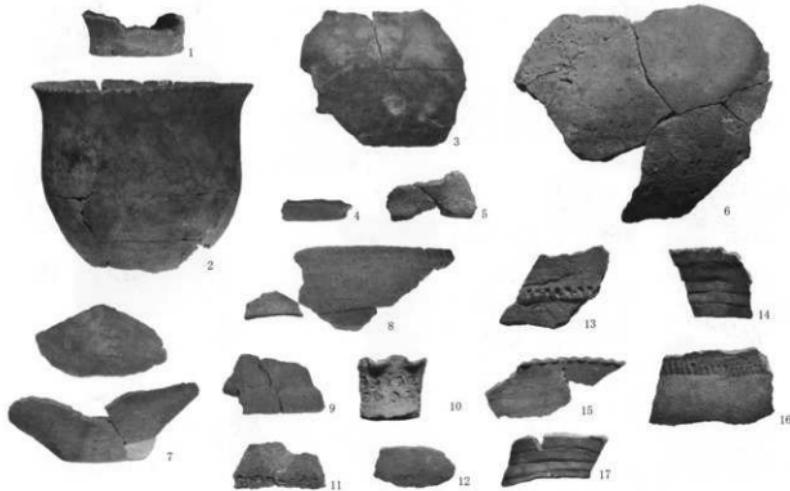
18号竖穴建物跡出土遺物（1）



18号竪穴建物跡出土遺物（2）

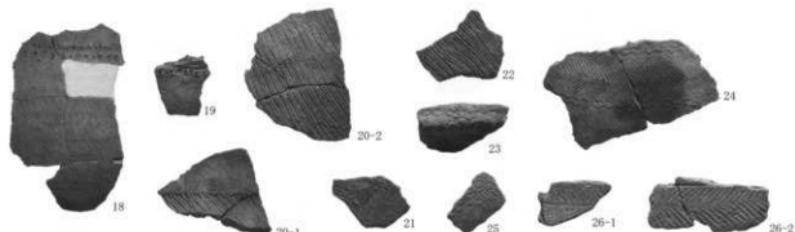


19号竪穴建物跡出土遺物

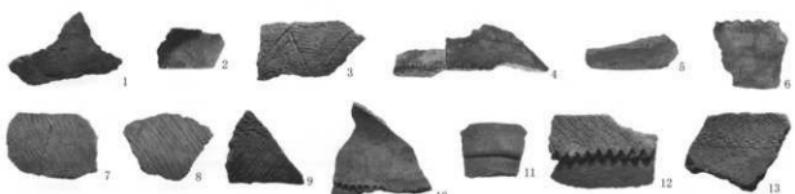


20号竪穴建物跡出土遺物（1）

写真図版 22



20号竪穴建物跡出土遺物（2）



遺構外出土の弥生土器



1号溝跡出土遺物

2号溝跡出土遺物

10P出土遺物  
1 2



20P出土遺物

22P出土遺物

19P出土遺物

23P出土遺物

24P出土遺物

30P出土遺物

## 報告書抄録

ふりがな	ちばけんやちよし ひらさわいせきいーちでん					
書名	千葉県八千代市 平沢遺跡e地点					
副書名	福祉施設建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書					
編著者名	轟 直行・林 和也					
編集機関	八千代市教育委員会					
所在地	〒 276-0045 千葉県八千代市大和田 138 番地2 TEL 047(483)1151 代表					
発行年月日	西暦 2017 年 3 月 31 日					
所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 遺跡番号	東経	調査期間	調査面積 (m <sup>2</sup> )
ひらさわいせきいーちでん 平沢遺跡 e 地点	かみこうや 上高野 151-4, 152-1	12221	217	35 度 44 分 37 秒	140 度 7 分 41 秒	2016. 1. 6 ~ 2016. 6. 15
						2,635 (上層)
						福祉施設 建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
平沢遺跡 e 地点	集落跡	旧石器時代 縄文時代 弥生時代 中近世	堅穴建物跡 20 軒 溝跡 2 条 土坑 25 基	ナイフ形石器、縄文土器、弥生土器、弥生時代石製品、中近世砥石	
要約	<p>今回の調査では弥生時代後期に位置づけられる集落跡が検出された。</p> <p>弥生時代の遺構としては多様な平面形態や深さの堅穴建物跡が検出され、中にはロームまで掘りこまれなかったものも認められた。また、堅穴壁の外側に浅い掘り込みがなされた堅穴建物跡が複数確認された。これらがどのような性格かはわからず、今後検討すべき課題と言える。</p> <p>弥生時代後期の遺物として特筆すべき点は東京湾沿岸に分布の中心があつた土器が多数平沢遺跡で出土した点が挙げられる。また、軽石が複数出土しており、中には明らかに鋭利な刃物によるものと考えられるキズがある軽石も出土した。</p> <p>中世以降の遺構については構跡が特筆される。a~c地点の調査でも縦横に走る構跡群が検出されたが、その時期を決定する要素に欠けていた。しかし、今回の調査で中世以後と考えられる砥石が2点出土したことから中世以降に位置づけられる可能性が高くなった。</p> <p>土坑については時期を決定できる要素に欠け、詳細な時期について言及することは難しい。</p> <p>他には旧石器時代のナイフ形石器が1点、縄文時代前期～後期にかけての土器片が複数出土した。</p>				

千葉県八千代市 平沢遺跡 e 地点  
—福祉施設建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

---

発 行 日	平成 29 年 3 月 31 日
編 集	八千代市教育委員会 教育総務課
	〒 276-0045 八千代市大和田 138-2
	T E L 047-483-1151(代表)
発 行	社会福祉法人鳳雄会
印 刷	株式会社 山下印刷

---